

2019.03.28 作成

# 北茨城市子ども・子育て支援に関する アンケート調査報告書

平成31年3月

北茨城市

## 目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査方法	1
3	回収結果	1
4	報告書の見方	1
II	調査結果の概要	2
III	調査結果	4
1	居住地区について	4
2	家族の状況について	5
3	子どもの育ちをめぐる環境について	8
4	就労状況について	15
5	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	26
6	地域の子育て支援事業等の利用状況について	34
7	土曜・日曜や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について	47
8	病気の際の対応について	52
9	不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	60
10	放課後の過ごし方について	70
11	育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	86
12	子育てや子どもに関する悩みや不安感などについて	98
13	子育ての楽しさなどについて	100
14	時間の優先度について	101
15	子どもに関する施策について	102
IV	参考資料（調査票）	105
1	就学前児童用調査票（0歳～6歳）	105
2	就学児童用調査票（小学校1年生～6年生）	106

# I 調査概要

## 1 調査目的

平成 27 年 4 月より、新制度「子ども・子育て支援法」が開始し、5 ヶ年計画で「子ども・子育て支援事業計画」が策定されました。この計画では、幼児期の学校教育や保育をはじめとするさまざまな子ども・育ての支援を図ってまいりましたが、本計画も平成 31 年度で終了することから、次期計画（2020 年度～2024 年度）の策定にあたり、子育て家庭の現状や子ども・子育て支援サービスの利用状況を把握し、次期計画を現在の北茨城市の実情やニーズに合うものとするためにアンケートを実施しました。

## 2 調査方法

調査地域	北茨城市全域
調査対象	就学前児童の保護者および小学生の保護者（各 1 世帯 1 票）
標本数	就学前児童の保護者 1,280 票、小学生の保護者 1,490 票
抽出方法	住民基本台帳から上記対象世帯を母集団として系統抽出方法により抽出
調査方法	①就学前児童の保護者 幼稚園（認定こども園）及び保育園（認定こども園）等の在園児は園を通じての配布、回収（一部郵送）。非在園児は郵送による配布、回収。（無記名回答） ②小学生の保護者 小学校を通じて配布、回収（一部郵送）（無記名回答）
調査期間	平成 30 年 12 月 12 日～28 日

## 3 回収結果

	配布数	回収数	回収率
①就学前児童	1,280 票	753 票	58.8%
②就学児童	1,490 票	923 票	61.9%
合計	2,770 票	1,676 票	60.5%

## 4 報告書の見方

- ・回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。小数点第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計が 100.0%を前後することがあります。
- ・複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがあります。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 子どもの育ちをめぐる環境について

日頃みてもらえる親族・知人がいるかについては、就学前児童・就学児童ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」割合が最も多くなっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、就学前児童・就学児童ともに「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」割合が減少しています。

さらに、就学前児童の「いずれもない」では、平成 25 年度調査結果と比較すると 1.0 ポイント増加しており、就学前児童においては孤立した状況での育児がやや増加している傾向にあることが分かります。

### 就労状況について

母親の就労状況は、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が最も多く 30.2%、就学児童では「パート・アルバイト等で職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多く 43.4%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、「フルタイムで職に就いている」では、就学前児童では 7.0 ポイントの増加、就学児童では 11.1 ポイントの増加となっており、フルタイムで働く母親が増加傾向にあることが分かります。

### 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

平日の定期的にご利用している教育・保育の事業は、「幼稚園または幼稚園型認定こども園」が最も多く 54.5%、次いで「保育所または保育所型認定こども園」が 44.6%、「幼稚園または幼稚園型認定こども園の預かり保育」が 6.2%となっています。

また、平日の教育・保育の事業として、現在利用している人を含め、今後定期的にご利用したいと考える事業は、「幼稚園または幼稚園型認定こども園」が最も多く 59.2%、次いで「保育所または保育所型認定こども園」が 46.9%、「幼稚園または幼稚園型認定こども園の預かり保育」が 25.1%となっています。

### 地域の子育て支援事業等の利用状況について

最も認知度が高い事業は「小学校入学時のランドセル配布」が 93.8%、最も利用している事業は「マル福制度の拡充」が 83.9%、今後最も利用したい事業は「マル福制度の拡充」が 80.3%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、最も認知度が上がっている事業は「市立図書館ブックスタート事業」で 14.7 ポイントの増加、最も利用が増えている事業は「市立図書館ブックスタート事業」で 15.2 ポイントの増加、今後最も利用が増える可能性がある事業は「保育所の病後児保育事業」で 5.1 ポイントの増加となっています。

### 病気の際の対応について

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあったときの対処方法は、就学前児童・就学児童ともに「母親が休んだ」が最も多くなっています。

また、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看た人に、その際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについて聞いたところ、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」では、就学前児童が46.7%、就学児童が30.9%となっています。

### 放課後の過ごし方について

小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所は、「自宅」が最も多く52.3%となっていますが、平成25年度調査結果と比較すると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が20.7ポイント増加しています。

また、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所は、「自宅」が最も多く73.1%となっていますが、平成25年度調査結果と比較すると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が13.0ポイント増加しています。

フルタイムで働く母親が増加傾向にあるため、放課後児童クラブ〔学童保育〕への利用希望が増えている結果となっています。

### 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

子どもが生まれた時、母親が育児休業を「取得した（取得中である）」割合は37.6%、父親が育児休業を「取得した（取得中である）」割合は3.5%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、「取得した（取得中である）」割合は、母親が10.9ポイントの増加、父親が2.4ポイントの増加となっており、育児休業の取得が母親・父親ともに増加傾向にあることが分かります。

### 子育ての楽しさなどについて

自分にとって子育ての感じ方は、就学前児童・就学児童ともに「楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい」が最も多くなっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、「楽しいと感じることの方が多し」では、就学前児童・就学児童ともに増加しており、楽しく子育てをしている人が増えていることが分かります。

### 子どもに関する施策について

子育て支援の環境づくりに対する施策について、市が重点的に取り組む必要が高いものは、就学前児童では「安心して妊娠・出産ができる医療体制の整備や小児救急医療などの小児医療の充実」が最も多く66.3%、就学前児童では「小児救急医療など小児医療の充実」が最も多く77.5%となっています。

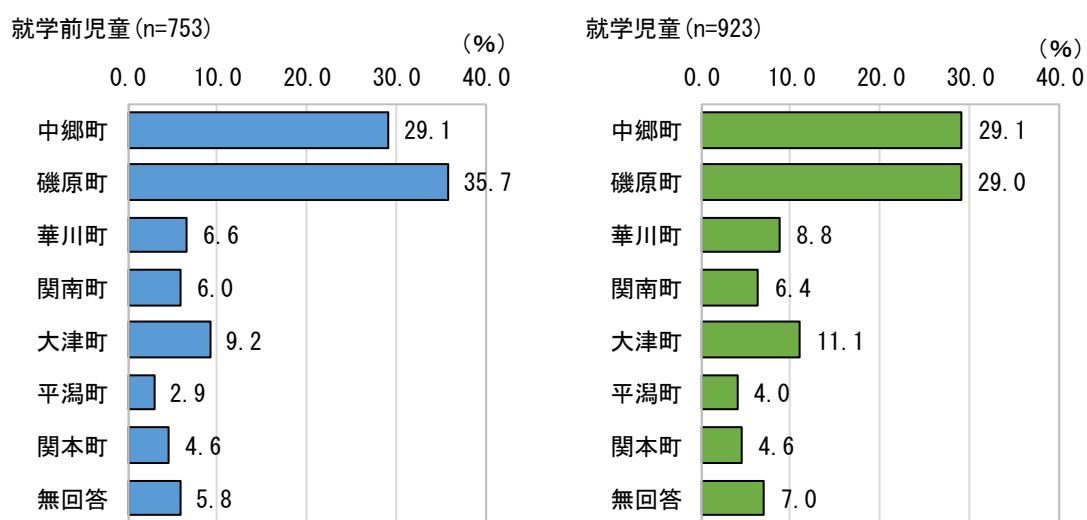
### Ⅲ 調査結果

#### 1 居住地区について

お住まいの地区をご記入ください。

[就学前児童：問1、就学児童：問1]

居住地区は、就学前児童では「磯原町」が最も多く 35.7%、次いで「中郷町」が 29.1%、「大津町」が 9.2%、就学児童では「中郷町」が最も多く 29.1%、次いで「磯原町」が 29.0%、「大津町」が 11.1% となっています。



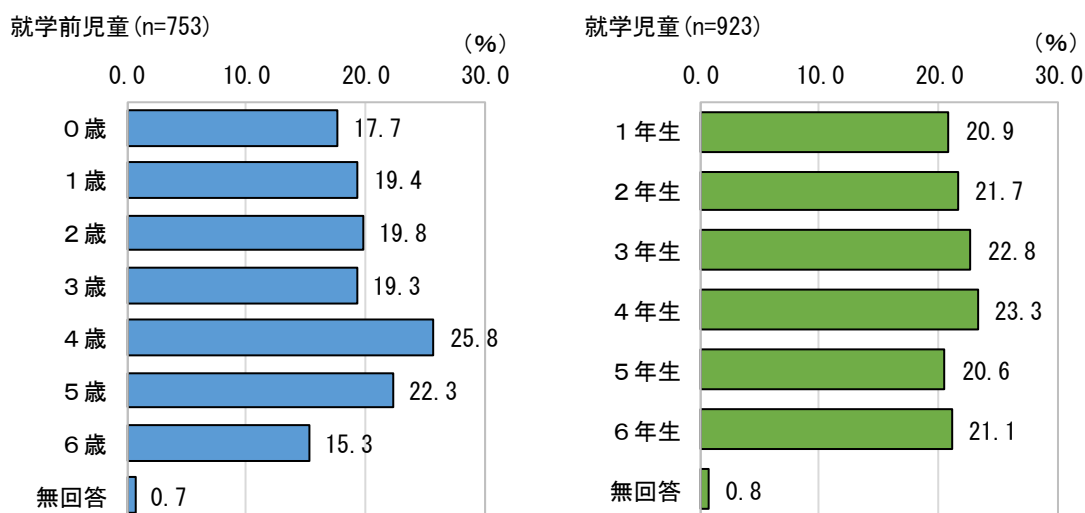
町名	地区名
中郷町	上桜井・下桜井・足洗・小野矢指・汐見ヶ丘・栗野・日棚・松井・石岡
磯原町	内野・大塚・木皿・上相田・豊田・磯原・本町
華川町	臼場・中妻・下相田・車・下小津田・上小津田・小豆畑・花園
関南町	神岡上・神岡下・関本下・仁井田・里根川
大津町	大津町・大津町北町・五浦
平潟町	平潟町
関本町	小川・才丸・富士ヶ丘・八反・関本上・福田・関本中

## 2 家族の状況について

お子さんの生年月月をご記入ください。

〔就学前児童：問2、就学児童：問2〕

就学前児童の年齢は、「4歳」が最も多く25.8%、次いで「5歳」が22.3%、「2歳」が19.8%、就学児童の学年は、「4年生」が最も多く23.3%、次いで「3年生」が22.8%、「2年生」が21.7%となっています。

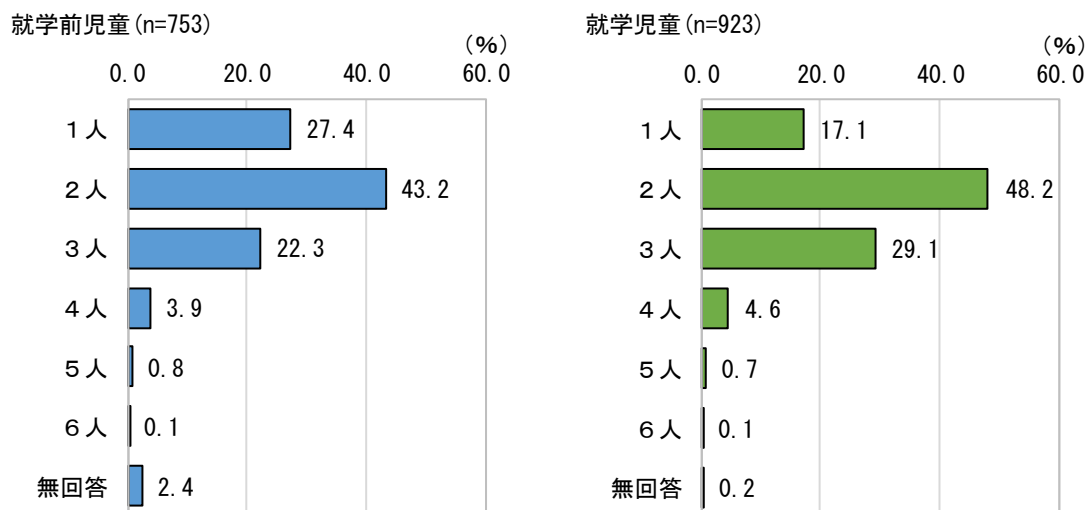


※平成30年10月1日現在

お子さんのきょうだいは何人いますか。

〔就学前児童：問3、就学児童：問3〕

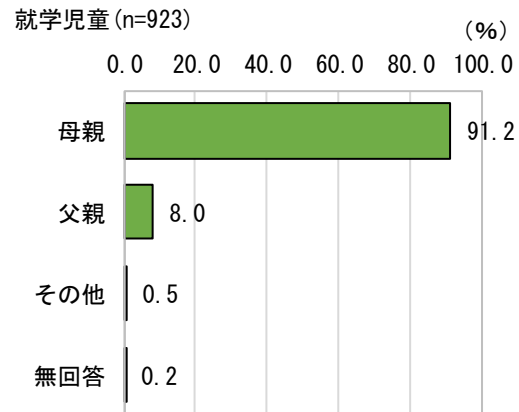
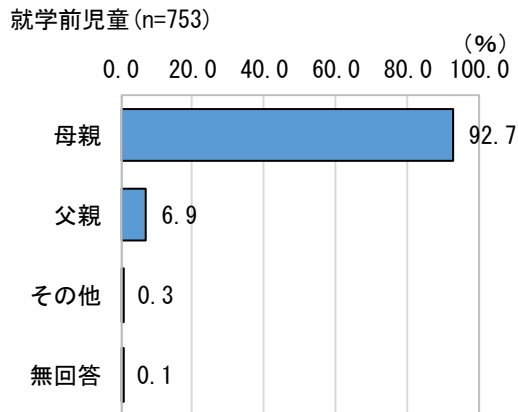
きょうだいの人数は、就学前児童では「2人」が最も多く43.2%、次いで「1人」が27.4%、「3人」が22.3%、就学児童では「2人」が最も多く48.2%、次いで「3人」が29.1%、「1人」が17.1%となっています。



この調査票にご回答いただく方はどなたですか。

[就学前児童：問4、就学児童：問4]

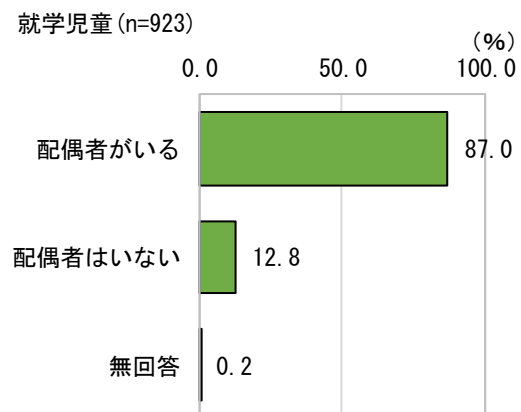
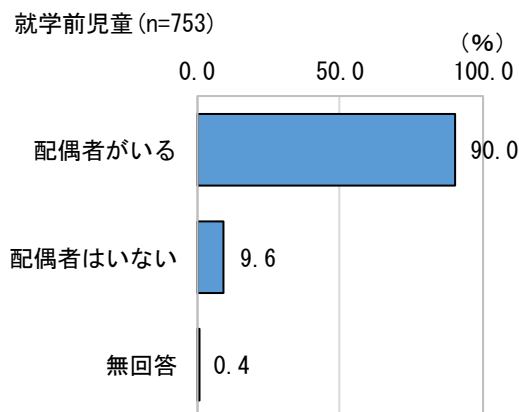
調査票の回答者は、就学前児童は「母親」が92.7%、「父親」が6.9%、就学児童では「母親」が91.2%、「父親」が8.0%となっています。



この調査票に回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

[就学前児童：問5、就学児童：問5]

配偶者関係は、就学前児童では「配偶者がいる」が90.0%、「配偶者はいない」が9.6%、就学児童では「配偶者がいる」が87.0%、「配偶者はいない」が12.8%となっています。

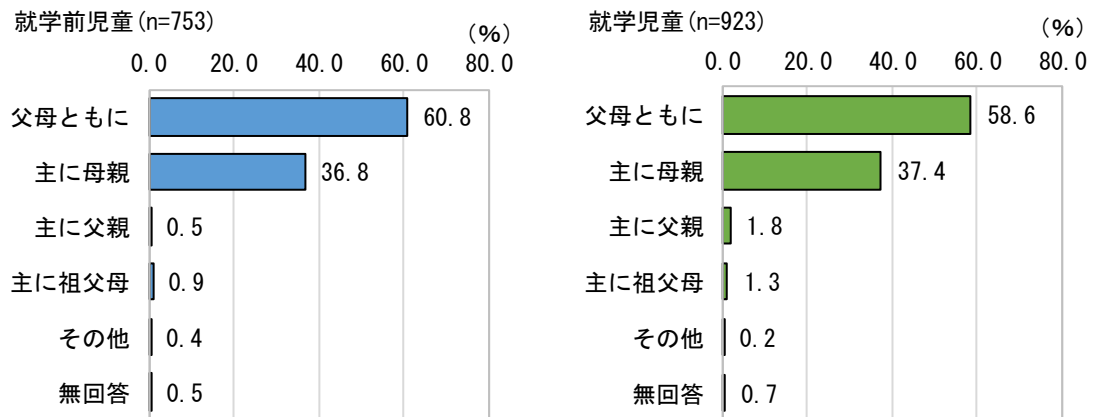




お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。

〔就学前児童：問6、就学児童：問6〕

子育てを主に行っている人は、就学前児童では「父母ともに」が最も多く60.8%、次いで「主に母親」が36.8%、「主に祖父母」が0.9%、就学児童では「父母ともに」が最も多く58.6%、次いで「主に母親」が37.4%、「主に父親」が1.8%となっています。

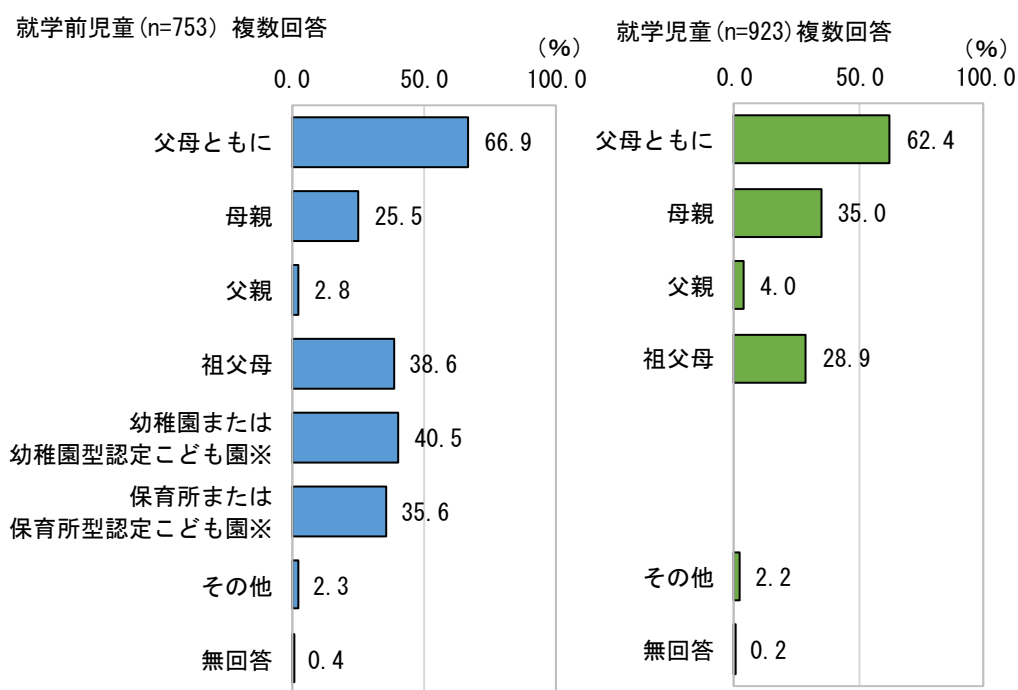


### 3 子どもの育ちをめぐる環境について

お子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。

〔就学前児童：問7、就学児童：問7〕

子育てに日常的に関わっている人（施設）は、就学前児童では「父母ともに」が最も多く 66.9%、次いで「幼稚園または幼稚園型認定こども園」が 40.5%、「祖父母」が 38.6%、就学児童では「父母ともに」が最も多く 62.4%、次いで「母親」が 35.0%、「祖父母」が 28.9%となっています。

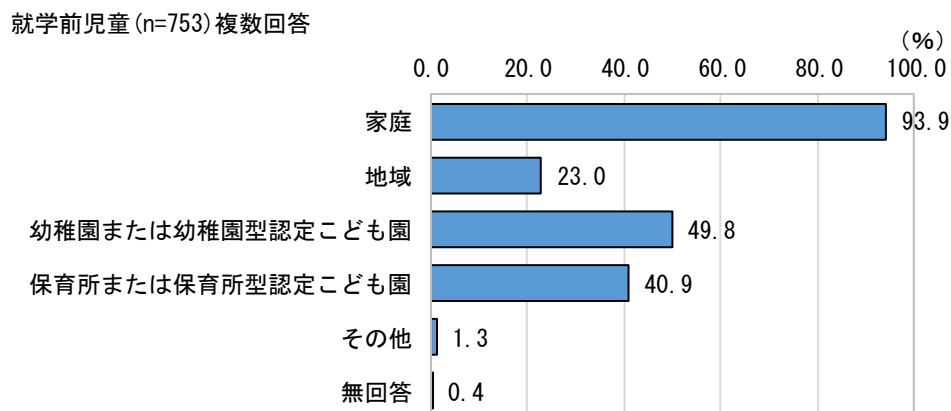


※就学児童には選択肢がありません

お子さんの子育て（教育を含む）に、もっとも影響すると思われる環境についてお答えください。

〔就学前児童：問8〕

子育てに最も影響すると思われる環境は、「家庭」が最も多く 93.9%、次いで「幼稚園または幼稚園型認定こども園」が 49.8%、「保育所または保育所型認定こども園」が 40.9%となっています。

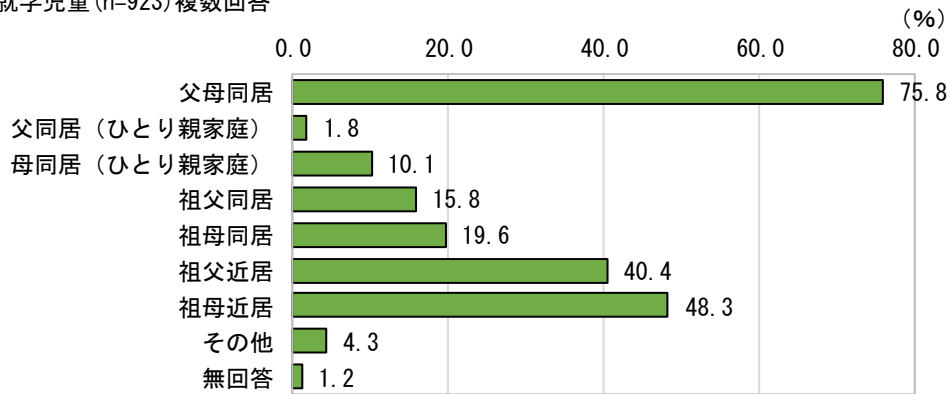


お子さんとの同居・近居（概ね 30 分以内程度に行き来できる範囲）の状況についてお答えください。

〔就学児童：問8〕

同居・近居（概ね 30 分以内程度に行き来できる範囲）の状況は、「父母同居」が最も多く 75.8%、次いで「祖母近居」が 48.3%、「祖父近居」が 40.4%となっています。

就学児童 (n=923) 複数回答



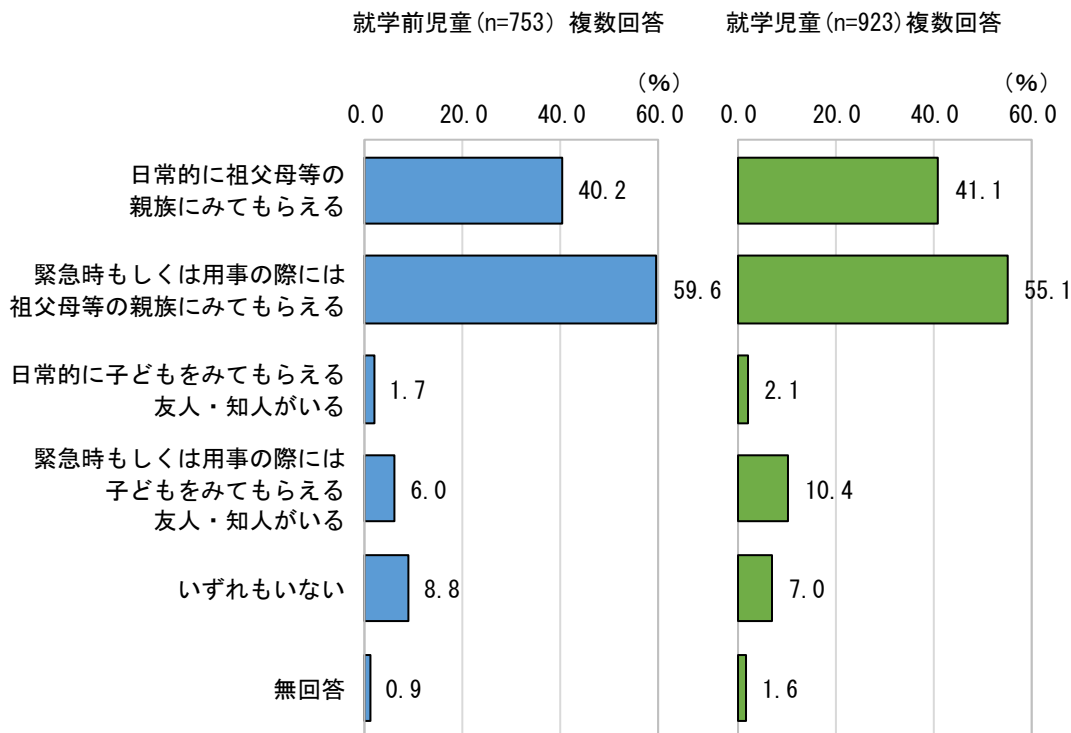
日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。

[就学前児童：問9、就学児童：問9]

日頃みてもらえる親族・知人の有無は、就学前児童では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く 59.6%、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 40.2%、「いずれもない」が 8.8%、就学児童では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く 55.1%、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 41.1%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が 10.4%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、就学前児童・就学児童ともに「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」割合が減少しています。

さらに、就学前児童の「いずれもない」では、平成 25 年度調査結果と比較すると 1.0 ポイント増加しており、就学前児童においては孤立した状況での育児がやや増加している傾向にあることが分かります。



(単位：%)

就学前児童	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもない	無回答
平成25年度 (n=918)	43.0	57.2	1.6	8.2	7.8	-
平成30年度 (n=753)	40.2	59.6	1.7	6.0	8.8	0.9
0歳 (n=133)	45.9	57.9	0.8	3.0	6.8	1.5
1歳 (n=146)	43.8	56.2	0.7	4.8	11.0	0.7
2歳 (n=149)	37.6	66.4	0.0	6.0	6.0	0.7
3歳 (n=145)	50.3	51.0	1.4	8.3	6.2	0.0
4歳 (n=194)	36.6	60.8	3.1	7.2	9.8	1.5
5歳 (n=168)	35.7	70.8	2.4	7.7	3.6	1.2
6歳 (n=115)	40.0	58.3	2.6	7.0	8.7	0.9

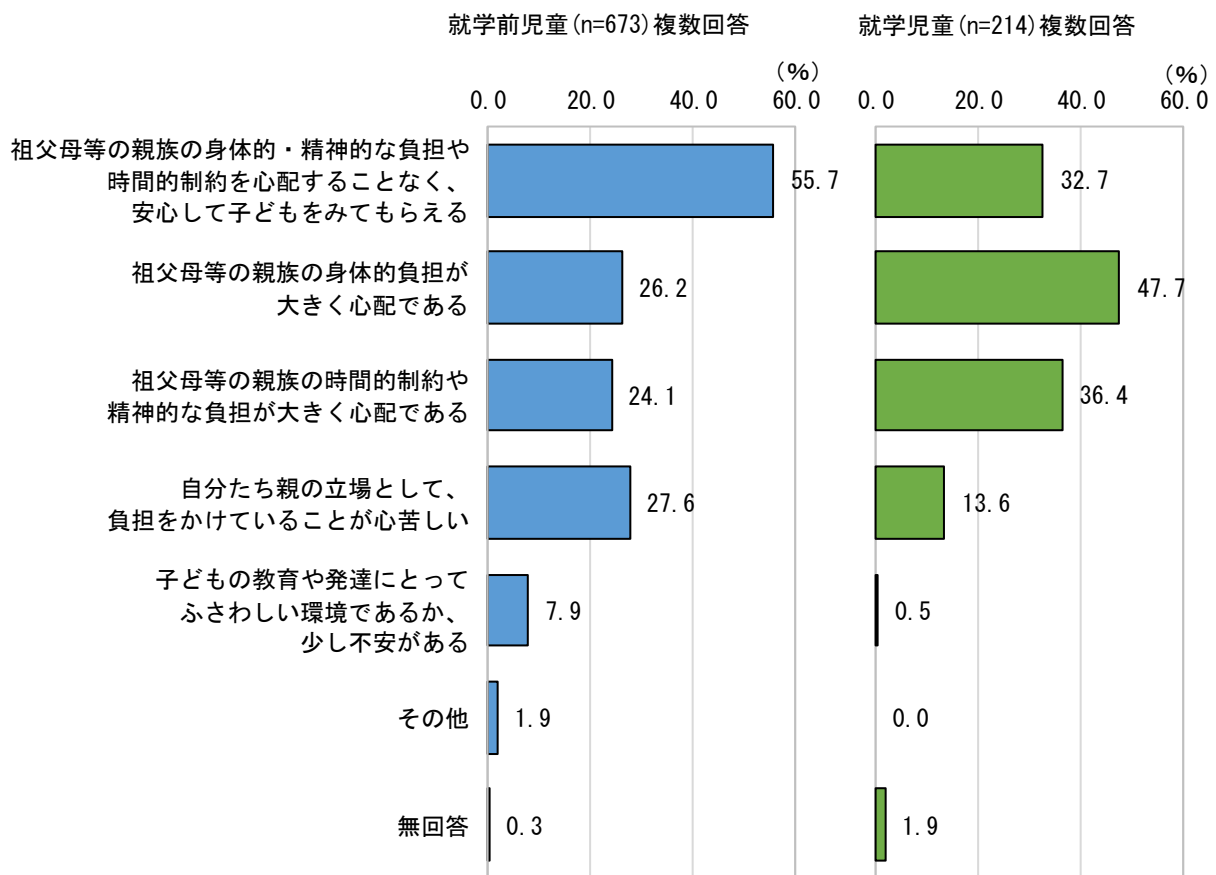
(単位：%)

就学児童	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもない	無回答
平成25年度 (n=1283)	43.1	55.5	3.9	18.1	9.1	-
平成30年度 (n=923)	41.1	55.1	2.1	10.4	7.0	1.6
1年生 (n=193)	34.7	65.3	2.6	8.3	7.3	0.5
2年生 (n=200)	44.0	59.0	2.5	12.5	4.0	0.0
3年生 (n=210)	38.6	56.2	1.4	8.1	8.1	2.4
4年生 (n=215)	44.2	51.6	0.9	9.8	8.8	1.9
5年生 (n=190)	41.6	50.0	2.1	8.9	6.8	2.6
6年生 (n=195)	44.1	54.4	1.5	12.8	5.1	0.5

祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。

[就学前児童：問9-1、就学児童：問9-1]

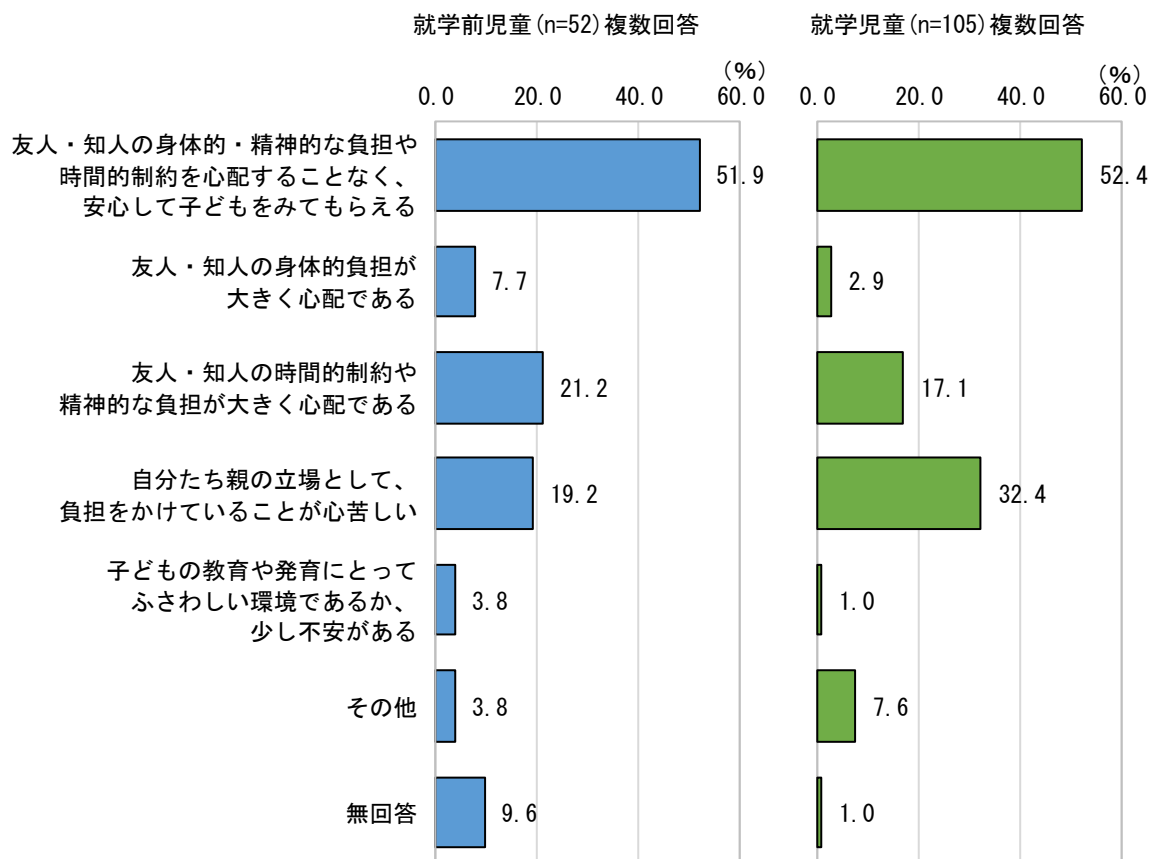
日頃、祖父母等の親族にみてもらえる人に、みてもらっている状況について聞いたところ、就学前児童では「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く 55.7%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 27.6%、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」が 26.2%、就学児童では「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」が最も多く 47.7%、次いで「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 36.4%、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 32.7%となっています。



友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。

[就学前児童：問9-2、就学児童：問9-2]

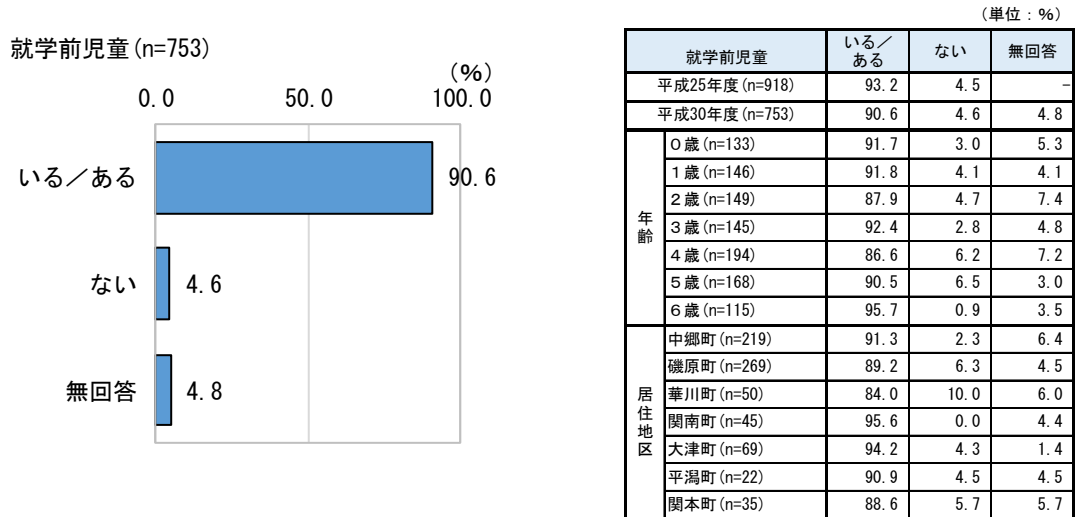
日頃、友人・知人にみてもらえる人に、みてもらっている状況について聞いたところ、就学前児童では「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く 51.9%、次いで「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 21.2%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 19.2%、就学児童では「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く 52.4%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 32.4%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 17.1%となっています。



お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

[就学前児童：問 10]

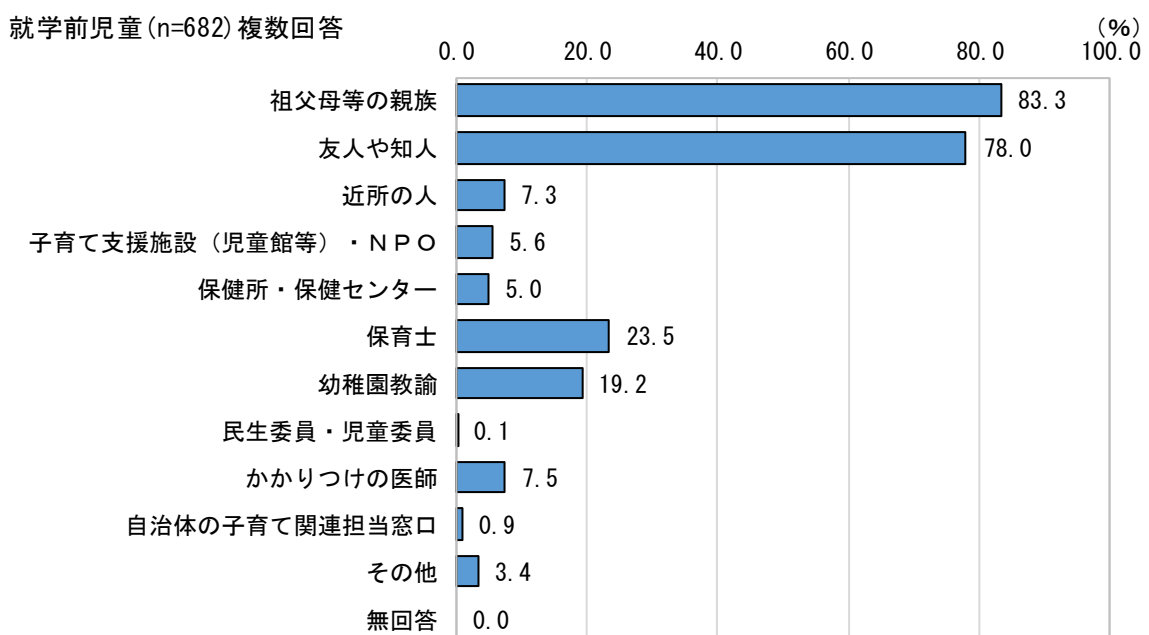
気軽に相談できる人（場所）の有無は、「いる／ある」が90.6%、「ない」が4.6%となっています。また、平成25年度調査結果と比較すると、気軽に相談できる人（場所）がいる（ある）割合は2.6ポイント減少しています。



お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

[就学前児童：問 10-1]

気軽に相談できる人（場所）がいる（ある）人に、相談先について聞いたところ、「祖父母等の親族」が最も多く83.3%、次いで「友人や知人」が78.0%、「保育士」が23.5%となっています。



子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。

〔就学前児童：問 11〕

自由記入形式により 171 人から 188 件の意見を得ました。内容は以下のとおりです。

	件数
急な時でも安心して子どもを預けられる場所がほしい	42
子どもが病気になったときに対応してくれる施設がほしい	22
気軽に相談できる場所がほしい	19
金銭面で支援してほしい	17
子どもの送り迎えをしてほしい	10
必要な情報を教えてほしい	9
安心して子どもが遊べる場所がほしい	9
子育てに関する専門的なアドバイスがほしい	9
交流できるような場所がほしい	6
自宅で子どもの面倒をみてほしい	4
声をかけてほしい	4
その他	37
合計	188



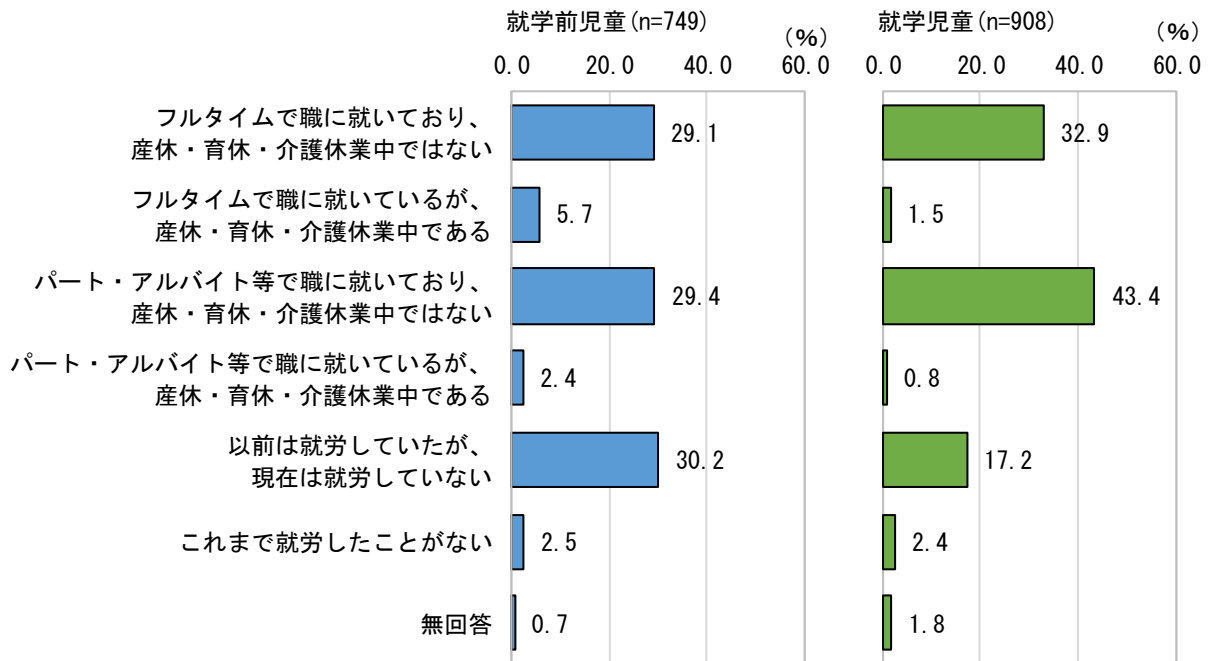
## 4 就労状況について

母親の就労状況と就労時間をお答えください。

〔就学前児童：問12、就学児童：問10〕

母親の就労状況は、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が最も多く 30.2%、次いで「パート・アルバイト等で職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない」が 29.4%、「フルタイムで職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない」が 29.1%、就学児童では「パート・アルバイト等で職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多く 43.4%、「フルタイムで職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない」が 32.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 17.2%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、「フルタイムで職に就いている」では、就学前児童では7.0ポイントの増加、就学児童では11.1ポイントの増加となっており、フルタイムで働く母親が増加傾向にあることが分かります。



(単位：%)

(単位：%)

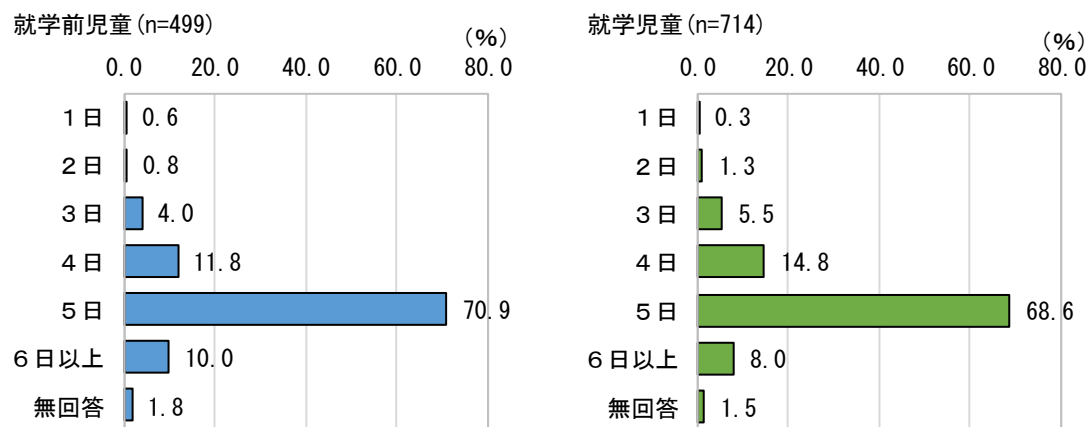
年齢	就学前児童 (n=749)							就学児童 (n=908)						
	フルタイムで職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで職に就いているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で職に就いているが、産休・育休・介護休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答	フルタイムで職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで職に就いているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で職に就いており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で職に就いているが、産休・育休・介護休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
平成25年度 (n=918)	24.3	3.5	25.4	1.0	39.4	4.9	-	22.8	0.6	43.6	0.8	23.8	4.2	-
平成30年度 (n=749)	29.1	5.7	29.4	2.4	30.2	2.5	0.7	32.9	1.5	43.4	0.8	17.2	2.4	1.8
0歳 (n=133)	12.8	27.8	5.3	10.5	42.9	0.8	0.0	30.4	2.1	43.5	0.5	19.9	2.1	1.6
1歳 (n=146)	38.4	3.4	19.9	0.7	34.9	2.1	0.7	31.6	1.5	48.5	1.0	14.3	2.6	0.5
2歳 (n=149)	24.8	4.7	27.5	2.0	36.9	4.0	0.0	33.5	1.5	39.8	0.5	20.4	1.5	2.9
3歳 (n=145)	31.7	4.8	25.5	4.1	31.0	1.4	1.4	35.2	1.4	41.4	1.0	15.2	3.8	1.9
4歳 (n=194)	28.4	3.6	36.1	2.6	27.3	2.1	0.0	30.2	1.1	48.7	0.5	15.9	3.2	0.5
5歳 (n=165)	27.3	2.4	40.6	2.4	23.6	3.0	0.6	30.2	0.5	46.9	1.0	17.7	1.6	2.1

※フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度の就労

※パート・アルバイト等：フルタイム以外の就労

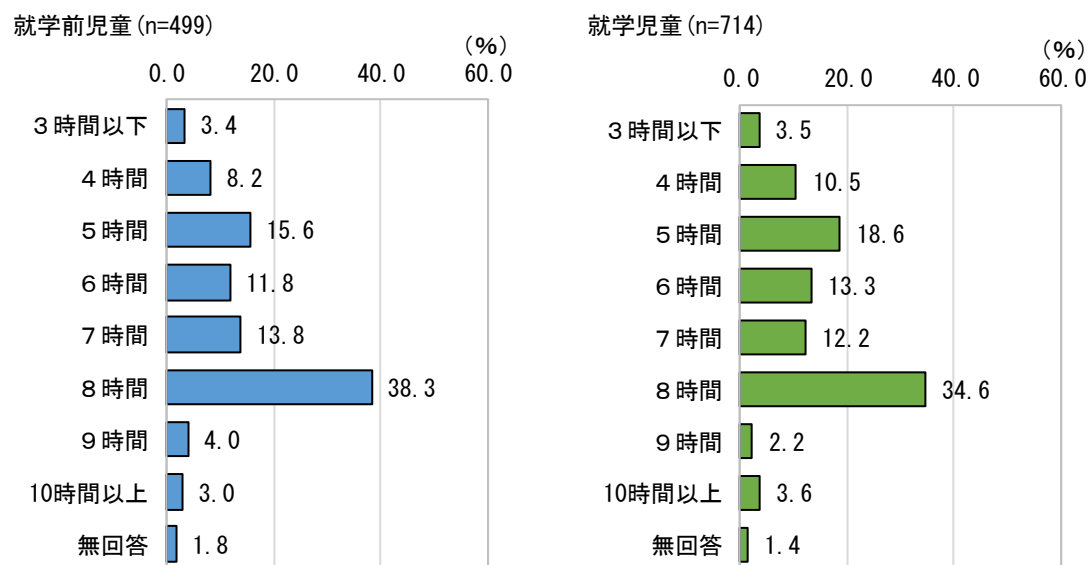
就労している母親に、1週当たりの就労日数について聞いたところ、就学前児童では「5日」が最も多く70.9%、次いで「4日」が11.8%、「6日以上」が10.0%、就学児童では「5日」が最も多く68.6%、次いで「4日」が14.8%、「6日以上」が8.0%となっています。

### 1週当たりの就労日数



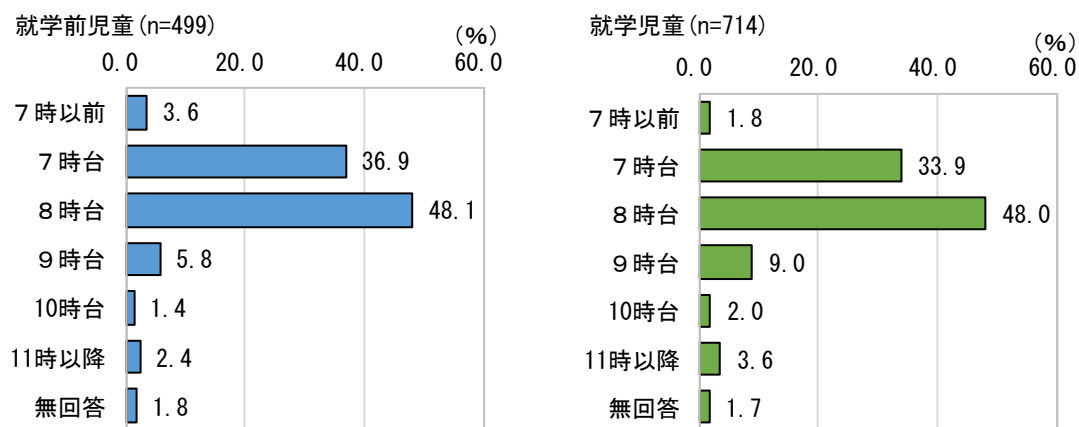
就労している母親に、1日当たりの就労時間について聞いたところ、就学前児童では「8時間」が最も多く38.3%、次いで「5時間」が15.6%、「7時間」が13.8%、就学児童では「8時間」が最も多く34.6%、次いで「5時間」が18.6%、「6時間」が13.3%となっています。

### 1日当たりの就労時間



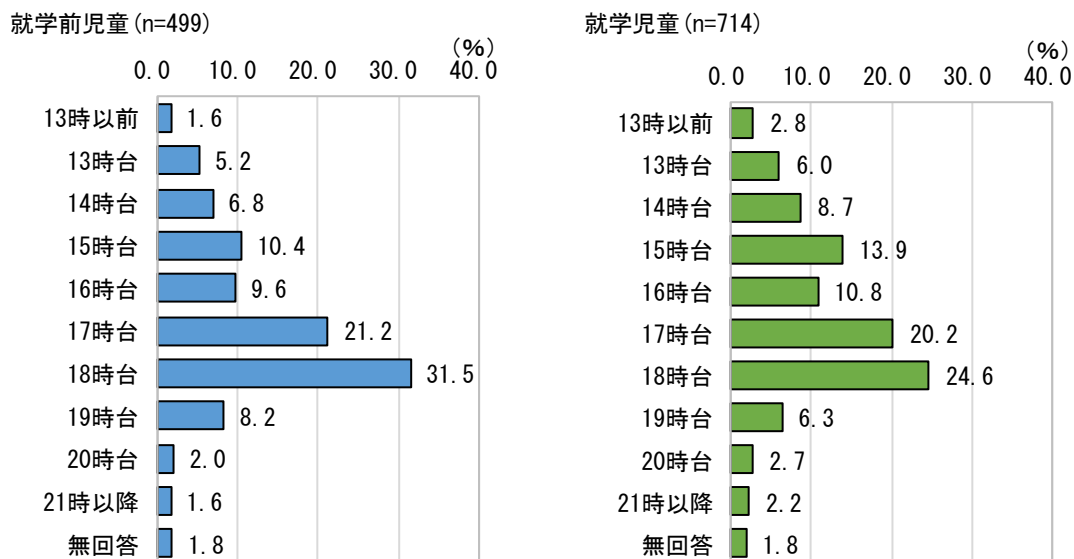
就労している母親に、家を出る時間について聞いたところ、就学前児童では「8時台」が最も多く48.1%、次いで「7時台」が36.9%、「9時台」が5.8%、就学児童では「8時台」が最も多く48.0%、次いで「7時台」が33.9%、「9時台」が9.0%となっています。

### 家を出る時間



就労している母親に、帰宅時間について聞いたところ、就学前児童では「18時台」が最も多く31.5%、次いで「17時台」が21.2%、「15時台」が10.4%、就学児童では「18時台」が最も多く24.6%、次いで「17時台」が20.2%、「15時台」が13.9%となっています。

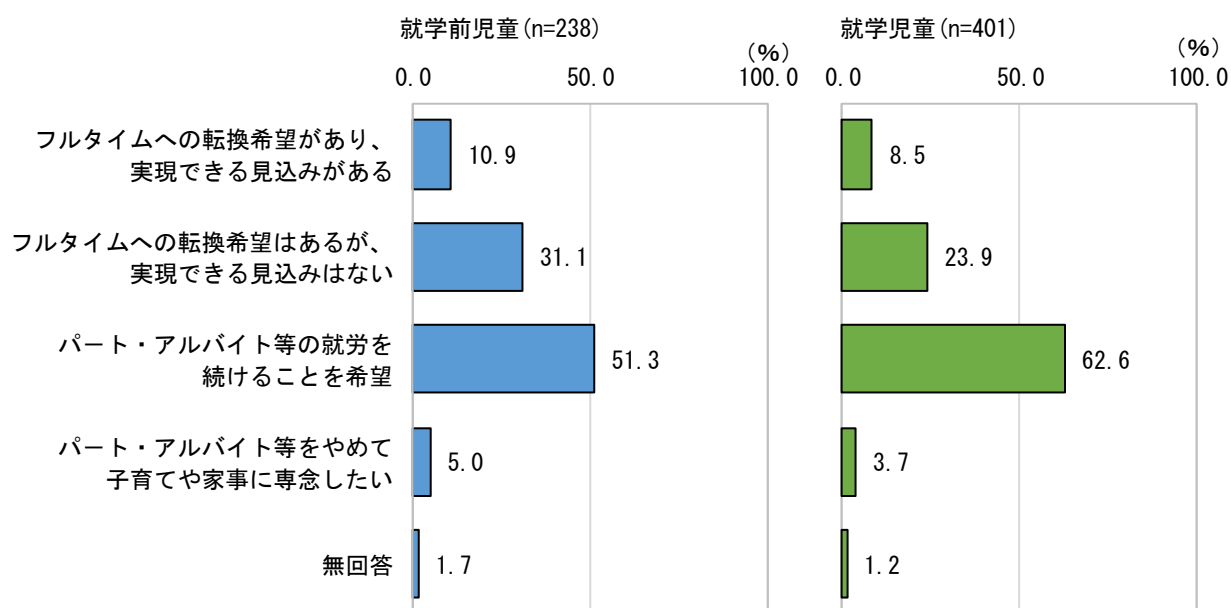
### 帰宅時間



母親はフルタイムへの転換希望がありますか。

〔就学前児童：問12-1、就学児童：問10-1〕

パート・アルバイト等で就労している母親に、フルタイムへの転換希望について聞いたところ、就学前児童では「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が最も多く 51.3%、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 31.1%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 10.9%、就学児童では「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が最も多く 62.6%、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 23.9%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 8.5%となっています。



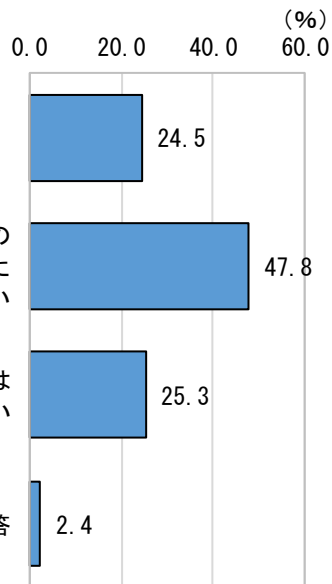
母親は就労したいという希望はありますか。

〔就学前児童：問12-2、就学児童：問10-2〕

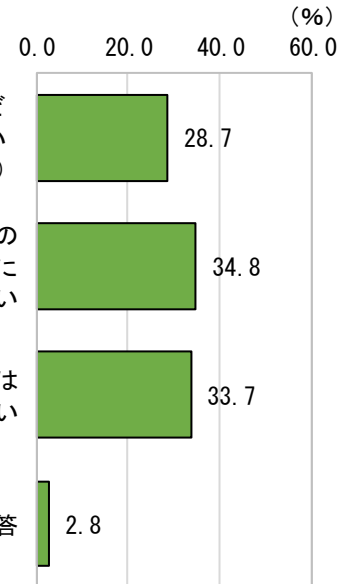
就労していない母親に、就労希望について聞いたところ、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」が最も多く47.8%、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が25.3%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が24.5%、就学児童では「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」が最も多く34.8%、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が33.7%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が28.7%となっています。

また、1年より先に就労したいと考えている母親に、一番下の子どもが何歳になったところに就労したいかについて聞いたところ、就学前児童では「3歳」が最も多く29.1%、就学児童では「12歳以上」が最も多く29.0%となっています。

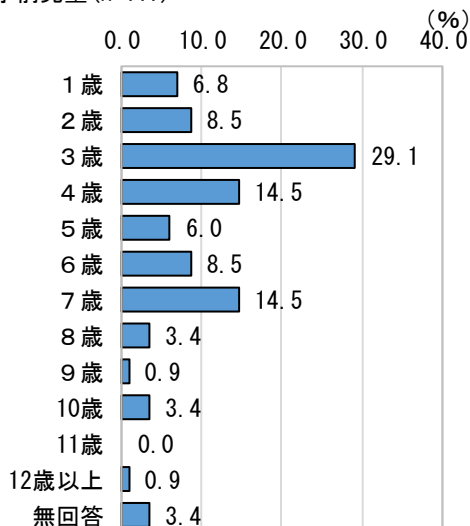
就学前児童 (n=245)



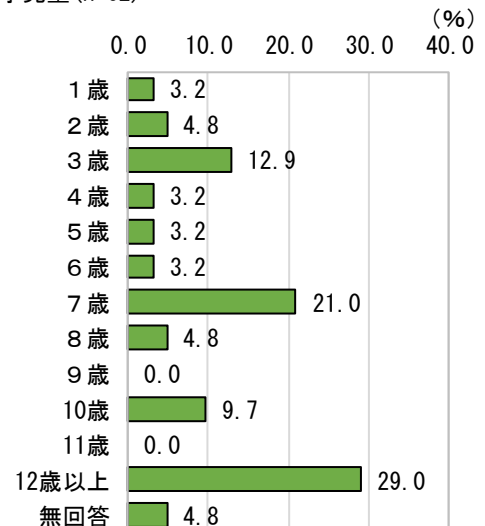
就学児童 (n=178)



→ 就学前児童 (n=117)

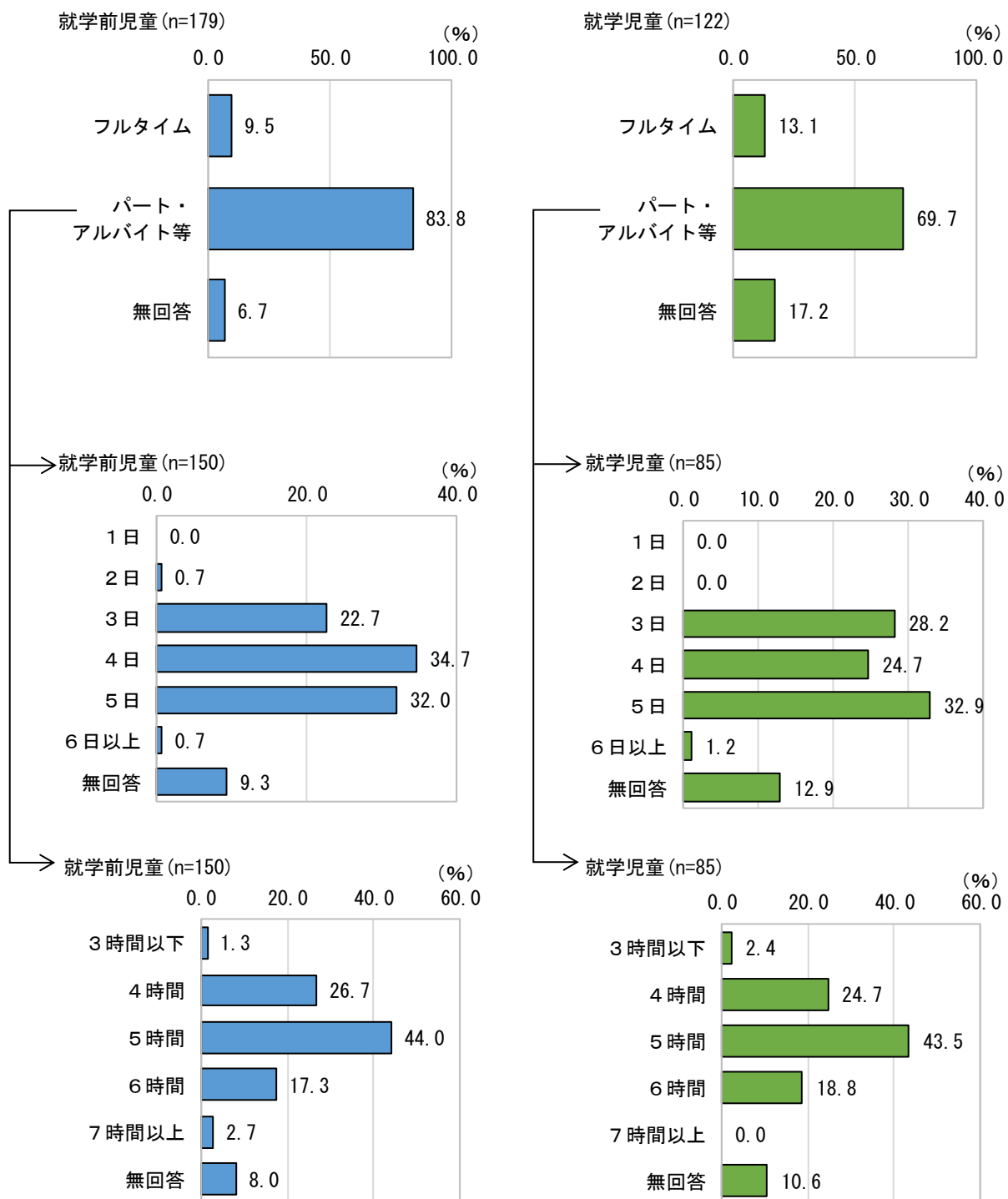


→ 就学児童 (n=62)



就労希望のある母親に、希望する就労形態について聞いたところ、就学前児童では「フルタイム」が9.5%、「パート・アルバイト等」が83.8%、就学児童では「フルタイム」が13.1%、「パート・アルバイト等」が69.7%となっています。

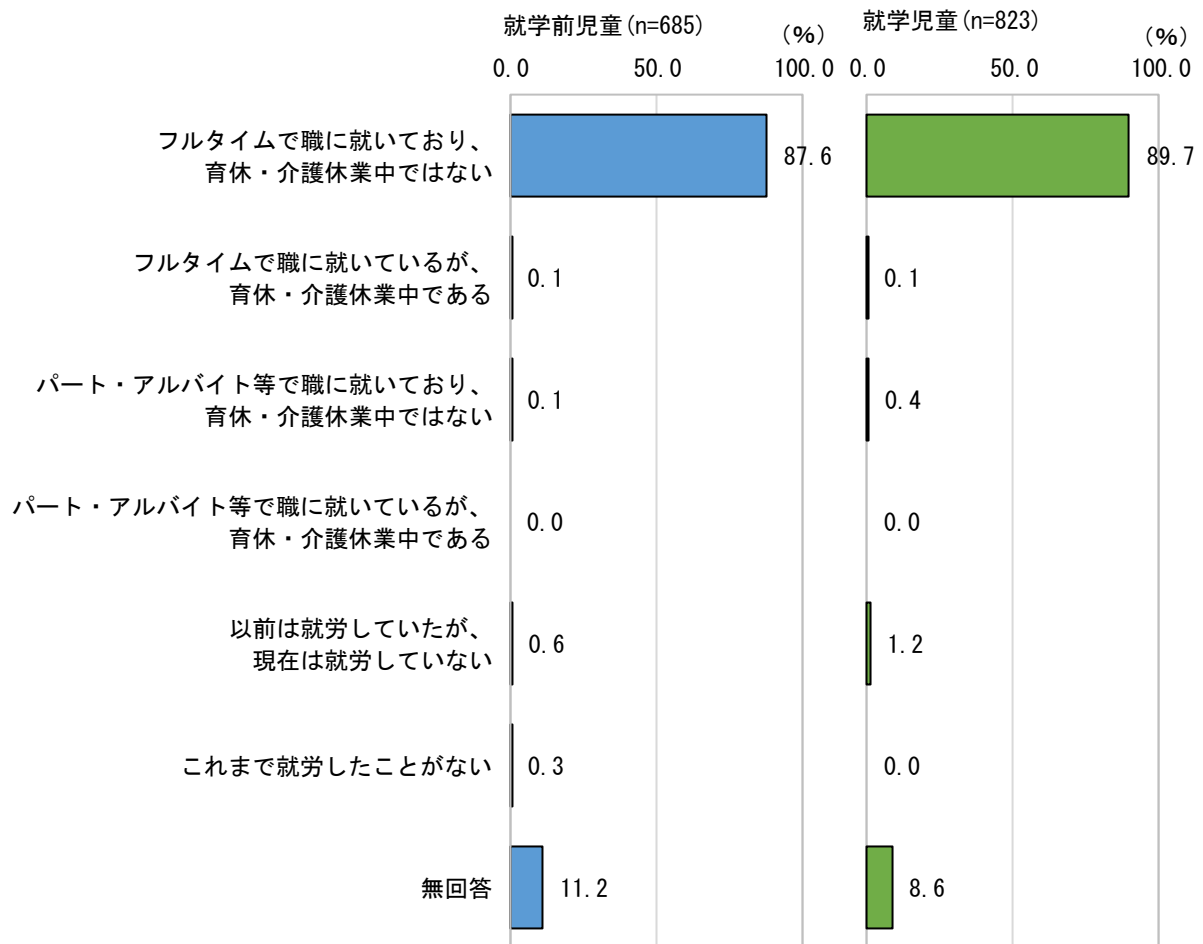
また、パート・アルバイト等の就労を希望する母親に、就労日数及び時間について聞いたところ、就学前児童では、1週当たりの就労日数は「4日」で、1日当たりの就労時間は「5時間」が最も多く、就学児童では、1週当たりの就労日数は「5日」で、1日当たりの就労時間は「5時間」が最も多くなっています。



父親の就労状況と就労時間をお答えください。

[就学前児童：問13、就学児童：問11]

父親の就労状況は、就学前児童では「フルタイムで職に就いており、育休・介護休業中ではない」が最も多く 87.6%、就学児童では「フルタイムで職に就いており、育休・介護休業中ではない」が最も多く 89.7%となっています。

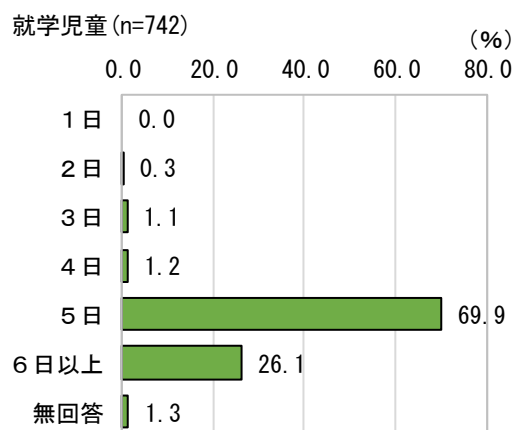
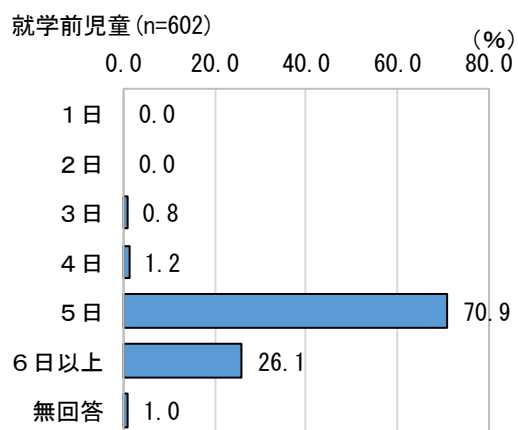


※フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度の就労

※パート・アルバイト等：フルタイム以外の就労

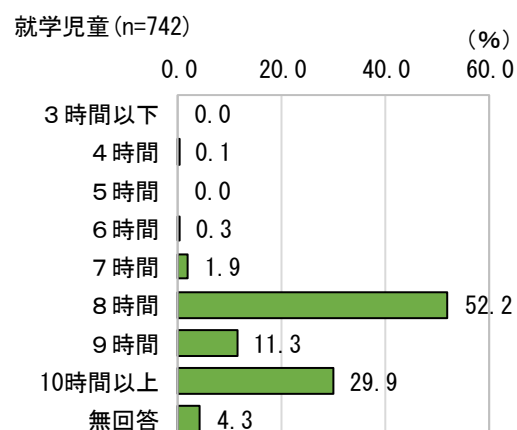
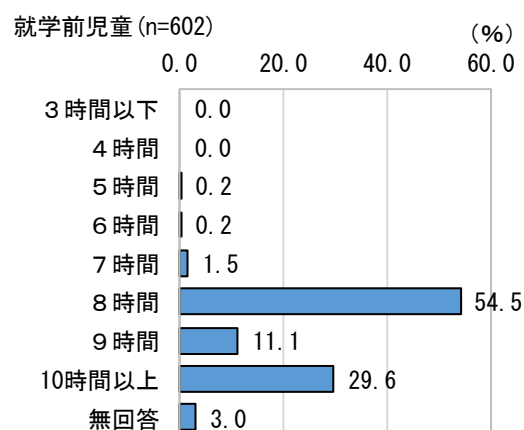
就労している父親に、1週当たりの就労日数について聞いたところ、就学前児童では「5日」が最も多く70.9%、次いで「6日以上」が26.1%、「4日」が1.2%、就学児童では「5日」が最も多く69.9%、次いで「6日以上」が26.1%、「4日」が1.2%となっています。

### 1週当たりの就労日数



就労している父親に、1日当たりの就労時間について聞いたところ、就学前児童では「8時間」が最も多く54.5%、次いで「10時間以上」が29.6%、「9時間」が11.1%、就学児童では「8時間」が最も多く52.2%、次いで「10時間以上」が29.9%、「9時間」が11.3%となっています。

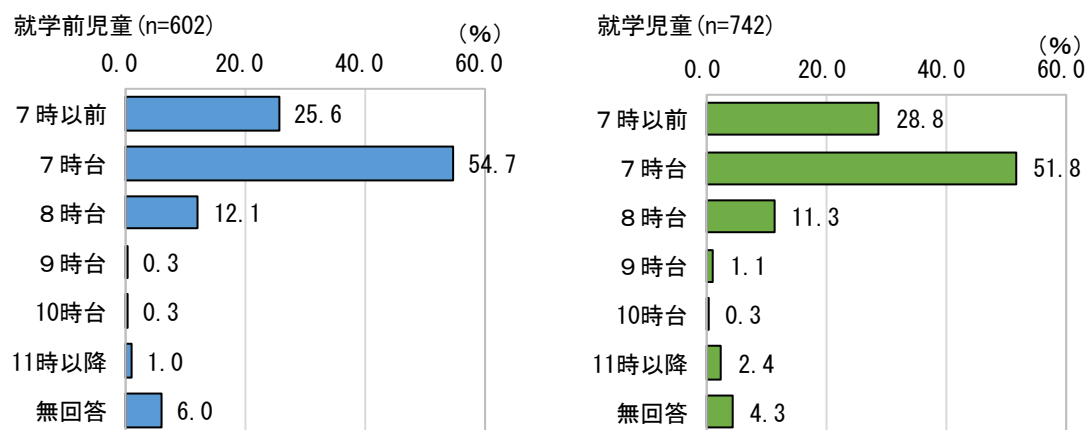
### 1日当たりの就労時間





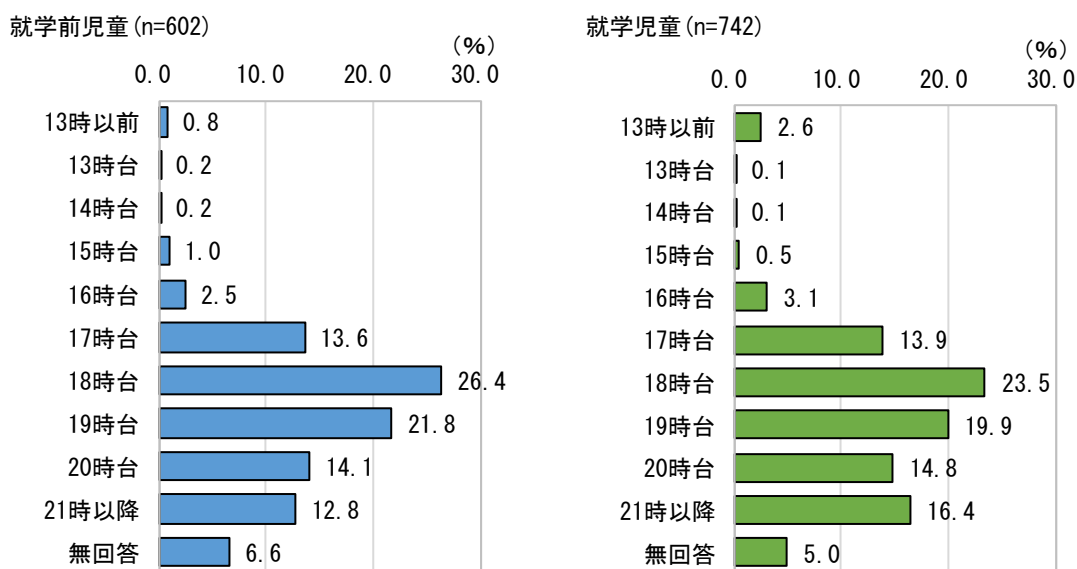
就労している父親に、家を出る時間について聞いたところ、就学前児童では「7時台」が最も多く54.7%、次いで「7時以前」が25.6%、「8時台」が12.1%、就学児童では「7時台」が最も多く51.8%、次いで「7時以前」が28.8%、「8時台」が11.3%となっています。

### 家を出る時間



就労している父親に、帰宅時間について聞いたところ、就学前児童では「18時台」が最も多く26.4%、次いで「19時台」が21.8%、「20時台」が14.1%、就学児童では「18時台」が最も多く23.5%、次いで「19時台」が19.9%、「21時以降」が16.4%となっています。

### 帰宅時間



父親はフルタイムへの転換希望がありますか。

〔就学前児童：問13-1、就学児童：問11-1〕

パート・アルバイト等で就労している父親（就学前児童が1人、就学児童が3人）に、フルタイムへの転換希望について聞いたところ、就学前児童では「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が1人、就学児童では「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が1人、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が1人となっています。

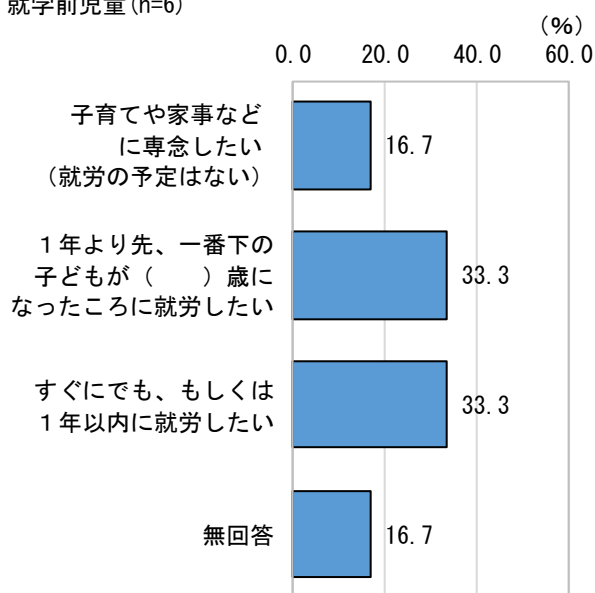
父親は就労したいという希望がありますか。

〔就学前児童：問13-2、就学児童：問11-2〕

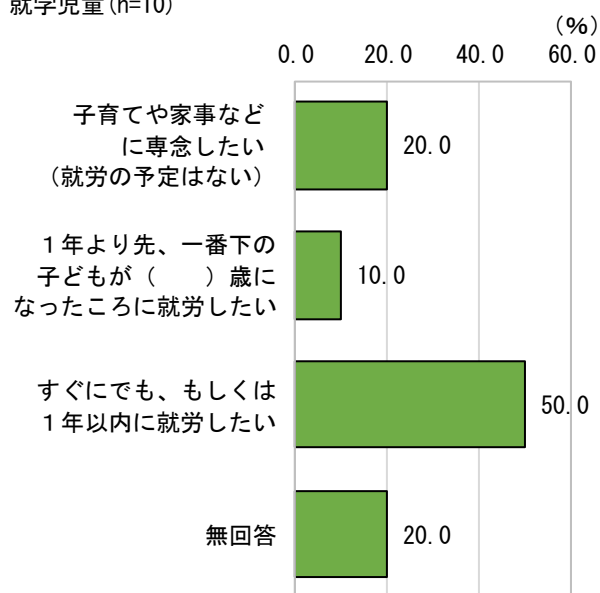
就労していない父親に、就労希望について聞いたところ、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」がそれぞれ最も多く33.3%、就学児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が最も多く50.0%となっています。

また、1年より先に就労したいと考えている父親（就学前児童が1人、就学児童が1人）に、一番下の子どもが何歳になったところに就労したいかについて聞いたところ、就学前児童では「7歳」が1人、就学児童では「13歳」が1人となっています。

就学前児童 (n=6)

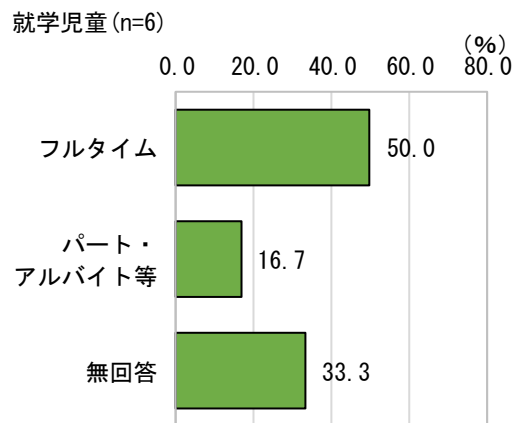
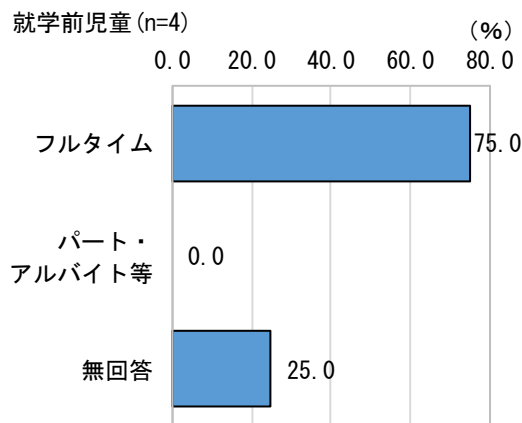


就学児童 (n=10)



就労希望のある父親に、希望する就労形態について聞いたところ、就学前児童では「フルタイム」が75.0%、就学児童では「フルタイム」が50.0%、「パート・アルバイト等」が16.7%となっています。

また、パート・アルバイト等の就労を希望する父親は、就学前児童が0人、就学児童が1人となっています。



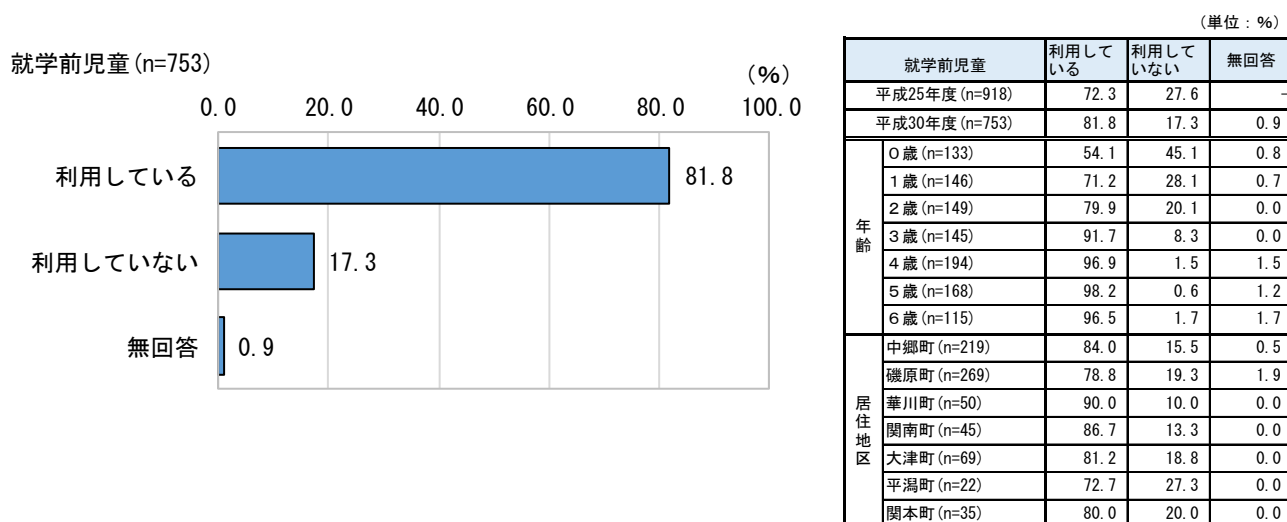
## 5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

お子さんは現在、保育所や幼稚園、認定こども園などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。

〔就学前児童：問 14〕

定期的な教育・保育の事業の利用状況は、「利用している」が81.8%、「利用していない」が17.3%となっています。

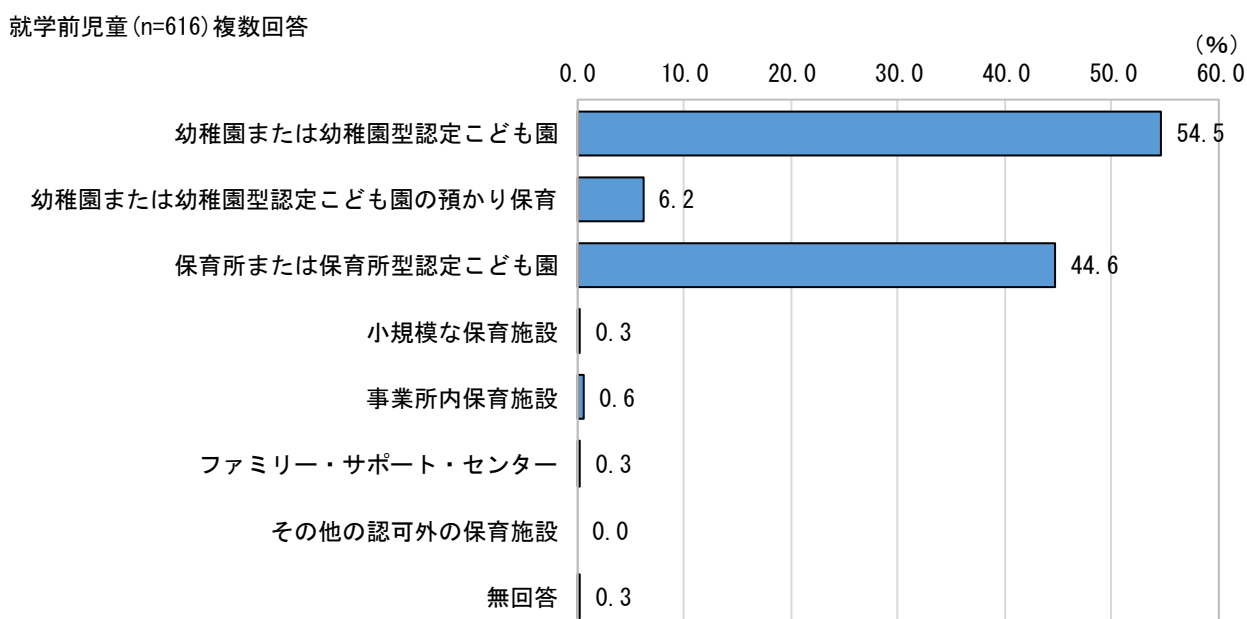
また、平成25年度調査結果と比較すると、「利用している」割合は9.5ポイント増加しています。



お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。

〔就学前児童：問 14-1〕

定期的な教育・保育の事業の利用している人に、利用している事業について聞いたところ、「幼稚園または幼稚園型認定こども園」が最も多く54.5%、次いで「保育所または保育所型認定こども園」が44.6%、「幼稚園または幼稚園型認定こども園の預かり保育」が6.2%となっています。



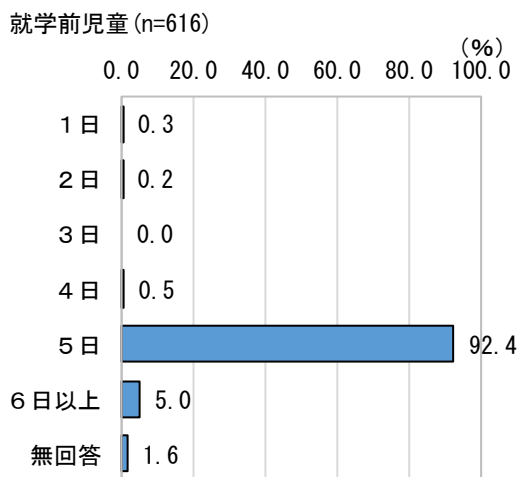
平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。

[就学前児童：問 14-2]

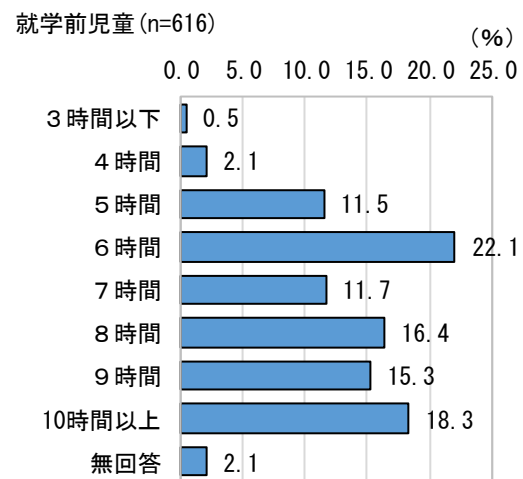
### (1) 現在

定期的な教育・保育の事業の利用している人に、現在の利用頻度について聞いたところ、1週当たりの日数は「5日」が最も多く92.4%、1日当たりの時間は「6時間」が最も多く22.1%、開始時刻は「8時台」が最も多く48.5%、終了時刻は「14時台」が最も多く20.8%となっています。

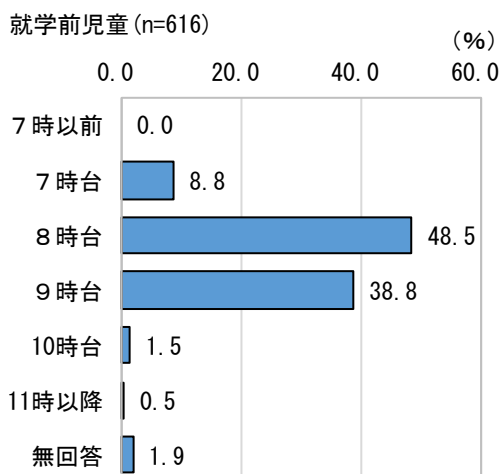
#### 1週当たり日数



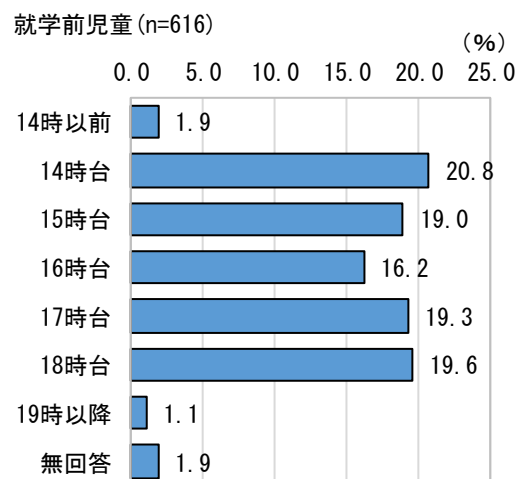
#### 1日当たり時間



#### 開始時刻



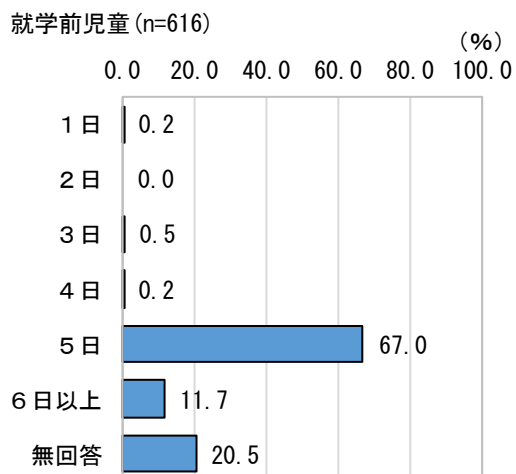
#### 終了時刻



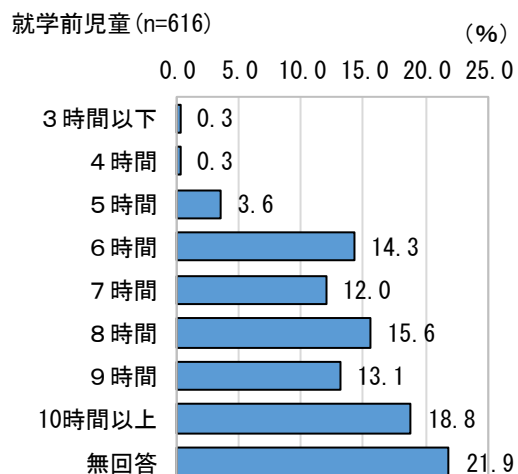
## (2) 希望

定期的な教育・保育の事業の利用している人に、希望の利用頻度について聞いたところ、1週当たり日数は「5日」が最も多く67.0%、1日当たり時間は「10時間以上」が最も多く18.8%、開始時刻は「8時台」が最も多く39.6%、終了時刻は「18時台」が最も多く18.3%となっています。

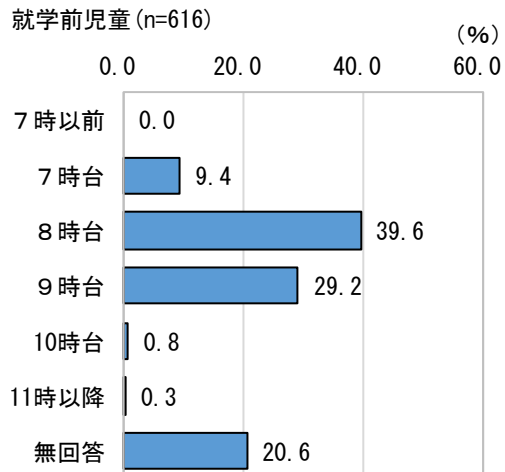
### 1週当たり日数



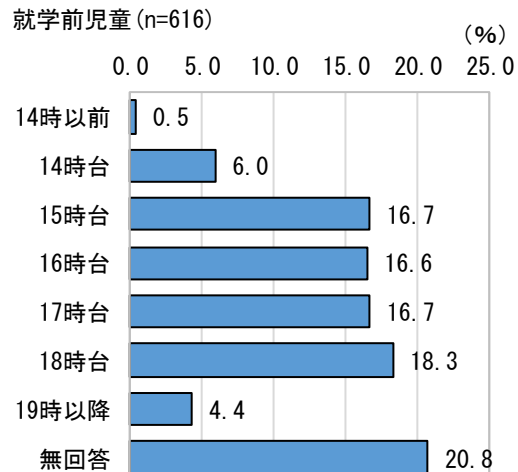
### 1日当たり時間



### 開始時刻



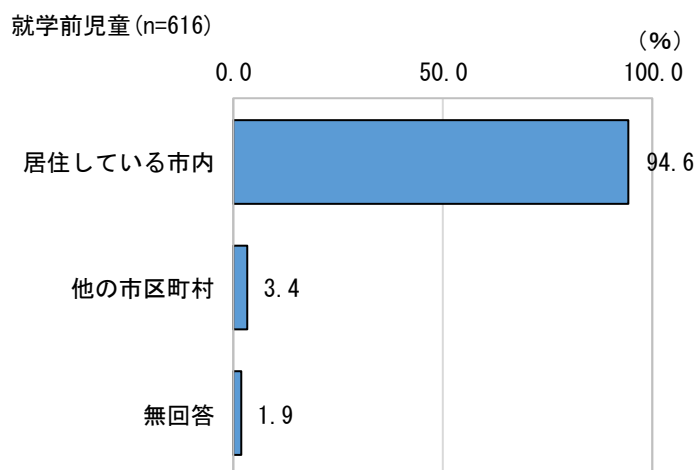
### 終了時刻



現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてお答えください。

〔就学前児童：問 14-3〕

定期的な教育・保育の事業の利用している人に、現在、利用している教育・保育事業の実施場所について聞いたところ、「居住している市内」が 94.6%、「他の市区町村」が 3.4%となっています。

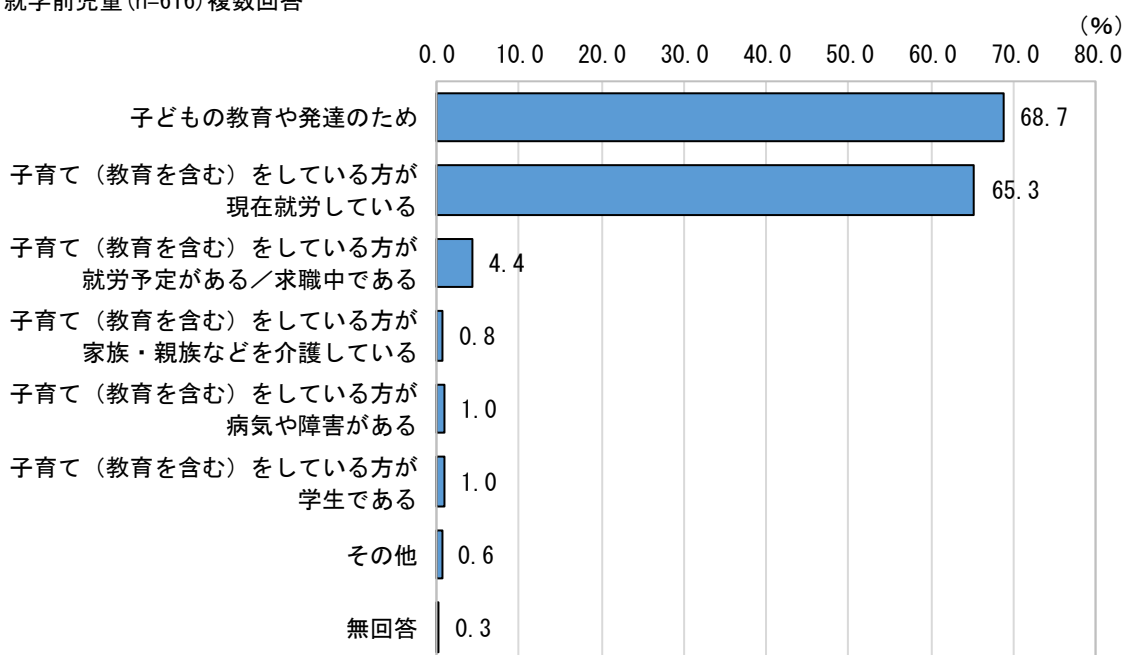


平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてお答えください

〔就学前児童：問 14-4〕

定期的な教育・保育の事業の利用している人に、利用されている理由について聞いたところ、「子どもの教育や発達のため」が最も多く 68.7%、次いで「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が 65.3%、「子育て（教育を含む）をしている方が就労予定がある／求職中である」が 4.4%となっています。

就学前児童 (n=616) 複数回答



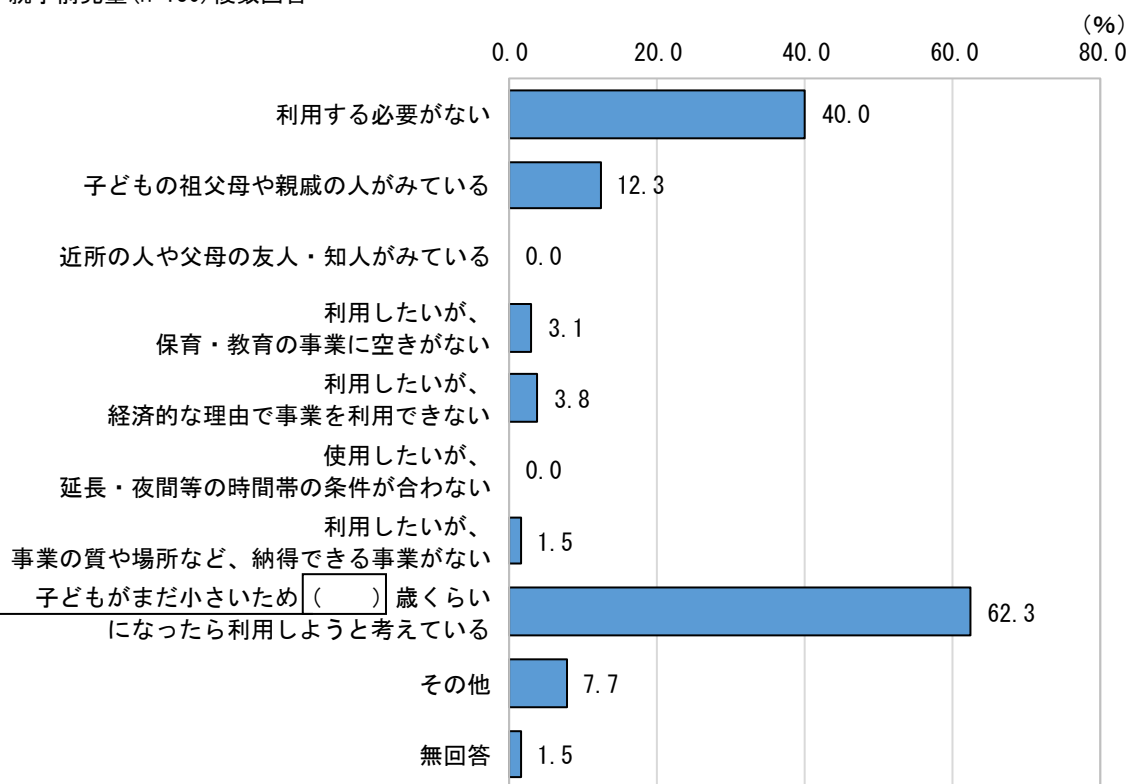
平日に定期的に教育・保育の事業を利用していない理由は何ですか。

〔就学前児童：問 14-5〕

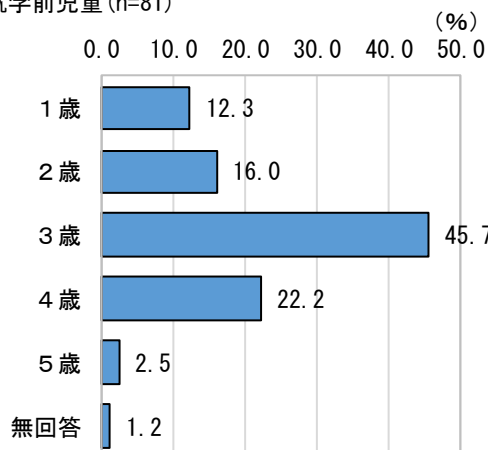
定期的な教育・保育の事業の利用していない人に、利用していない理由について聞いたところ、「子どもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている」が最も多く 62.3%、次いで「利用する必要がある」が 40.0%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」が 12.3%となっています。

また、子どもがまだ小さいため利用していない人に、何歳くらいになったら利用しようと考えているかについて聞いたところ、「3歳」が最も多く 45.7%、次いで「4歳」が 22.2%、「2歳」が 16.0%となっています。

就学前児童(n=130)複数回答



就学前児童(n=81)



※利用する必要がある理由は、子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなど

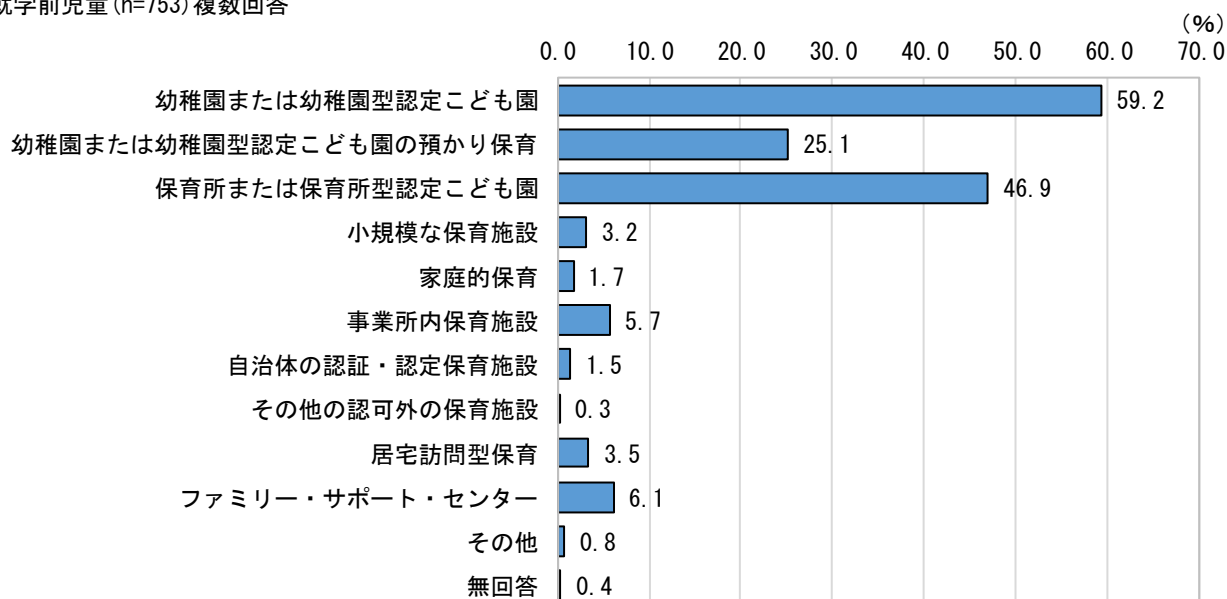


現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。

[就学前児童：問 15]

平日の教育・保育の事業として、現在利用している人を含め、今後定期的に利用したいと考える事業は、「幼稚園または幼稚園型認定こども園」が最も多く 59.2%、次いで「保育所または保育所型認定こども園」が 46.9%、「幼稚園または幼稚園型認定こども園の預かり保育」が 25.1%となっています。

就学前児童 (n=753) 複数回答



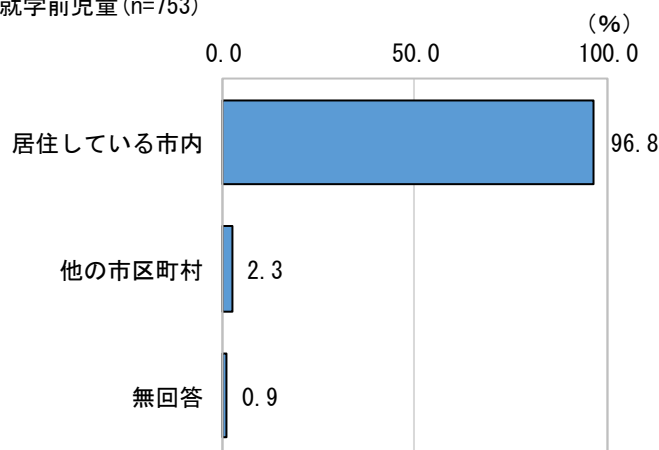
教育・保育事業を利用したい場所についてお答えください。

[就学前児童：問 15-1]

教育・保育事業を利用したい場所は、「居住している市内」が 96.8%、「他の市区町村」が 2.3%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、「居住している市内」の割合が 3.1 ポイント増加しています。

就学前児童 (n=753)



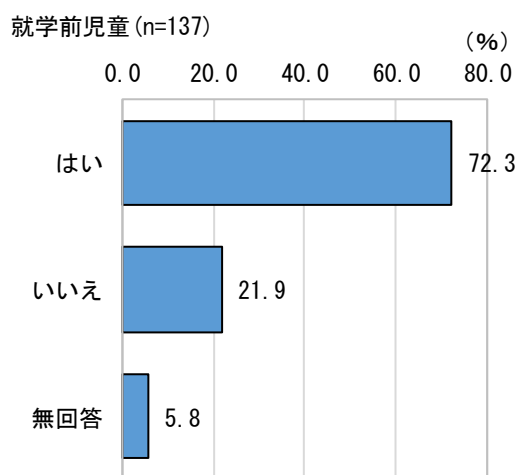
(単位：%)

就学前児童		居住している市内	他の市区町村	無回答
平成25年度 (n=664)		93.7	5.1	-
平成30年度 (n=753)		96.8	2.3	0.9
年齢	0歳 (n=133)	93.2	3.8	3.0
	1歳 (n=146)	96.6	3.4	0.0
	2歳 (n=149)	96.0	3.4	0.7
	3歳 (n=145)	98.6	1.4	0.0
	4歳 (n=194)	96.9	2.6	0.5
	5歳 (n=168)	97.0	2.4	0.6
	6歳 (n=115)	96.5	1.7	1.7
居住地区	中郷町 (n=219)	96.8	2.7	0.5
	磯原町 (n=269)	97.8	1.1	1.1
	華川町 (n=50)	100.0	0.0	0.0
	関南町 (n=45)	100.0	0.0	0.0
	大津町 (n=69)	95.7	2.9	1.4
	平潟町 (n=22)	86.4	9.1	4.5
	関本町 (n=35)	88.6	11.4	0.0

特に幼稚園等（幼稚園等の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。

〔就学前児童：問 15-2〕

「幼稚園または幼稚園型認定こども園」または「幼稚園または幼稚園型認定こども園の預かり保育」に利用希望があり、かつそれ以外の事業も利用希望がある人に、特に幼稚園等（幼稚園等の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するかどうかについて聞いたところ、「はい」が 72.3%、「いいえ」が 21.9%となっています。



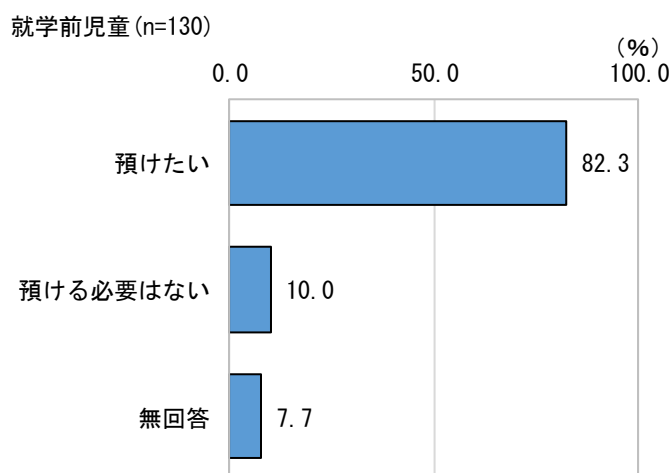
(単位：%)

就学前児童		はい	いいえ	無回答
平成30年度 (n=137)		72.3	21.9	5.8
年齢	0歳 (n=26)	80.8	19.2	0.0
	1歳 (n=36)	72.2	22.2	5.6
	2歳 (n=21)	71.4	19.0	9.5
	3歳 (n=27)	59.3	40.7	0.0
	4歳 (n=36)	77.8	16.7	5.6
	5歳 (n=14)	85.7	14.3	0.0
居住地区	6歳 (n=26)	73.1	19.2	7.7
	中郷町 (n=41)	73.2	22.0	4.9
	磯原町 (n=52)	73.1	23.1	3.8
	華川町 (n=10)	40.0	50.0	10.0
	関南町 (n=6)	83.3	0.0	16.7
	大津町 (n=12)	75.0	16.7	8.3
平潟町 (n=2)	100.0	0.0	0.0	
関本町 (n=9)	77.8	11.1	11.1	

国では、幼児教育・保育の無償化を平成 31 年 10 月から実施することが検討されています。無償化によって自己負担が軽減されれば、お子さんを預けたいと思いますか。

〔就学前児童：問 15-3〕

現在、定期的に幼稚園や保育所等を利用していない人に、無償化によって自己負担が軽減されれば、子どもを預けたいと思うかどうかについて聞いたところ、「預けたい」が 82.3%、「預ける必要はない」が 10.0%となっています。



(単位：%)

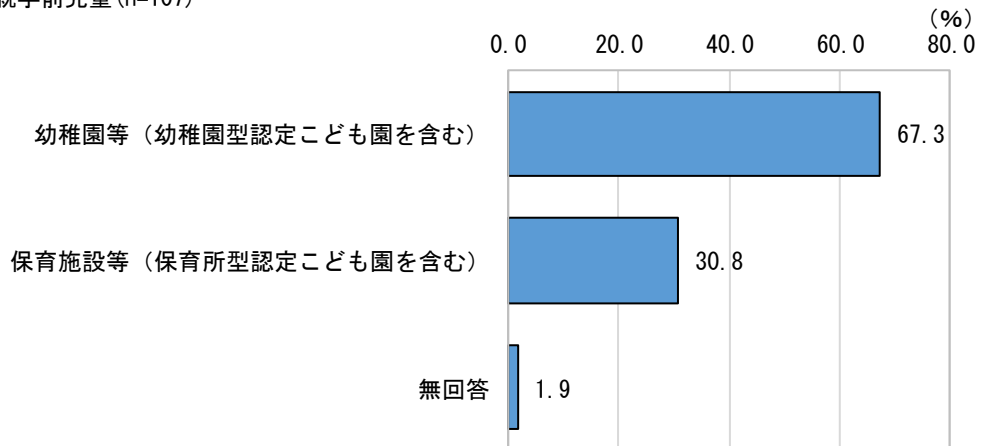
就学前児童		預けたい	預ける必要はない	無回答
平成30年度 (n=130)		82.3	10.0	7.7
年齢	0歳 (n=60)	83.3	10.0	6.7
	1歳 (n=41)	85.4	9.8	4.9
	2歳 (n=30)	83.3	10.0	6.7
	3歳 (n=12)	83.3	16.7	0.0
	4歳 (n=3)	66.7	0.0	33.3
	5歳 (n=1)	100.0	0.0	0.0
居住地区	6歳 (n=2)	50.0	50.0	0.0
	中郷町 (n=34)	73.5	20.6	5.9
	磯原町 (n=52)	88.5	5.8	5.8
	華川町 (n=5)	80.0	0.0	20.0
	関南町 (n=6)	100.0	0.0	0.0
	大津町 (n=13)	69.2	7.7	23.1
平潟町 (n=6)	83.3	16.7	0.0	
関本町 (n=7)	85.7	14.3	0.0	

幼児教育・保育の無償化後、預けるとすれば、どこへ預けたいですか。

〔就学前児童：問 15-4〕

無償化によって自己負担が軽減されれば、子どもを預けたいと思う人に、預けるとすれば、どこへ預けたいかについて聞いたところ、「幼稚園等（幼稚園型認定こども園を含む）」が 67.3%、「保育施設等（保育所型認定こども園を含む）」が 30.8%となっています。

就学前児童 (n=107)



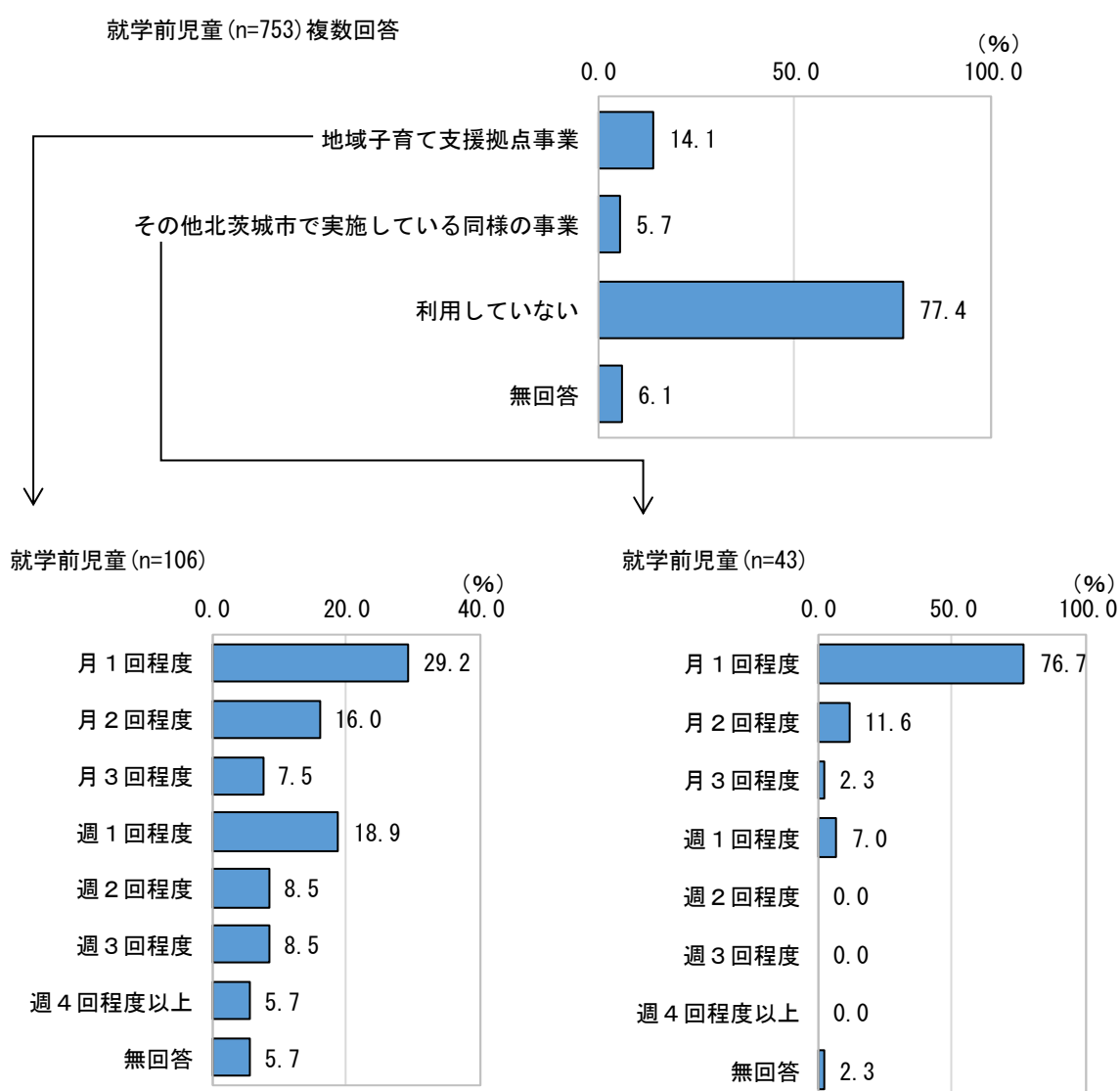
## 6 地域の子育て支援事業等の利用状況について

お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業を利用していますか。

〔就学前児童：問16〕

地域子育て支援拠点事業の利用の有無は、「利用していない」が最も多く77.4%、次いで「地域子育て支援拠点事業」が14.1%、「その他北茨城市で実施している同様の事業」が5.7%となっています。

また、地域子育て支援拠点事業を利用している人に、利用している回数(頻度)について聞いたところ、地域子育て支援拠点事業では「月1回程度」が最も多く29.2%、その他北茨城市で実施している同様の事業では「月1回程度」が最も多く76.7%となっています。



※地域子育て支援拠点事業とは、親子が集まって過ごしたり、相談をする場

※その他北茨城市で実施している同様の事業とは、おひさまクラブ、図書館ぽっぽクラブなど

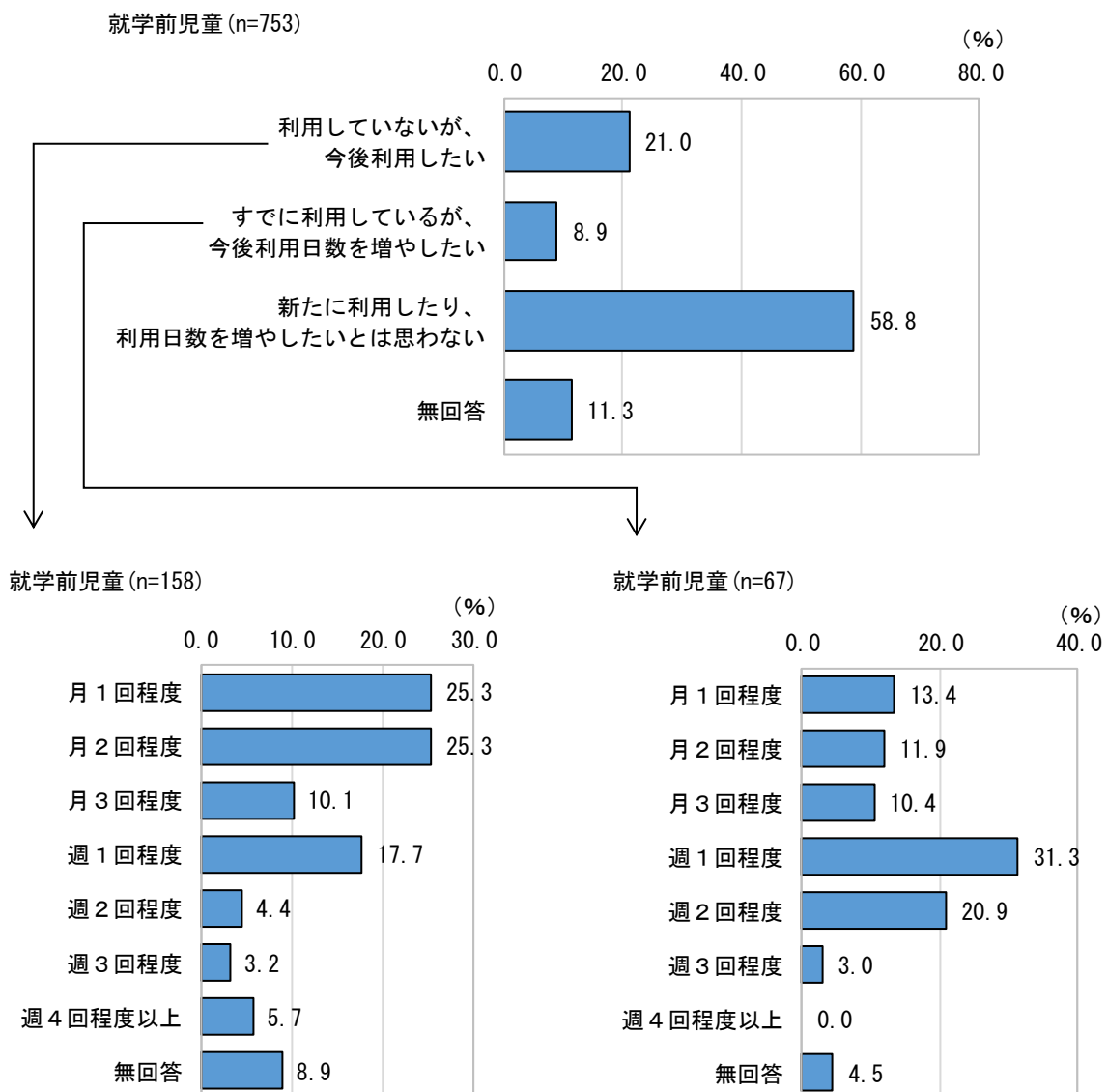
地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。

〔就学前児童：問 17〕

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も多く 58.8%、次いで「利用していないが、今後利用したい」が 21.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が 8.9%となっています。

また、今後利用したいと思う人に、利用したい回数（頻度）について聞いたところ、「月 1 回程度」「月 2 回程度」がそれぞれ最も多く 25.3%となっています。

さらに、今後利用を増やしたいと思う人に、利用を更に増やしたい回数（頻度）について聞いたところ、「週 1 回程度」が最も多く 31.3%となっています。



現在、北茨城市で行っている事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

[就学前児童：問 18]

### (1) 乳児家庭全戸訪問・養育支援訪問事業

乳児家庭全戸訪問・養育支援訪問事業を知っている人は 74.4%、これまでに利用したことがある人は 67.5%、今後利用したいと思っている人は 40.6%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

知っている

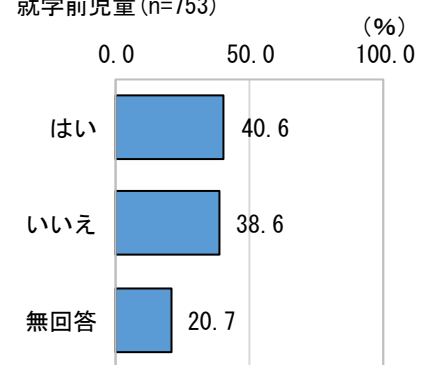
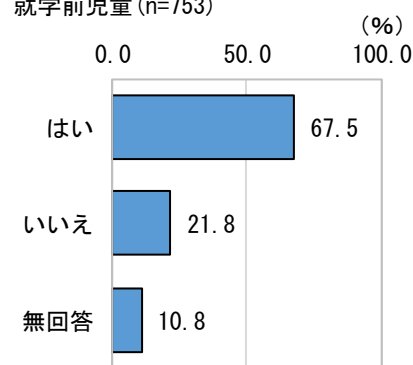
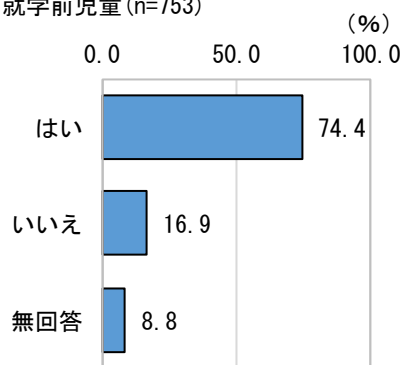
これまでに利用したことがある

今後利用したい

就学前児童(n=753)

就学前児童(n=753)

就学前児童(n=753)



	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	72.7%	58.7%	38.3%
平成 30 年度調査	74.4%	67.5%	40.6%

### (2) 母親（父親）学級、両親学級

母親（父親）学級、両親学級を知っている人は 68.9%、これまでに利用したことがある人は 26.7%、今後利用したいと思っている人は 24.4%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、利用意向は増加しているものの、認知度・利用状況は減少しています。

知っている

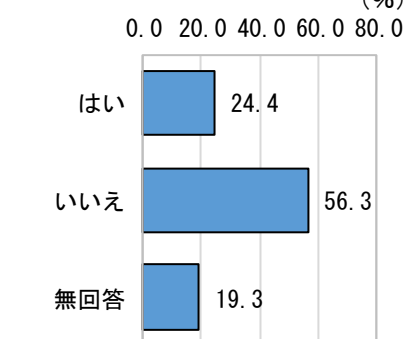
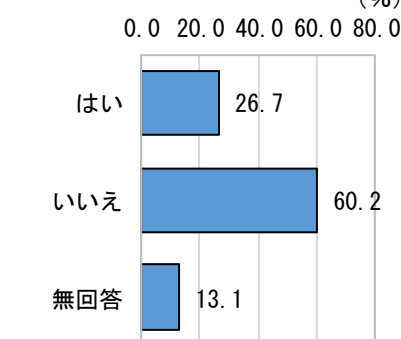
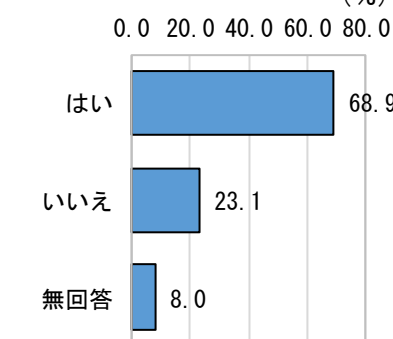
これまでに利用したことがある

今後利用したい

就学前児童(n=753)

就学前児童(n=753)

就学前児童(n=753)

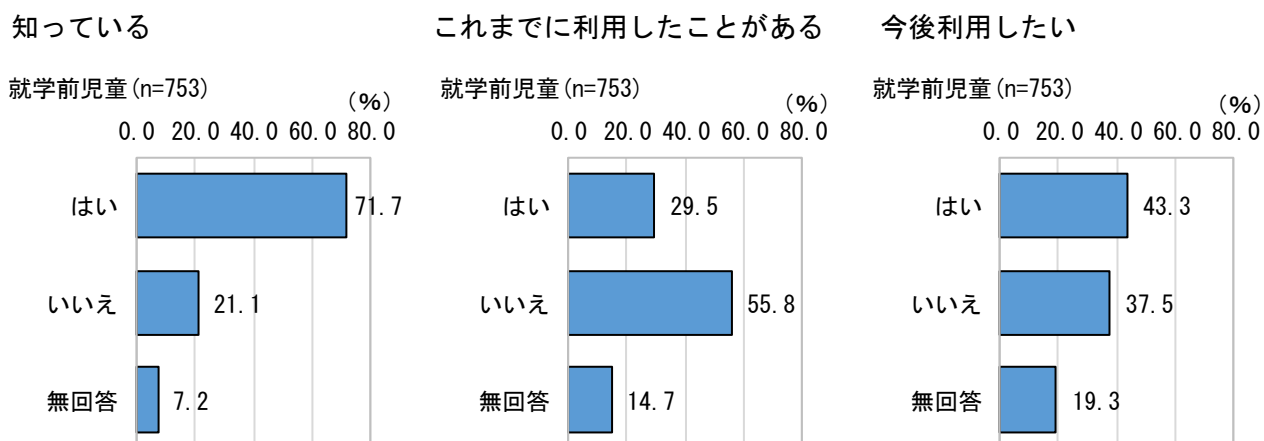


	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	71.8%	28.5%	22.5%
平成 30 年度調査	68.9%	26.7%	24.4%

### (3) 保健センターの情報・相談事業

保健センターの情報・相談事業を知っている人は71.7%、これまでに利用したことがある人は29.5%、今後利用したいと思っている人は43.3%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが減少しています。

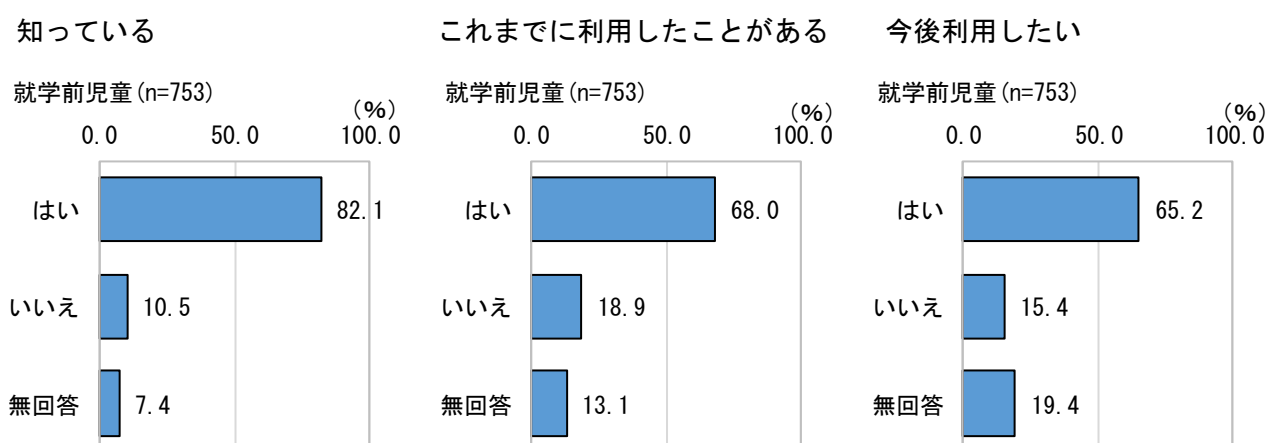


	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	76.9%	40.5%	49.5%
平成30年度調査	71.7%	29.5%	43.3%

### (4) 市発行の子育て支援情報誌（健康カレンダー、ほほえみ、ひよこ等冊子）

市発行の子育て支援情報誌（健康カレンダー、ほほえみ、ひよこ等冊子）を知っている人は82.1%、これまでに利用したことがある人は68.0%、今後利用したいと思っている人は65.2%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、利用状況は増加しているものの、認知度・利用意向は減少しています。

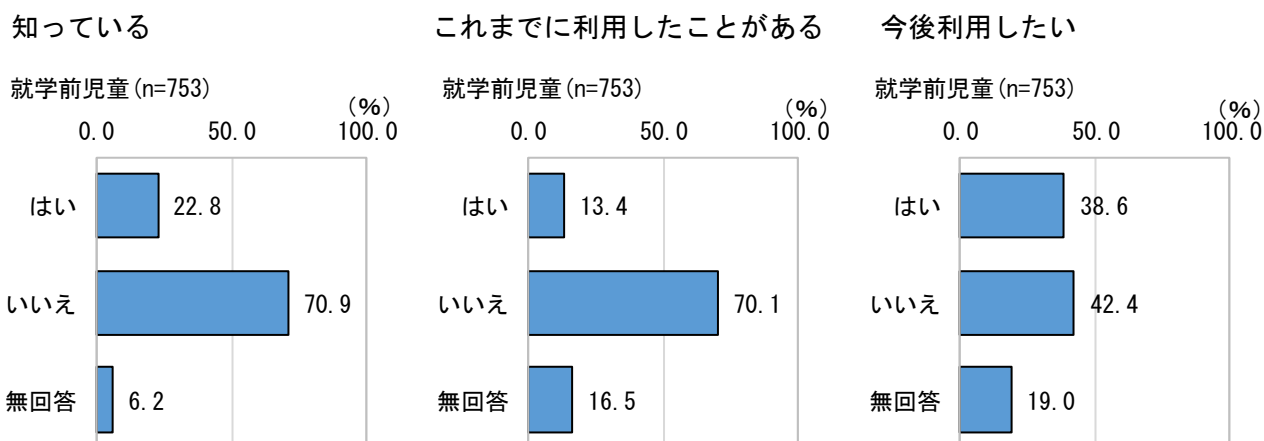


	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	85.9%	61.1%	69.6%
平成30年度調査	82.1%	68.0%	65.2%

### (5) 家庭教育ブック（つばさ）

家庭教育ブック（つばさ）を知っている人は22.8%、これまでに利用したことがある人は13.4%、今後利用したいと思っている人は38.6%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

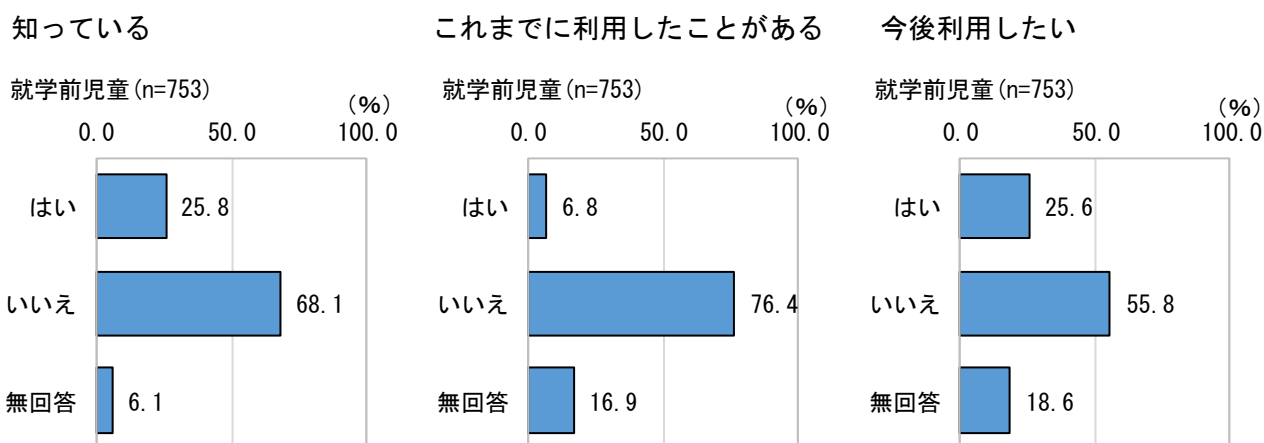


	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	11.9%	4.8%	35.8%
平成30年度調査	22.8%	13.4%	38.6%

### (6) 子育て体験トーク・子育てセミナー

子育て体験トーク・子育てセミナーを知っている人は25.8%、これまでに利用したことがある人は6.8%、今後利用したいと思っている人は25.6%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが減少しています。



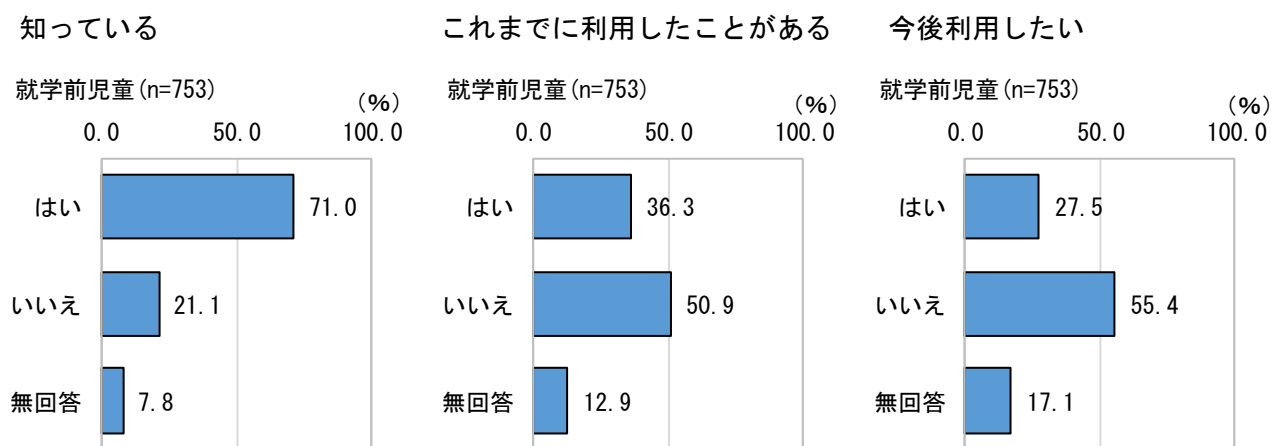
	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	30.8%	7.0%	29.7%
平成30年度調査	25.8%	6.8%	25.6%



### (7) 中郷子どもの家事業

中郷子どもの家事業を知っている人は71.0%、これまでに利用したことがある人は36.3%、今後利用したいと思っている人は27.5%となっています。

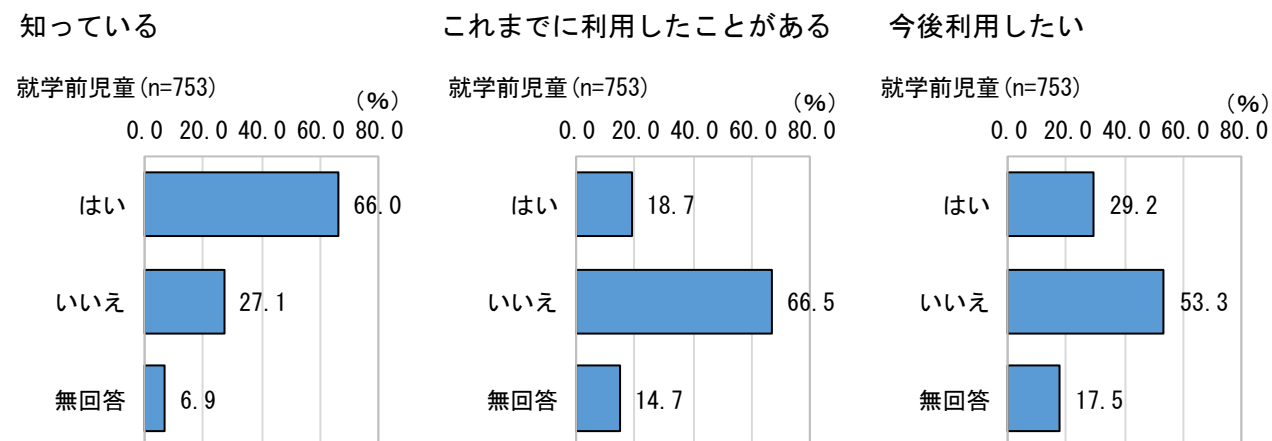
また、平成25年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況は増加しているものの、利用意向は減少しています。



	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	68.1%	32.0%	30.6%
平成30年度調査	71.0%	36.3%	27.5%

### (8) 磯原子どもの家事業

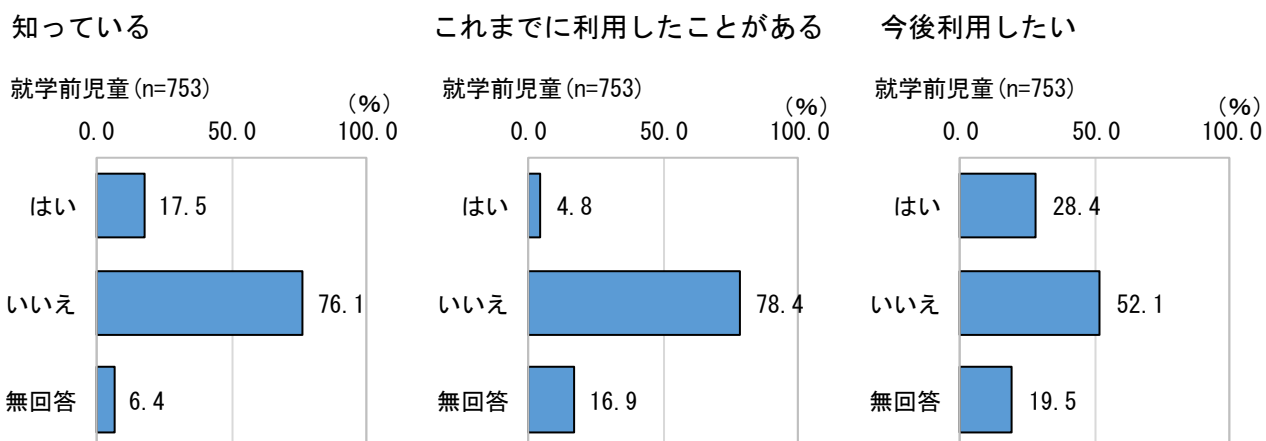
磯原子どもの家事業を知っている人は66.0%、これまでに利用したことがある人は18.7%、今後利用したいと思っている人は29.2%となっています。



### (9) 早期療育相談システム

早期療育相談システムを知っている人は 17.5%、これまでに利用したことがある人は 4.8%、今後利用したいと思っている人は 28.4%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

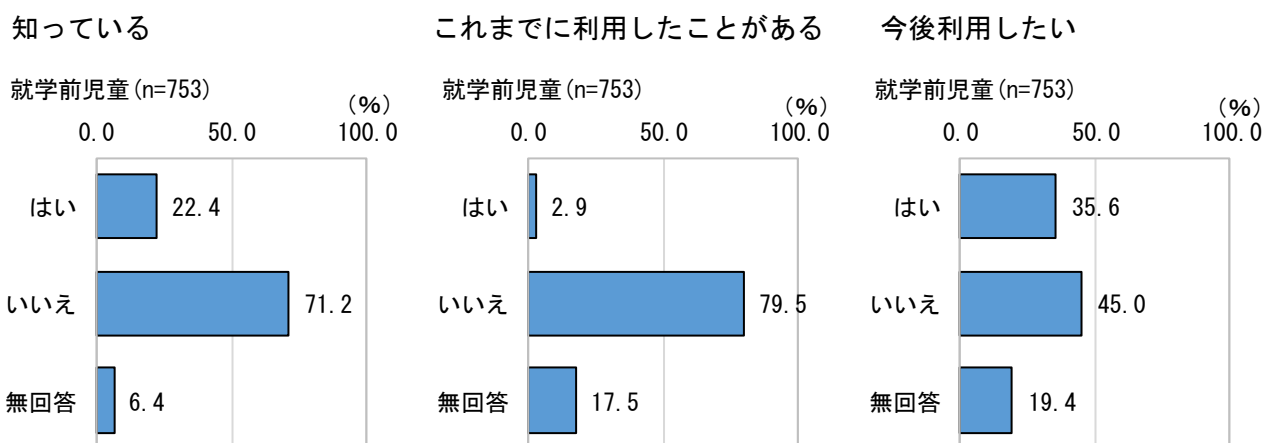


	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	11.0%	2.2%	25.1%
平成 30 年度調査	17.5%	4.8%	28.4%

### (10) 幼児教育相談室

幼児教育相談室を知っている人は 22.4%、これまでに利用したことがある人は 2.9%、今後利用したいと思っている人は 35.6%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

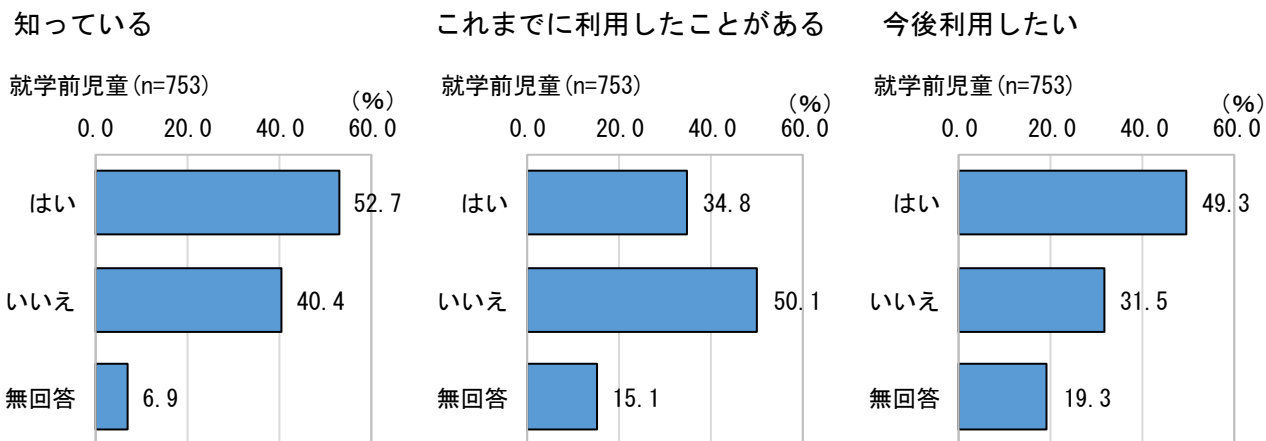


	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	20.0%	2.0%	33.8%
平成 30 年度調査	22.4%	2.9%	35.6%

### (11) 市立図書館ブックスタート事業

市立図書館ブックスタート事業を知っている人 52.7%は、これまでに利用したことがある人は 34.8%、今後利用したいと思っている人は 49.3%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

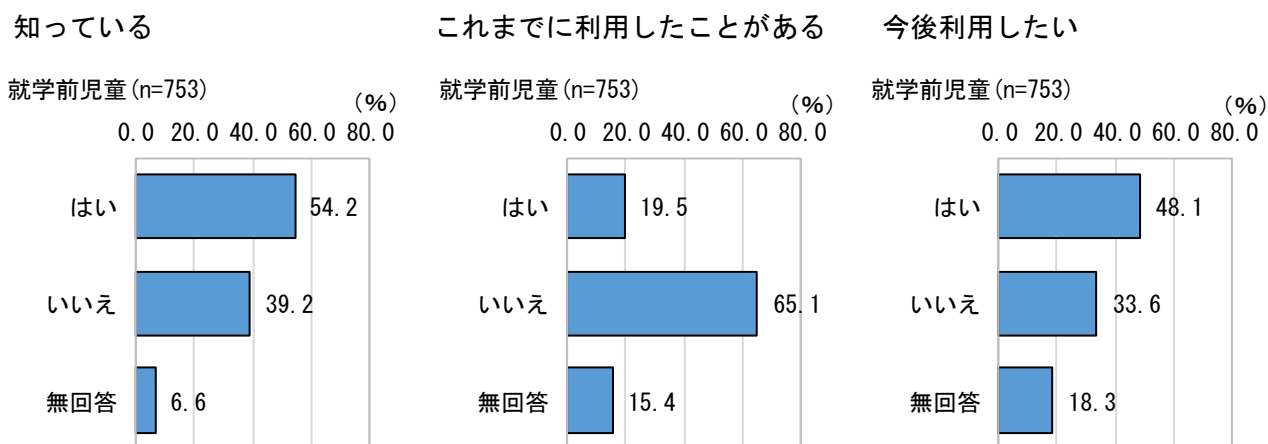


	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	38.0%	19.6%	45.4%
平成 30 年度調査	52.7%	34.8%	49.3%

### (12) 市立図書館ぼっぽのお話し会

市立図書館ぼっぽのお話し会を知っている人は 54.2%、これまでに利用したことがある人は 19.5%、今後利用したいと思っている人は 48.1%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、利用状況・利用意向は増加しているものの、認知度は減少しています。



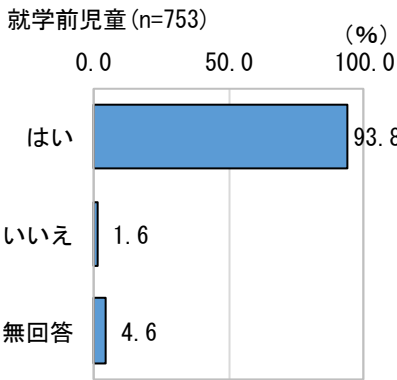
	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	55.6%	14.2%	46.8%
平成 30 年度調査	54.2%	19.5%	48.1%

### (13) 小学校入学時のランドセル配布

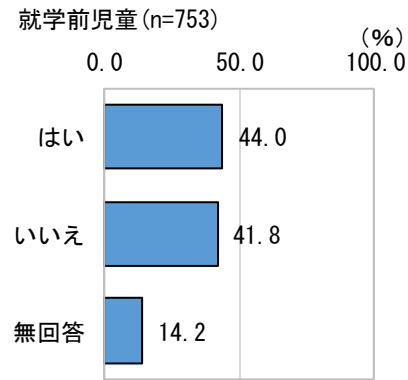
小学校入学時のランドセル配布を知っている人は93.8%、これまでに利用したことがある人は44.0%、今後利用したいと思っている人は78.6%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況は増加しているものの、利用意向は減少しています。

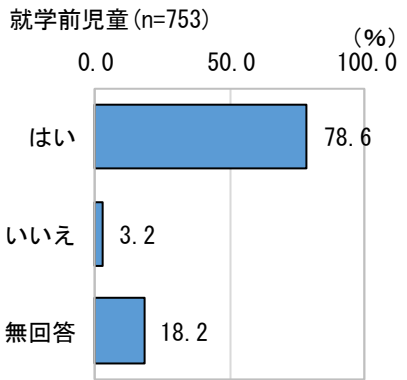
#### 知っている



#### これまでに利用したことがある



#### 今後利用したい



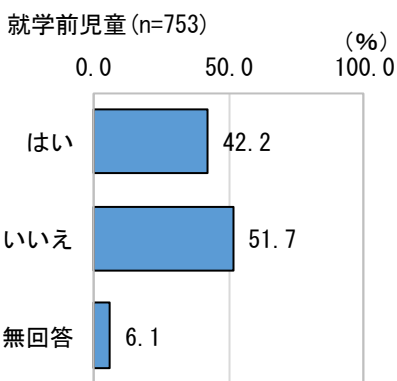
	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	86.7%	41.8%	81.3%
平成30年度調査	93.8%	44.0%	78.6%

### (14) ファミリーサポートセンター事業

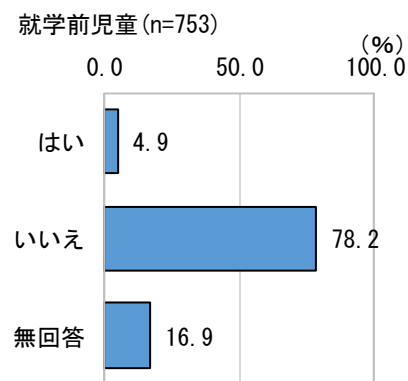
ファミリーサポートセンター事業を知っている人は42.2%、これまでに利用したことがある人は4.9%、今後利用したいと思っている人は34.8%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、利用状況は増加しているものの、認知度・利用意向は減少しています。

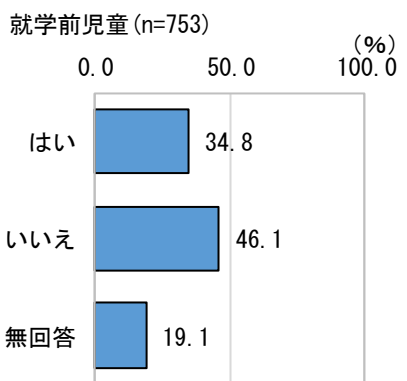
#### 知っている



#### これまでに利用したことがある



#### 今後利用したい



	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	46.6%	3.8%	38.3%
平成30年度調査	42.2%	4.9%	34.8%

(15) 家庭児童相談室

家庭児童相談室を知っている人は 27.4%、これまでに利用したことがある人は 1.1%、今後利用したいと思っている人は 32.3%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

知っている

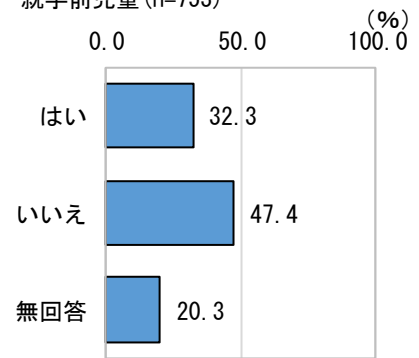
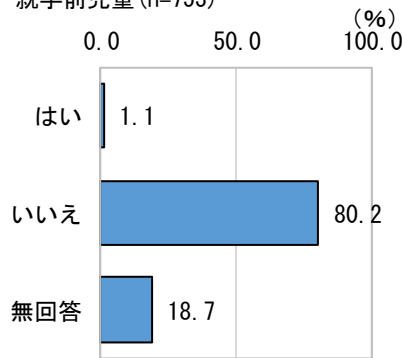
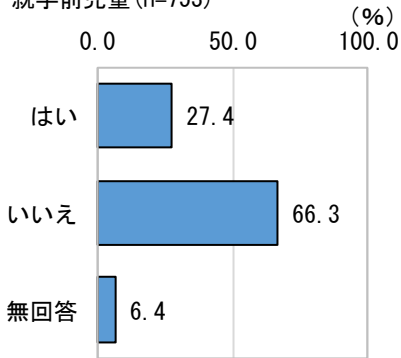
これまでに利用したことがある

今後利用したい

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)



	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	26.1%	0.8%	30.9%
平成 30 年度調査	27.4%	1.1%	32.3%

(16) 保育所の休日保育事業

保育所の休日保育事業を知っている人は 49.0%、これまでに利用したことがある人は 9.0%、今後利用したいと思っている人は 45.2%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

知っている

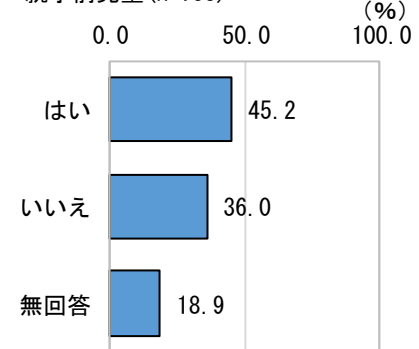
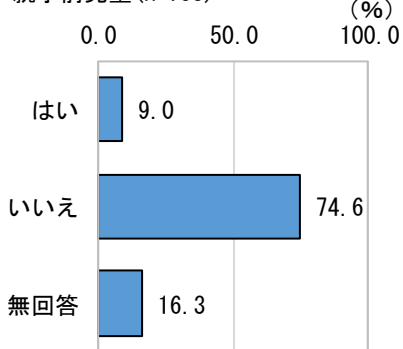
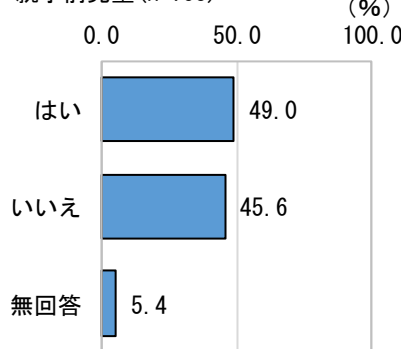
これまでに利用したことがある

今後利用したい

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)



	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	46.0%	5.0%	41.3%
平成 30 年度調査	49.0%	9.0%	45.2%

(17) 保育所の病後児保育事業

保育所の病後児保育事業を知っている人は 50.9%、これまでに利用したことがある人は 5.7%、今後利用したいと思っている人は 48.5%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況・利用意向のすべてが増加しています。

知っている

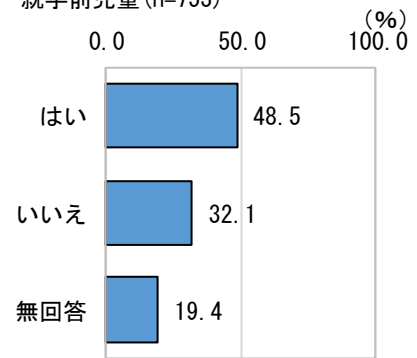
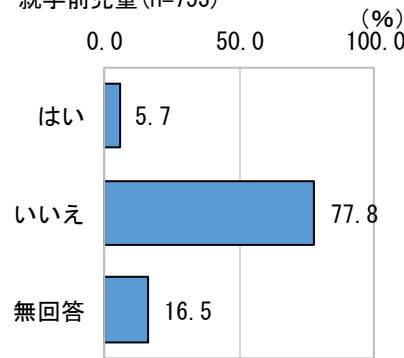
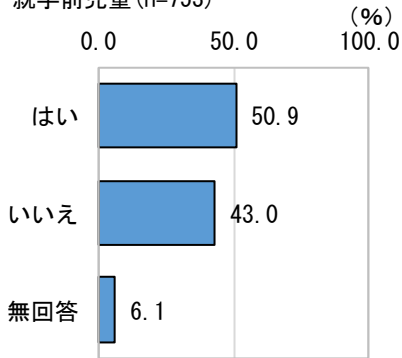
これまでに利用したことがある

今後利用したい

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)



	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	40.5%	3.8%	43.4%
平成 30 年度調査	50.9%	5.7%	48.5%

(18) 保育所の園庭解放・親子登園

保育所の園庭解放・親子登園を知っている人 49.0%は、これまでに利用したことがある人は 21.6%、今後利用したいと思っている人は 41.3%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、利用意向は増加しているものの、認知度・利用状況は減少しています。

知っている

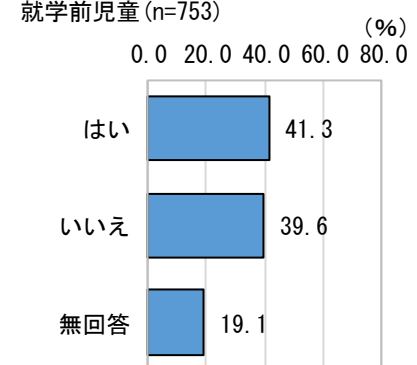
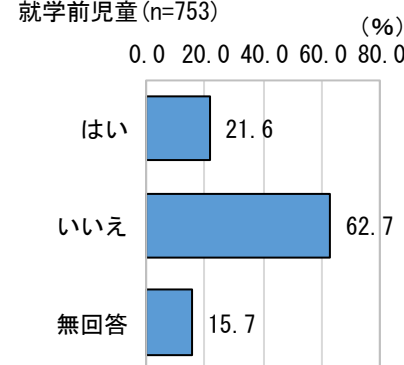
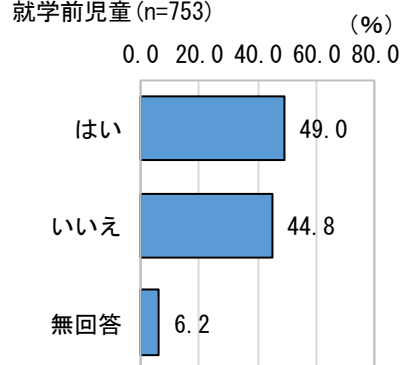
これまでに利用したことがある

今後利用したい

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)

就学前児童 (n=753)



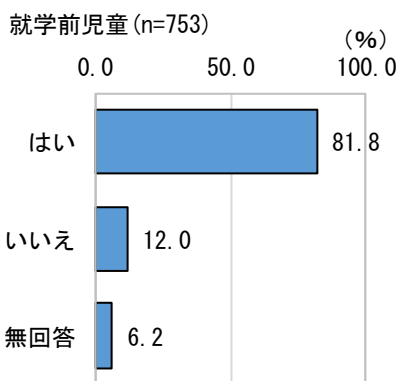
	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	55.3%	24.1%	38.7%
平成 30 年度調査	49.0%	21.6%	41.3%

### (19) 放課後児童健全育成事業（学童保育）

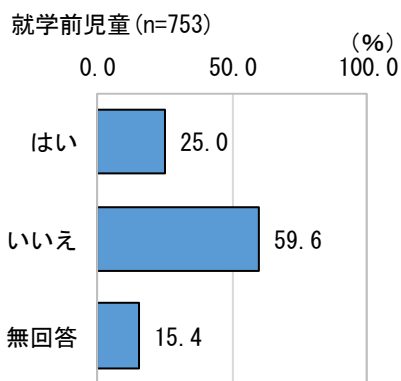
放課後児童健全育成事業（学童保育）を知っている人は 81.8%、これまでに利用したことがある人は 25.0%、今後利用したいと思っている人は 65.7%となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、利用状況・利用意向は増加しているものの、認知度は減少しています。

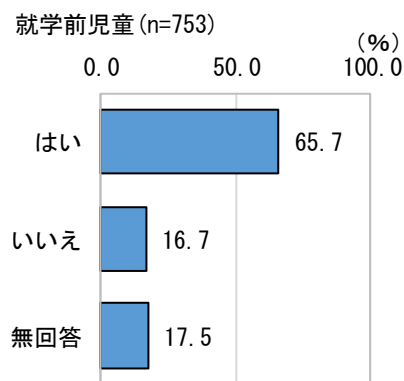
#### 知っている



#### これまでに利用したことがある



#### 今後利用したい

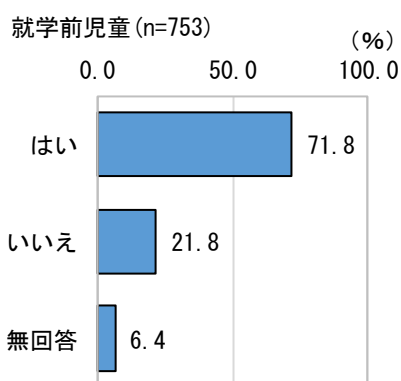


	認知度	利用状況	利用意向
平成 25 年度調査	82.9%	16.9%	61.9%
平成 30 年度調査	81.8%	25.0%	65.7%

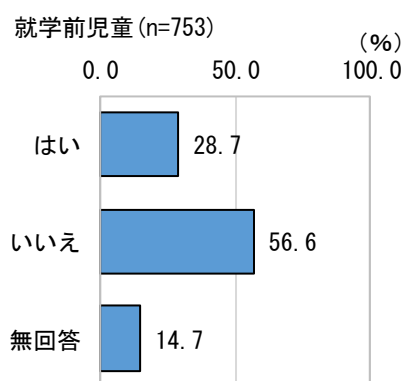
### (20) 子育て支援拠点事業（エンゼル、A I A I）

子育て支援拠点事業（エンゼル、A I A I）を知っている人は 71.8%、これまでに利用したことがある人は 28.7%、今後利用したいと思っている人は 34.5%となっています。

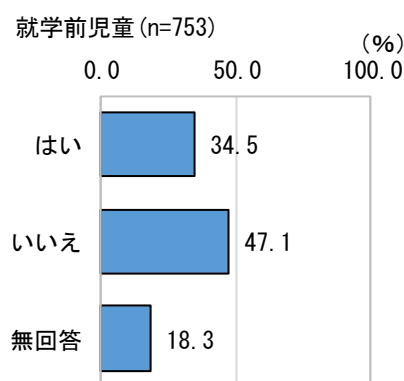
#### 知っている



#### これまでに利用したことがある



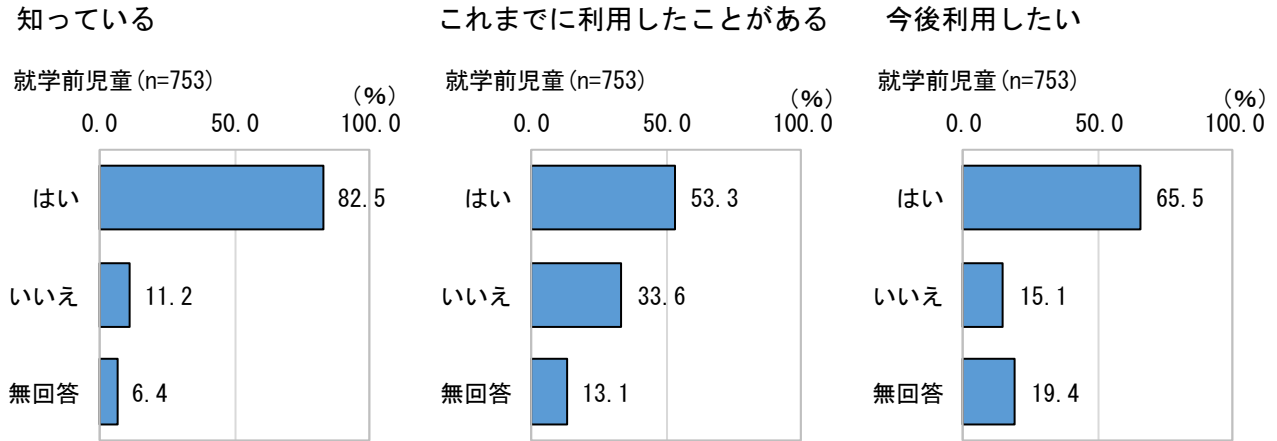
#### 今後利用したい



(21) 出産祝金事業

出産祝金事業を知っている人は82.5%、これまでに利用したことがある人は53.3%、今後利用したいと思っている人は65.5%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況は増加しているものの、利用意向は減少しています。

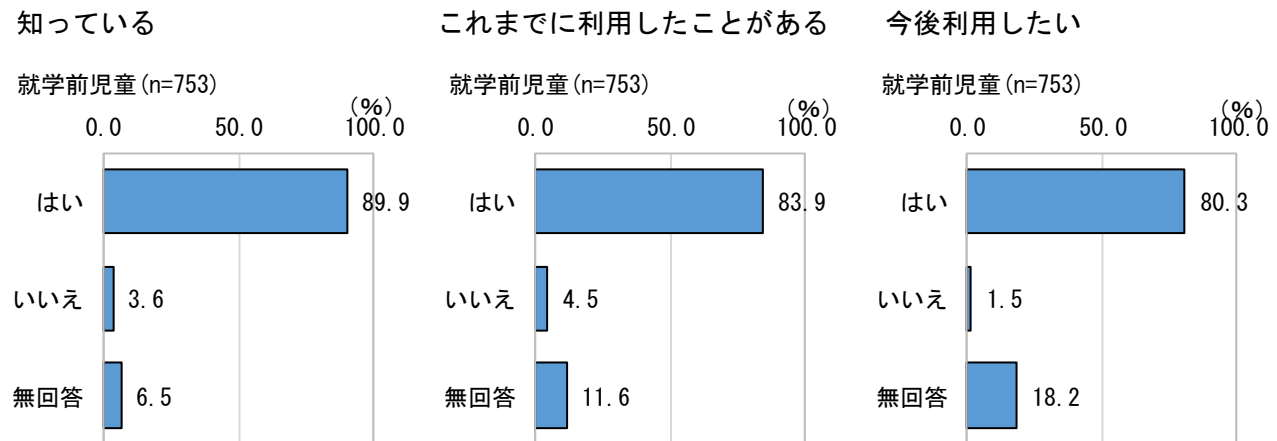


	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	69.6%	45.9%	66.9%
平成30年度調査	82.5%	53.3%	65.5%

(22) マル福制度の拡充

マル福制度の拡充を知っている人は89.9%、これまでに利用したことがある人は83.9%、今後利用したいと思っている人は80.3%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、認知度・利用状況は増加しているものの、利用意向は減少しています。



	認知度	利用状況	利用意向
平成25年度調査	87.9%	82.4%	83.0%
平成30年度調査	89.9%	83.9%	80.3%



## 7 土曜・日曜や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について

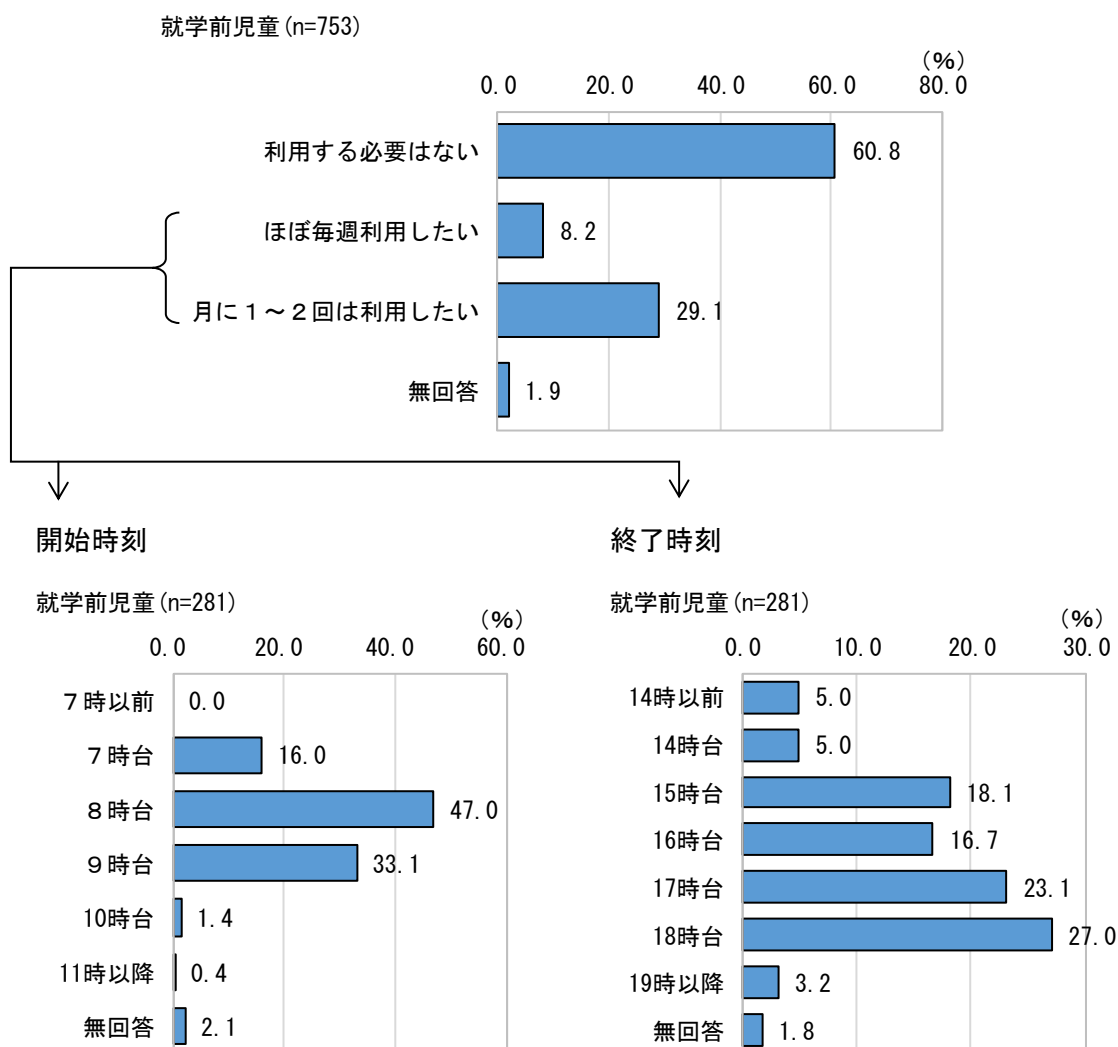
お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか。

[就学前児童：問 19]

### (1) 土曜日

土曜日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無は、「利用する必要はない」が最も多く 60.8%、次いで「月に1～2回は利用したい」が 29.1%、「ほぼ毎週利用したい」が 8.2%となっています。

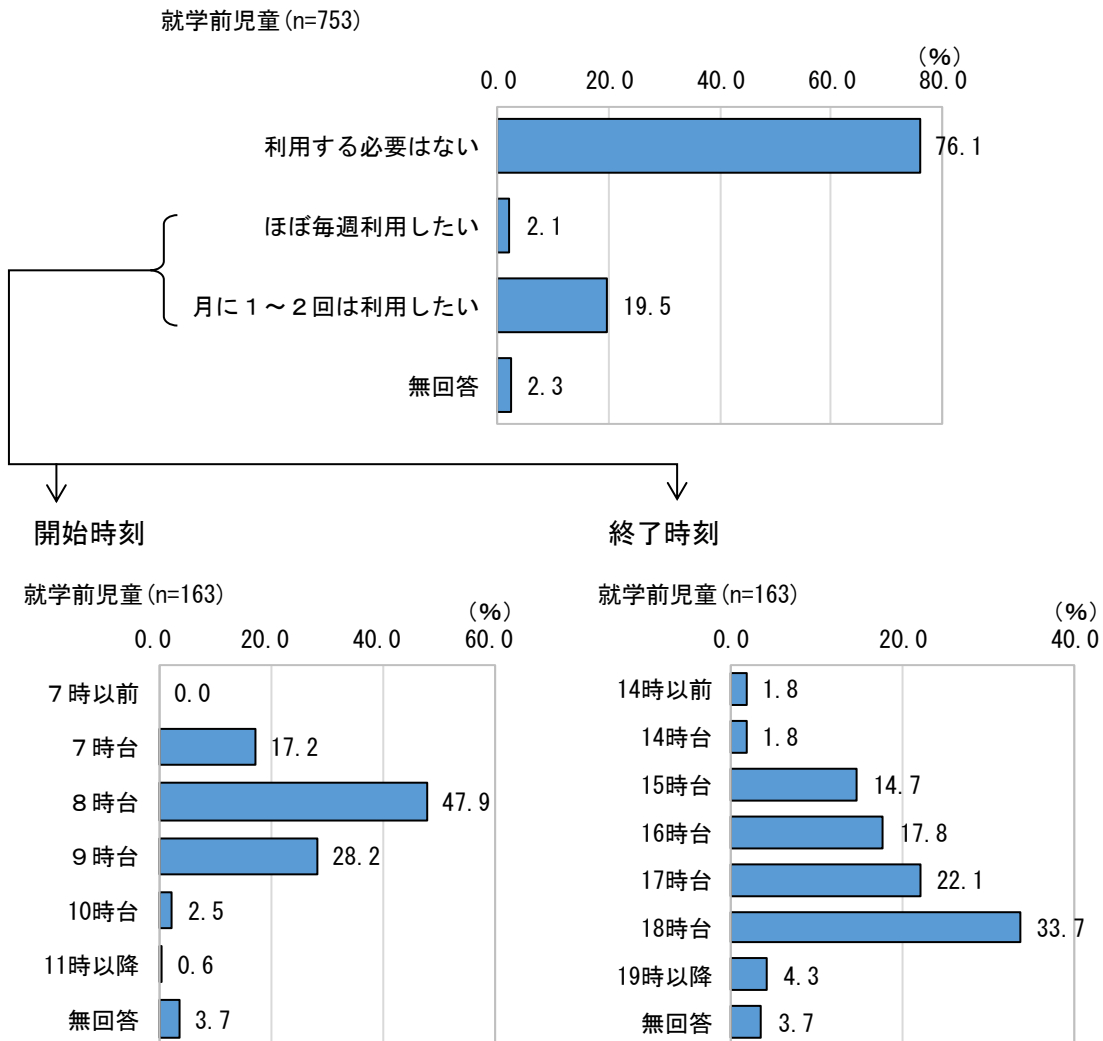
また、土曜日に定期的な教育・保育の事業の利用希望がある人に、利用したい時間帯について聞いたところ、開始時刻では「8時台」が最も多く 47.0%、終了時刻では「18時台」が最も多く 27.0%となっています。



## (2) 日曜日・祝日

日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無は、「利用する必要はない」が最も多く76.1%、次いで「月に1～2回は利用したい」が19.5%、「ほぼ毎週利用したい」が2.1%となっています。

また、日曜日・祝日に定期的な教育・保育の事業の利用希望がある人に、利用したい時間帯について聞いたところ、開始時刻では「8時台」が最も多く47.9%、終了時刻では「18時台」が最も多く33.7%となっています。

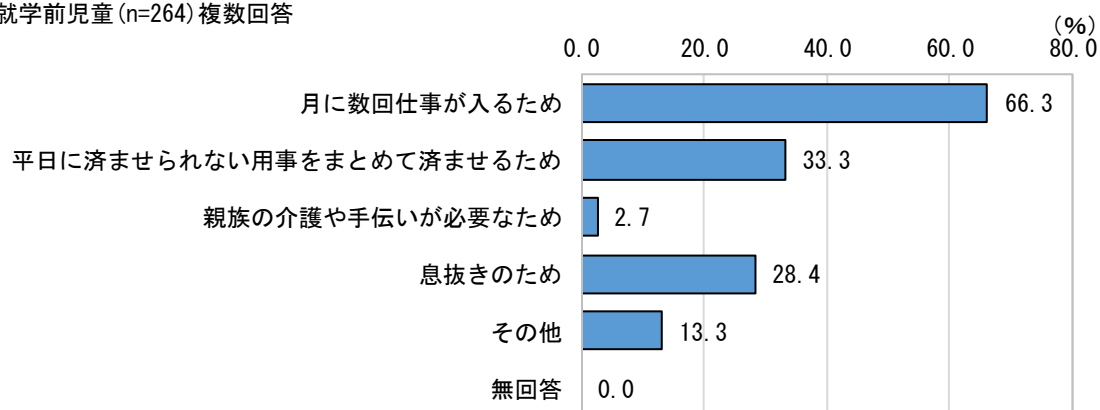


土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業を、毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。

[就学前児童：問 19-1]

土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業を月に1～2回利用したい人に、毎週ではなく、たまに利用したい理由について聞いたところ、「月に数回仕事が入るため」が最も多く66.3%、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が33.3%、「息抜きのため」が28.4%となっています。

就学前児童 (n=264) 複数回答

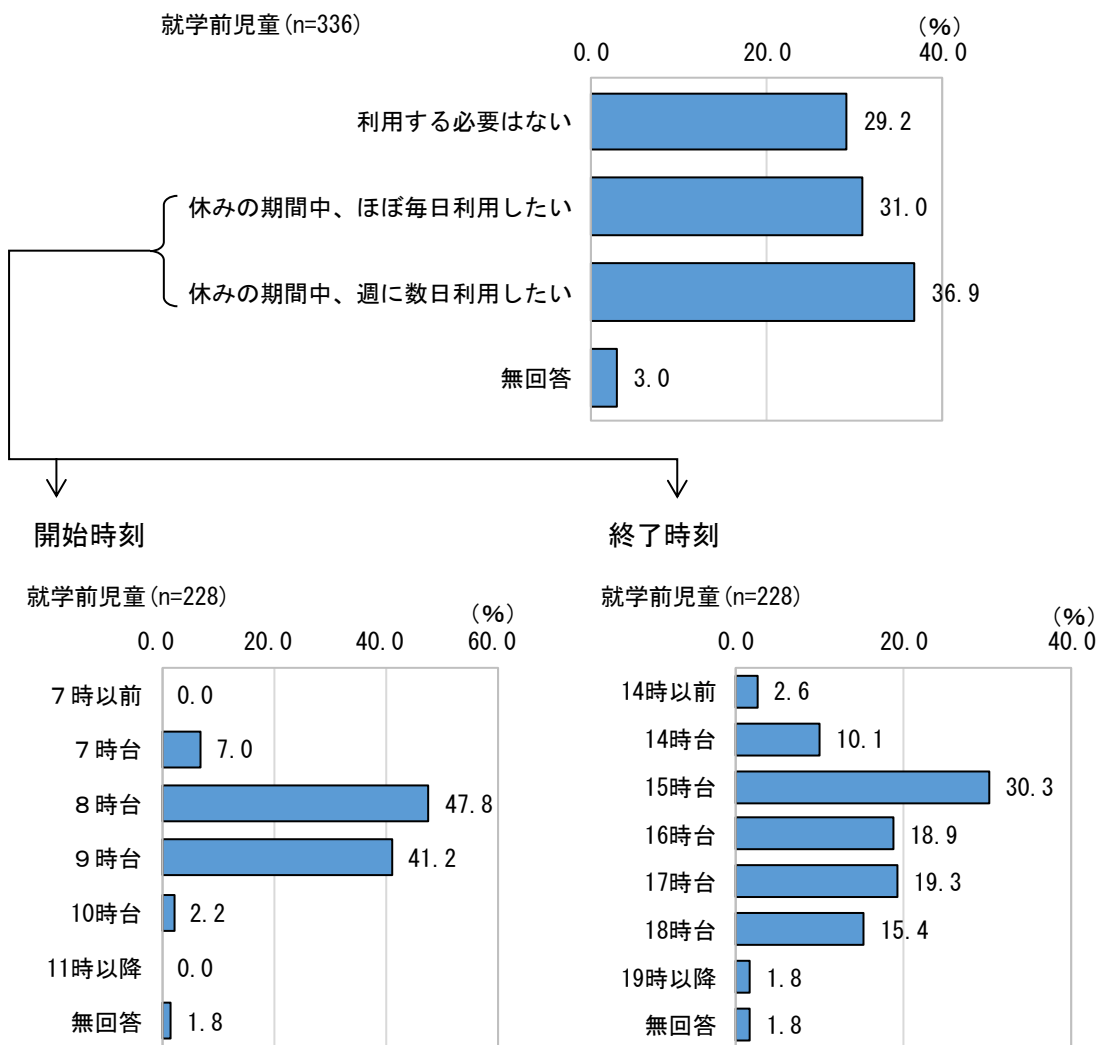


お子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。

〔就学前児童：問 20〕

幼稚園または幼稚園型認定こども園を利用している人に、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望の有無について聞いたところ、「休みの期間中、週に数日利用したい」が最も多く 36.9%、次いで「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 31.0%、「利用する必要はない」が 29.2% となっています。

また、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望がある人に、利用したい時間帯について聞いたところ、開始時刻では「8時台」が最も多く 47.8%、終了時刻では「15時台」が最も多く 30.3% となっています。

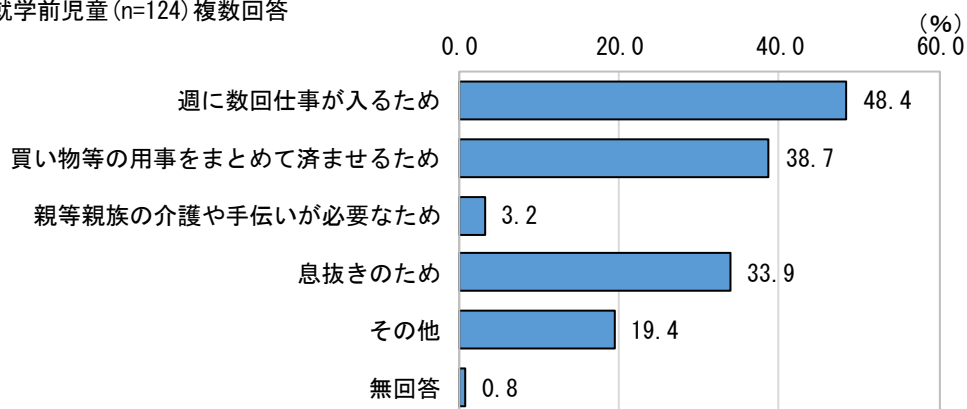


夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を、毎日ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。

〔就学前児童：問 20-1〕

夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業を月に1～2回利用したい人に、毎週ではなく、たまに利用したい理由について聞いたところ、「週に数回仕事が入るため」が最も多く48.4%、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が38.7%、「息抜きのため」が33.9%となっています。

就学前児童 (n=124) 複数回答

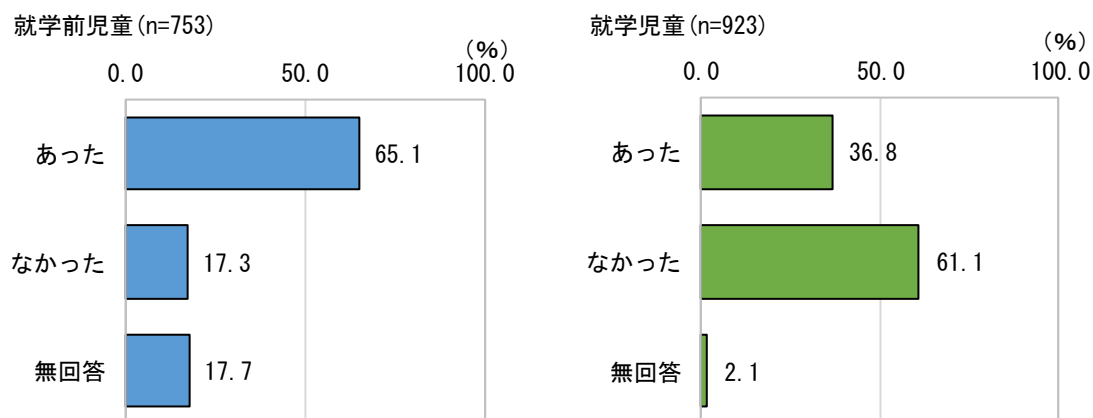


## 8 病気の際の対応について

この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業（就学前児童の場合は教育・保育の事業、就学児童の場合は学校や放課後児童クラブなどの預かりサービス）が利用できなかったことはありますか。

〔就学前児童：問 21、就学児童：問 14〕

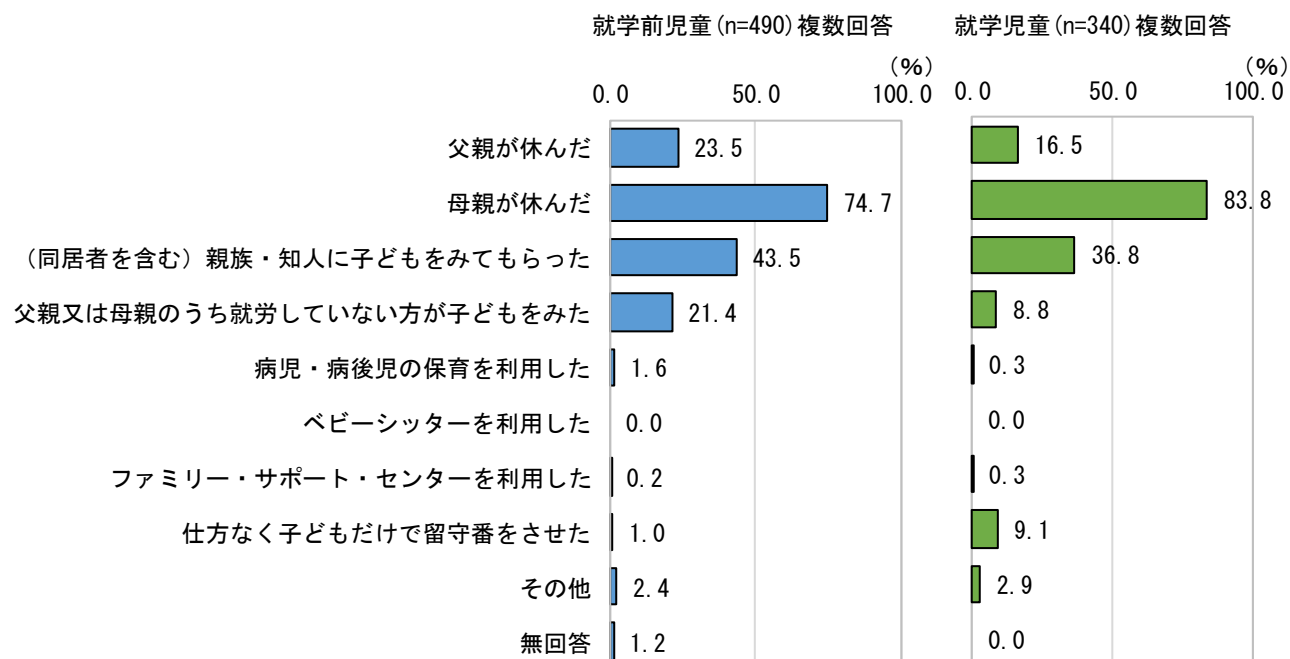
この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあった人は、就学前児童が65.1%、就学児童が36.8%となっています。



お子さんが病気やけがで普段利用している事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法についてお答えください。

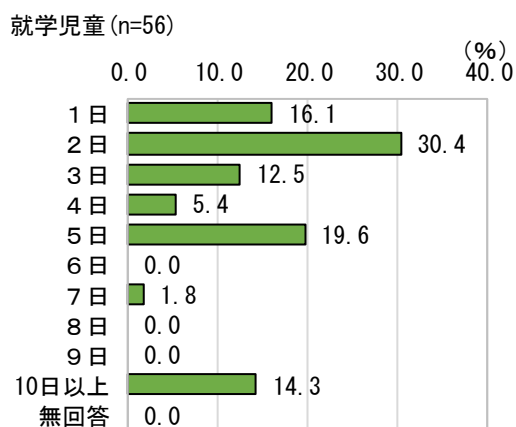
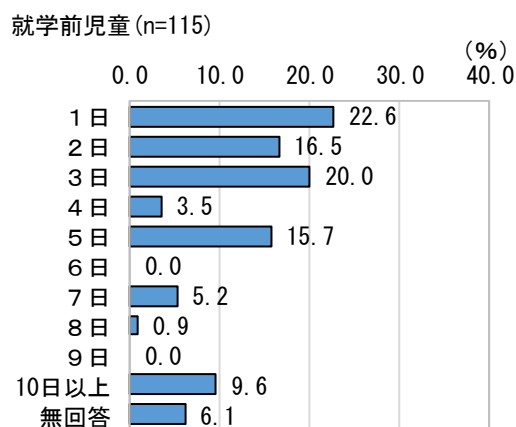
〔就学前児童：問 21-1、就学児童：問 14-1〕

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあった人に、その時の対処方法について聞いたところ、就学前児童では「母親が休んだ」が最も多く74.7%、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が43.5%、「父親が休んだ」が23.5%、就学児童では「母親が休んだ」が最も多く83.8%、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が36.8%、「父親が休んだ」が16.5%となっています。



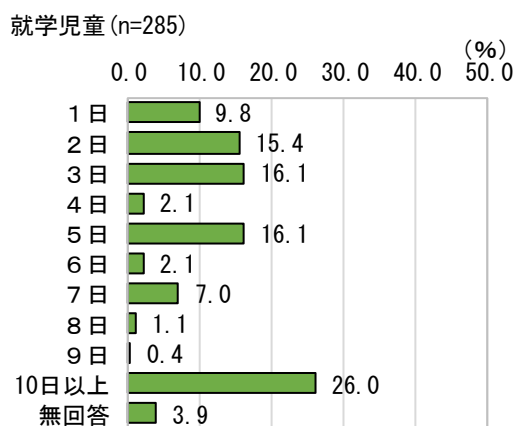
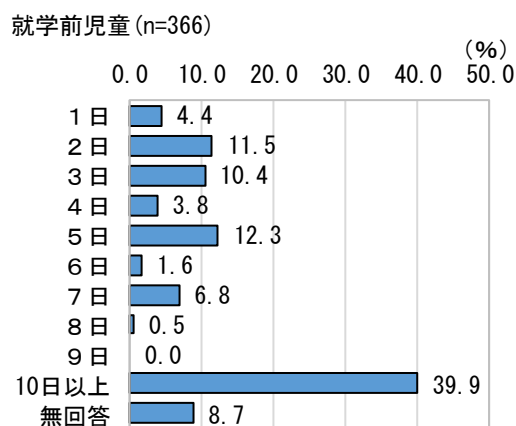
### (1) 父親が休んだ

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、父親が休んだ日数について聞いたところ、就学前児童では「1日」が最も多く22.6%、次いで「3日」が20.0%、「2日」が16.5%、就学児童では「2日」が最も多く30.4%、次いで「5日」が19.6%、「1日」が16.1%となっています。



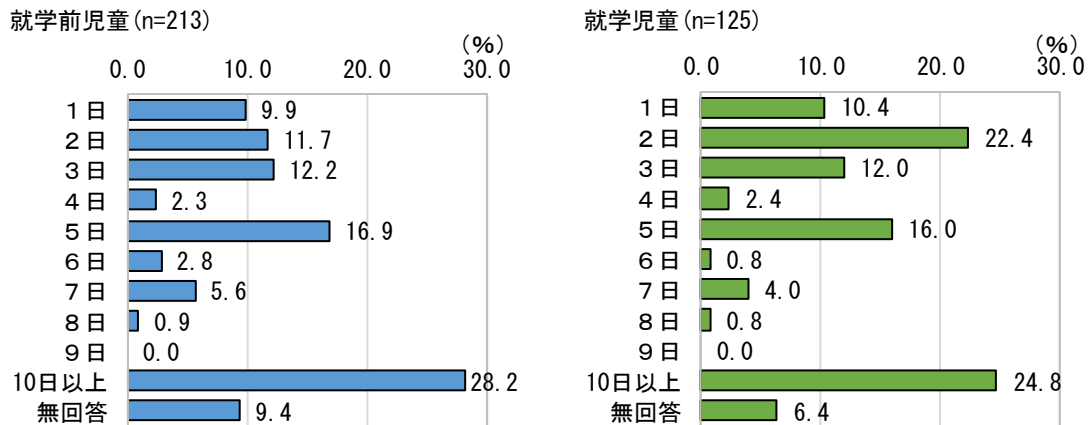
### (2) 母親が休んだ

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、母親が休んだ日数について聞いたところ、就学前児童では「10日以上」が最も多く39.9%、次いで「5日」が12.3%、「2日」が11.5%、就学児童では「10日以上」が最も多く26.0%、次いで「3日」「5日」がそれぞれ16.1%、「2日」が15.4%となっています。



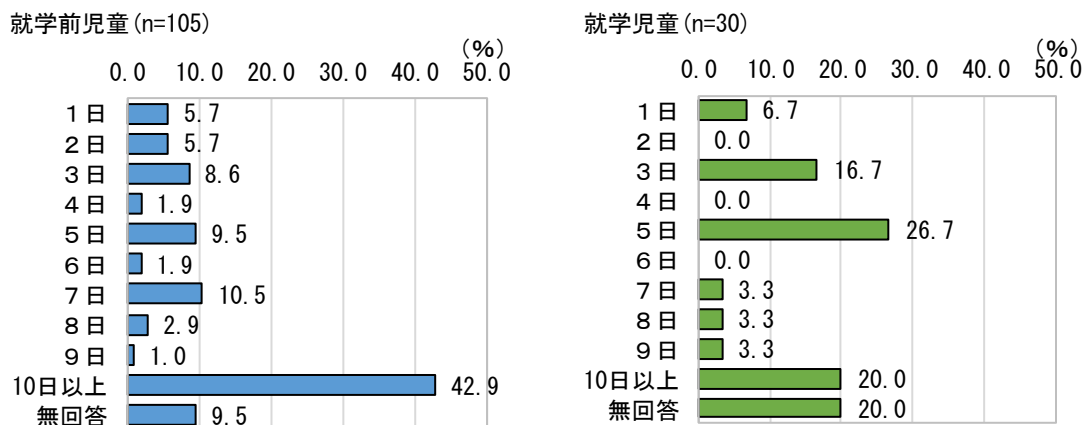
### (3) (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった日数について聞いたところ、就学前児童では「10日以上」が最も多く28.2%、次いで「5日」が16.9%、「3日」が12.2%、就学児童では「10日以上」が最も多く24.8%、次いで「2日」が22.4%、「5日」が16.0%となっています。



### (4) 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた日数について聞いたところ、就学前児童では「10日以上」が最も多く42.9%、次いで「7日」が10.5%、「5日」が9.5%、就学児童では「5日」が最も多く26.7%、「10日以上」が20.0%、「3日」が16.7%となっています。





### (5) 病児・病後児の保育を利用した

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、病児・病後児の保育を利用した日数について聞いたところ、就学前児童（8人）では「1日」が2人、「2日」が5人、「3日」が1人、就学児童には利用者がいませんでした。

### (6) ベビーシッターを利用した

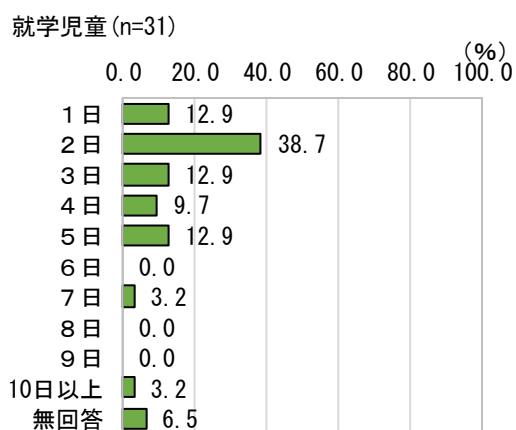
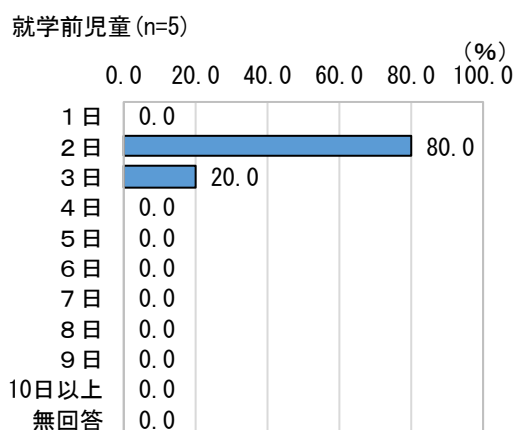
この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、ベビーシッターを利用した人はいませんでした。

### (7) ファミリー・サポート・センターを利用した

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、ファミリー・サポート・センターを利用した日数について聞いたところ、就学前児童（1人）では「1日」が1人、就学児童（1人）では「3日」が1人となっています。

### (8) 仕方なく子どもだけで留守番をさせた

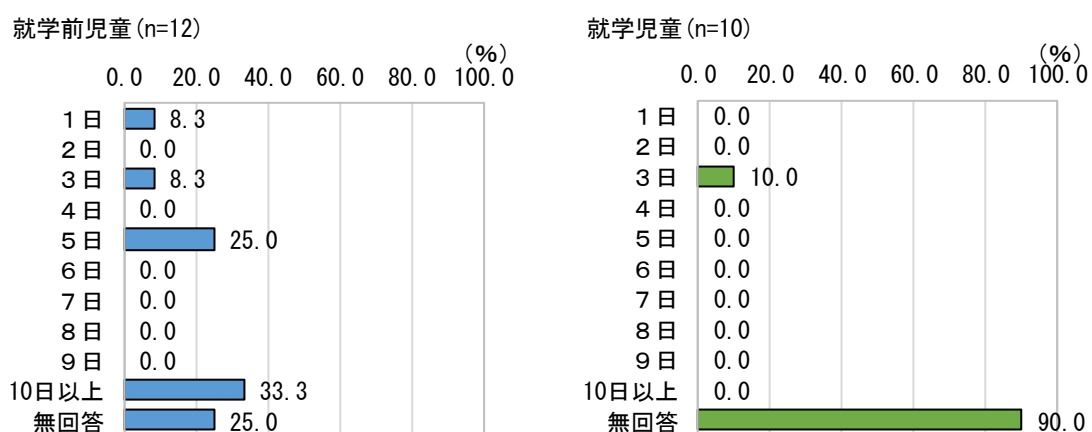
この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数について聞いたところ、就学前児童では「2日」が最も多く 80.0%、次いで「3日」が 20.0%、就学児童では「2日」が最も多く 38.7%、次いで「1日」「3日」「5日」がそれぞれ 12.9% となっています。



### (9) その他

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、上記以外の方法で対処した日数について聞いたところ、就学前児童では「10日以上」が最も多く33.3%、就学児童では「3日」が最も多く10.0%となっています。

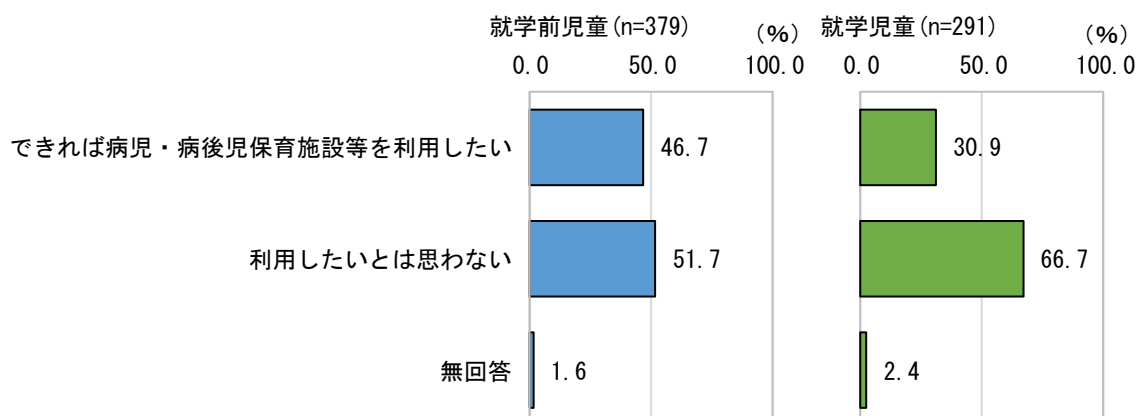
なお、「その他」の意見としては、「職場に連れて行った」「たまたま仕事がお休みだった」などとなっています。



この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、父母のいずれかが仕事を休んで見たが、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。

[就学前児童：問 21-2、就学児童：問 14-2]

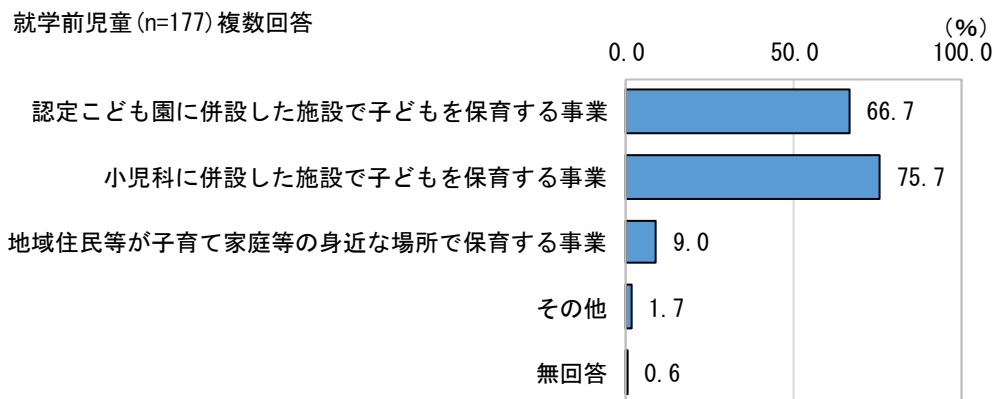
この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看た人に、その際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについて聞いたところ、就学前児童では「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が46.7%、「利用したいとは思わない」が51.7%、就学児童では「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が30.9%、「利用したいとは思わない」が66.7%となっています。



お子さんを病児・病後児のための保育施設等に預ける場合、どのような事業形態が望ましいと思われますか。

[就学前児童：問 21-3]

できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思った人に、子どもを預ける場合の望ましい事業形態について聞いたところ、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が最も多く 75.7%、次いで「認定こども園に併設した施設で子どもを保育する事業」が 66.7%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」が 9.0%となっています。

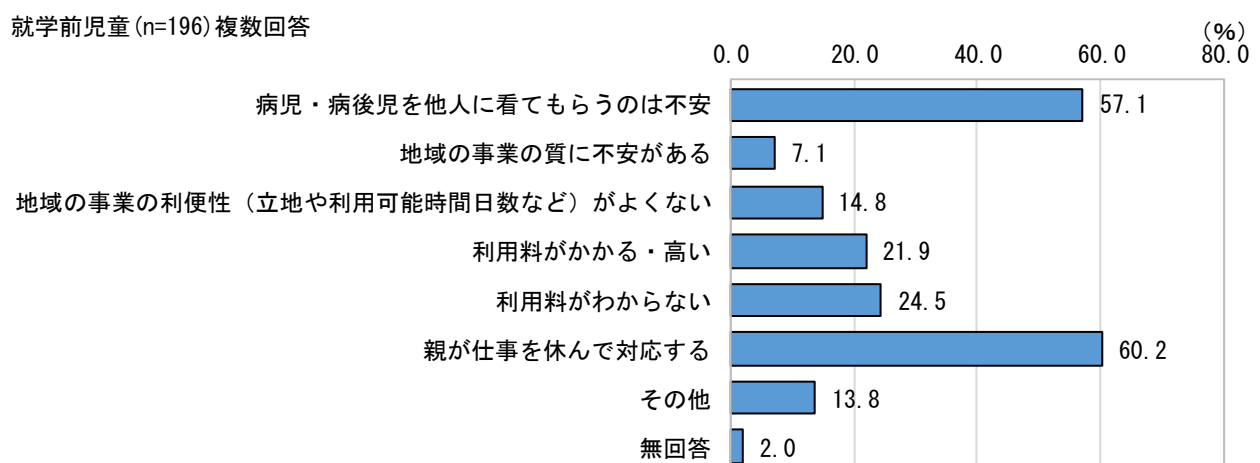


※地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業は、ファミリー・サポート・センター等

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由についてお答えください。

[就学前児童：問 21-4]

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない人に、利用したいと思わない理由について聞いたところ、「親が仕事を休んで対応する」が最も多く 60.2%、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 57.1%、「利用料がわからない」が 24.5%となっています。

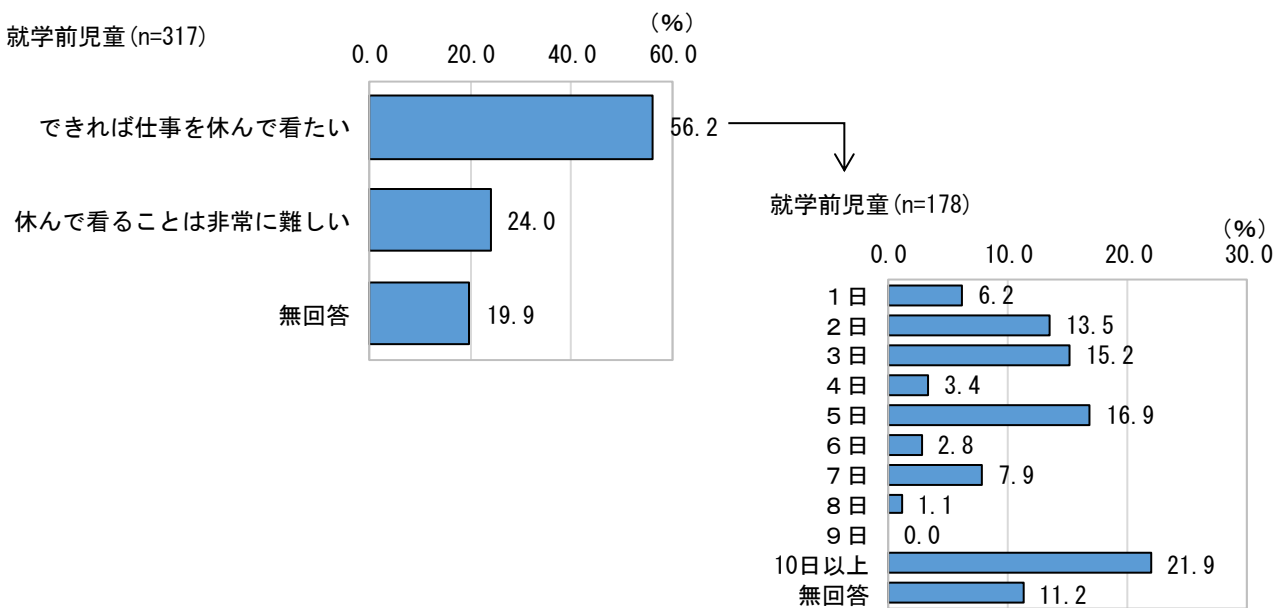


この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思いましたか。

〔就学前児童：問 21-5〕

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看ていない人に、その際、できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったかについて聞いたところ、「できれば仕事を休んで看たい」が 56.2%、「休んで看ることは非常に難しい」が 24.0%となっています。

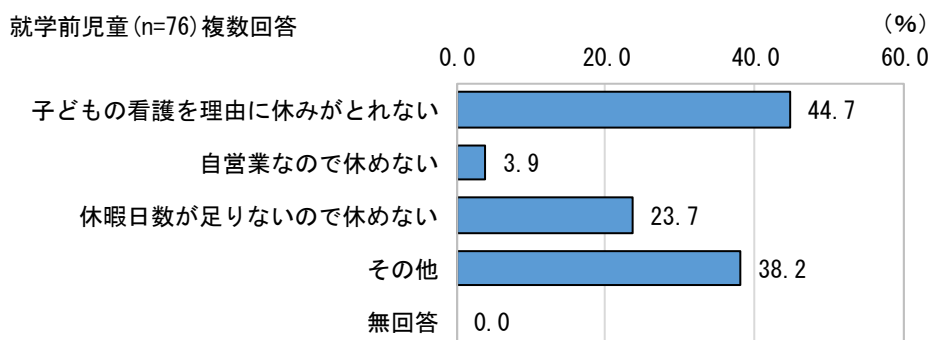
また、できれば仕事を休んで看たいと思う人に、仕事を休んで看たかった日数について聞いたところ、「10日以上」が最も多く 21.9%、次いで「5日」が 16.9%、「3日」が 15.2%となっています。



父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看ることは非常に難しいと思う理由についてお答えください。

〔就学前児童：問 21-6〕

父母のいずれかが仕事を休んで看るのは非常に難しいと思う人に、難しいと思う理由について聞いたところ、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が最も多く 44.7%、「休暇日数が足りないので休めない」が 23.7%、「自営業なので休めない」が 3.9%となっています。



この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、ベビーシッターをどのような目的で利用していますか。

〔就学児童：問 14-3〕

ベビーシッターを利用している人はいませんでした。

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったとき、ファミリー・サポート・センターをどのような目的で利用していますか。

〔就学児童：問 14-4〕

ファミリー・サポート・センターを利用している人は1人で、「保育施設等の利用で足りない時間を補う目的で利用している（朝：夕等）」「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」を目的としており、利用頻度は月1回の1回当たり11時間程度となっています。

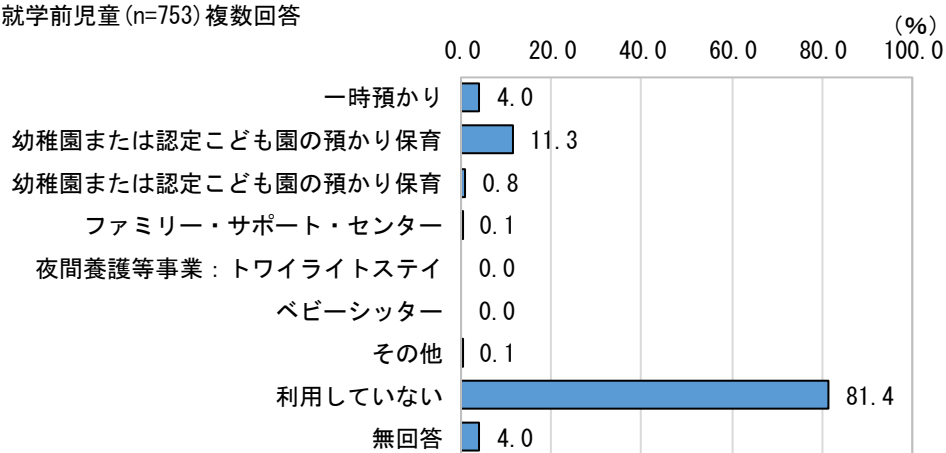
## 9 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。

[就学前児童：問 22]

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期に利用している事業の有無は、「利用していない」が最も多く 81.4%、次いで「幼稚園または認定こども園の預かり保育」が 11.3%、「一時預かり」が 4.0%となっています。

就学前児童 (n=753) 複数回答



※一時預かりとは、私用など理由を問わずに保育所や幼稚園などで一時的に子どもを保育する事業

※幼稚園または認定こども園の預かり保育は、通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ

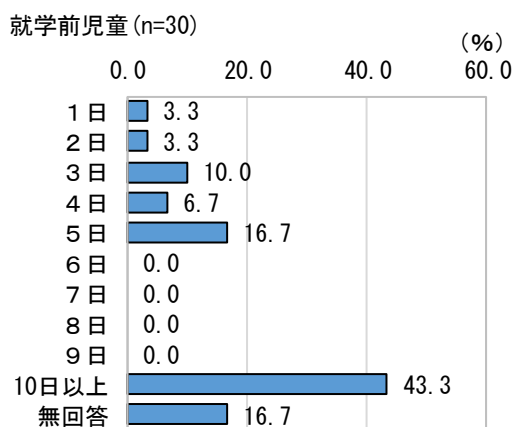
※幼稚園または認定こども園の預かり保育は、2歳児の4月から3歳になるまでの通園の場合のみ

※ファミリー・サポート・センターとは、地域住民が子どもを預かる事業

※夜間養護等事業：トワイライトステイとは、児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業

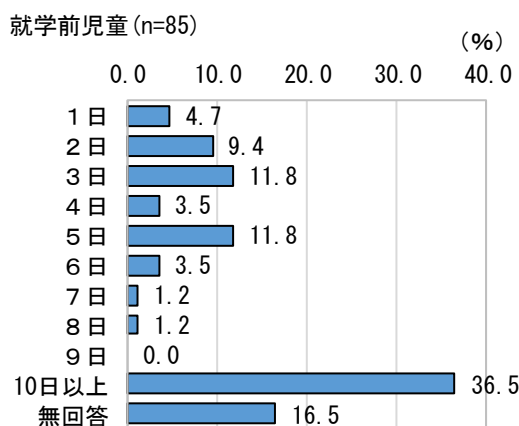
### (1) 一時預かり

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に一時預かりを利用している人に、1年間の利用日数について聞いたところ、「10日以上」が最も多く43.3%、次いで「5日」が16.7%、「3日」が10.0%となっています。



### (2) 幼稚園または認定こども園の預かり保育

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に幼稚園または認定こども園の預かり保育を利用している人に、1年間の利用日数について聞いたところ、「10日以上」が最も多く36.5%、次いで「3日」「5日」がそれぞれ11.8%、「2日」が9.4%となっています。



### (3) 幼稚園または認定こども園の預かり保育

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に幼稚園または認定こども園の預かり保育を利用している人は6人で、1年間の利用日数は、「3日」が1人、「10日以上」が3人となっています。

#### (4) ファミリー・サポート・センター

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期にファミリー・サポート・センターを利用している人は1人で、1年間の利用日数は、「1日」が1人となっています。

#### (5) 夜間養護等事業：トワイライトステイ

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に夜間養護等事業：トワイライトステイを利用している人はいませんでした。

#### (6) ベビーシッター

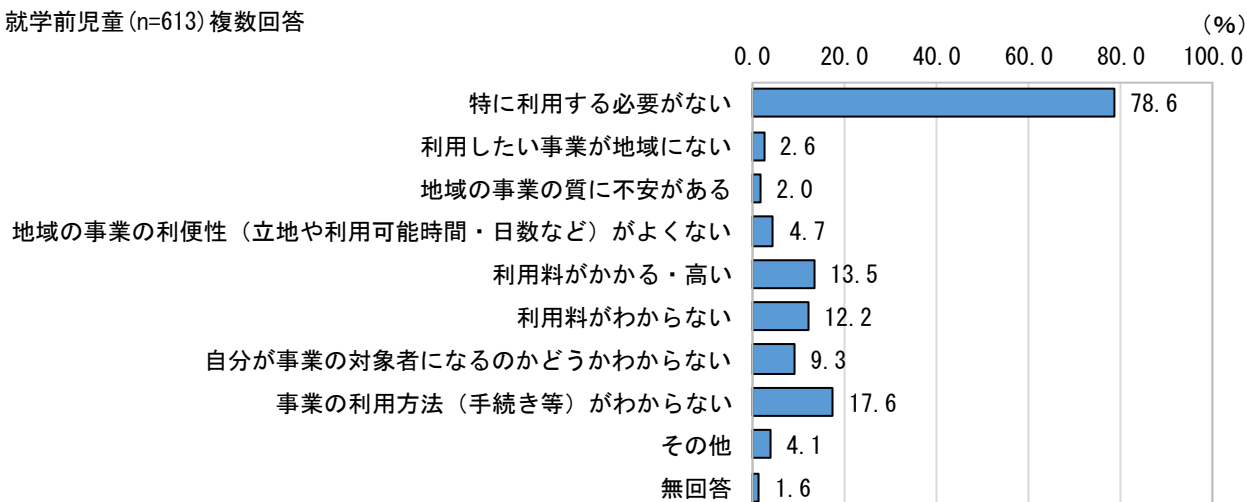
日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期にベビーシッターを利用している人はいませんでした。

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に事業を現在利用していない理由は何ですか。

[就学前児童：問 22-1]

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に事業を利用していない人に、利用していない理由について聞いたところ、「特に利用する必要がない」が最も多く78.6%、次いで「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が17.6%、「利用料がかかる・高い」が13.5%となっています。

就学前児童 (n=613) 複数回答



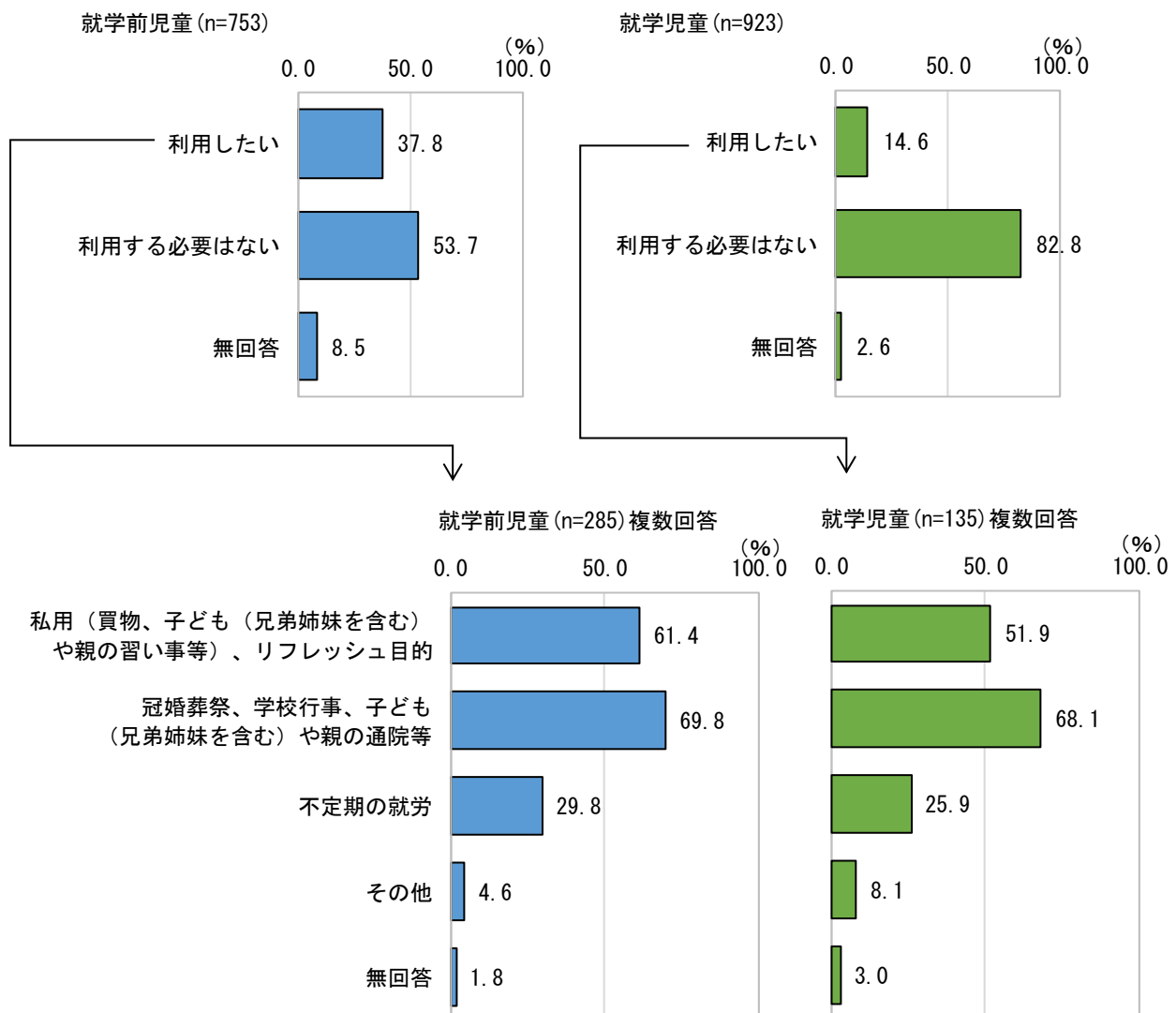


お子さんについて、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。

〔就学前児童：問 23、就学児童：問 15〕

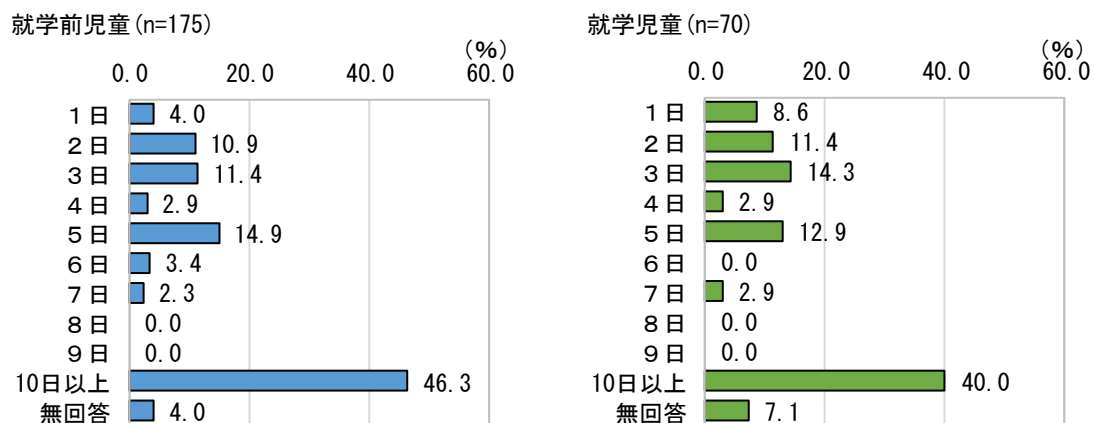
私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、事業の利用希望の有無は、就学前児童では「利用したい」が37.8%、「利用する必要はない」が53.7%、就学児童では「利用したい」が14.6%、「利用する必要はない」が82.8%となっています。

また、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、事業を利用したいと思う人に、具体的な目的について聞いたところ、就学前児童では「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が最も多く69.8%、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が61.4%、「不特定の就労」が29.8%、就学児童では「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が最も多く68.1%、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が51.9%、「不特定の就労」が25.9%となっています。



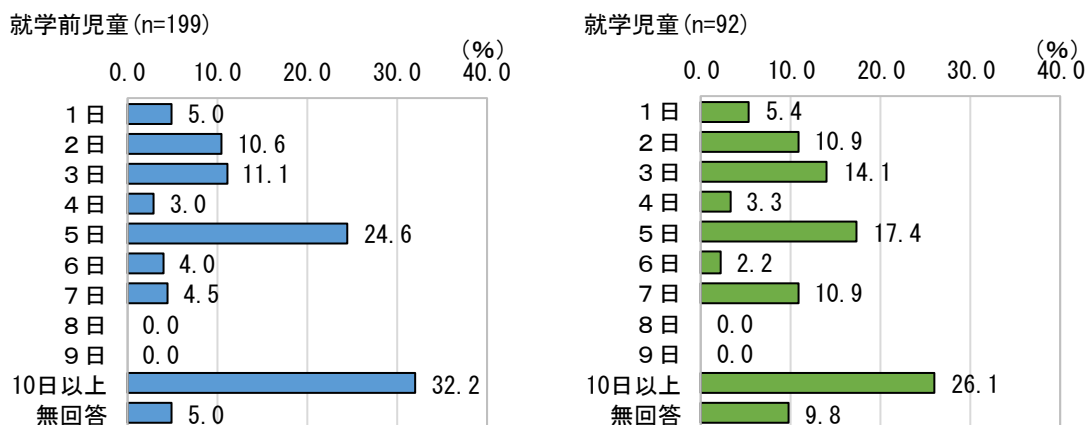
(1) 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的

私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的で、事業を利用したいと思う人に、必要な日数について聞いたところ、就学前児童では「10日以上」が最も多く46.3%、次いで「5日」が14.9%、「3日」が11.4%、就学児童では「10日以上」が最も多く40.0%、次いで「3日」が14.3%、「5日」が12.9%となっています。



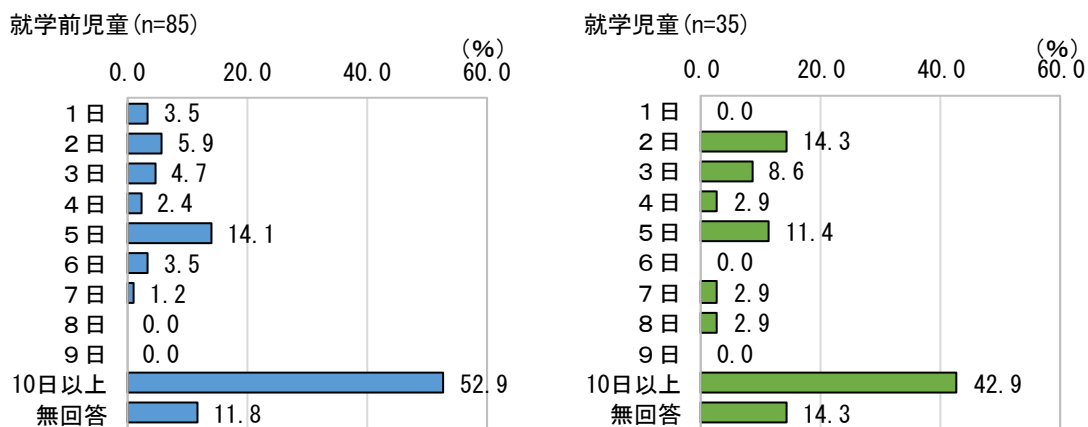
(2) 冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等

冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等の目的で、事業を利用したいと思う人に、必要な日数について聞いたところ、就学前児童では「10日以上」が最も多く32.2%、次いで「5日」が24.6%、「3日」が11.1%、就学児童では「10日以上」が最も多く26.1%、次いで「5日」が17.4%、「3日」が14.1%となっています。



### (3) 不定期の就労

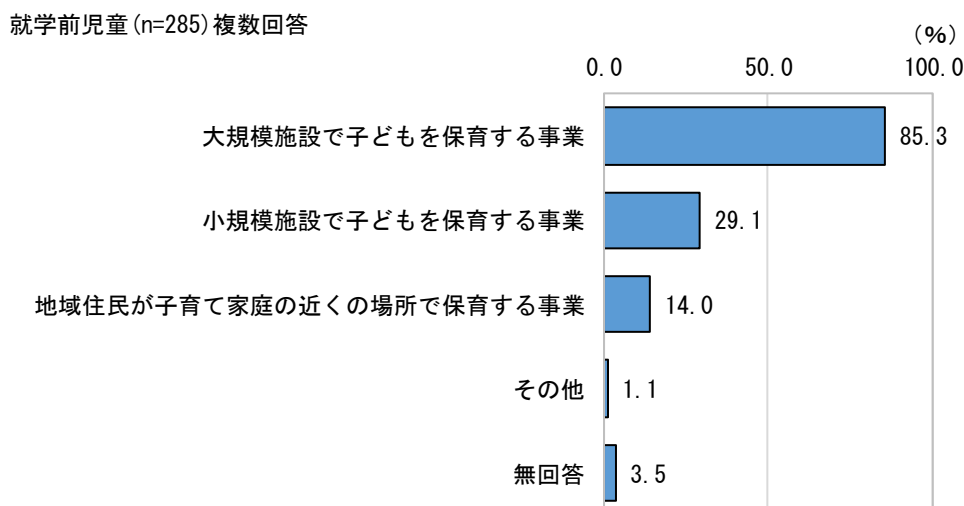
不定期の就労の目的で、事業を利用したいと思う人に、必要な日数について聞いたところ、就学前児童では「10日以上」が最も多く52.9%、次いで「5日」が14.1%、「2日」が5.9%、就学児童では「10日以上」が最も多く42.9%、次いで「2日」が14.3%、「5日」が11.4%となっています。



お子さんを預ける場合、どのような事業形態が望ましいと思われますか。

[就学前児童：問23-1]

不定期の就労の目的で、事業を利用したいと思う人に、子どもを預ける場合の望ましい事業形態について聞いたところ、「大規模施設で子どもを保育する事業」が最も多く85.3%、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業」が29.1%、「地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業」が14.0%となっています。



※大規模施設で子どもを保育する事業とは、幼稚園・保育所等

※小規模施設で子どもを保育する事業とは、地域子育て支援拠点等

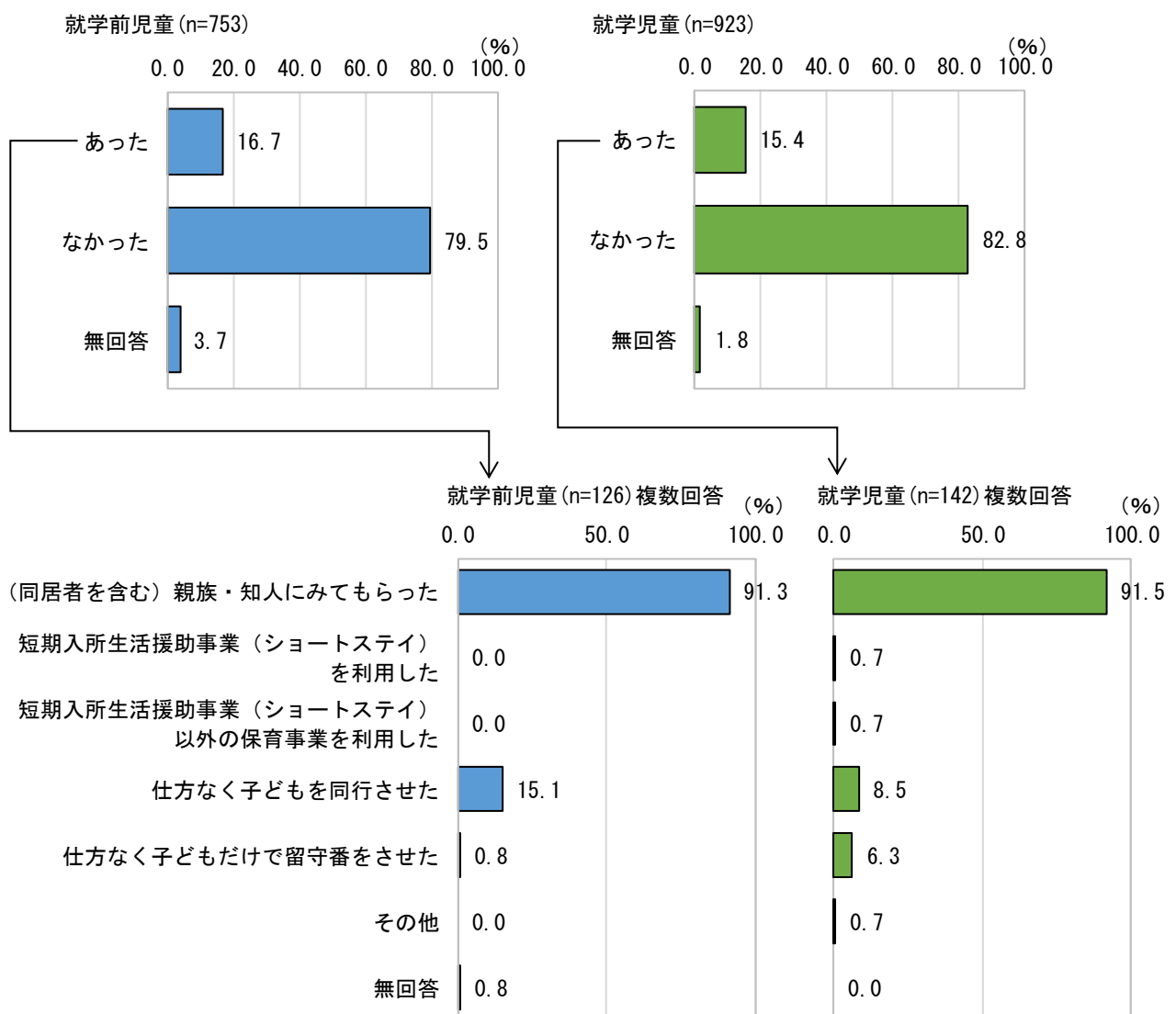
※地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業とは、ファミリー・サポート・センター等

この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか。

〔就学前児童：問 24、就学児童：問 16〕

この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことの有無は、就学前児童では「あった」が16.7%、「なかった」が79.5%、就学児童では「あった」が15.4%、「なかった」が82.8%となっています。

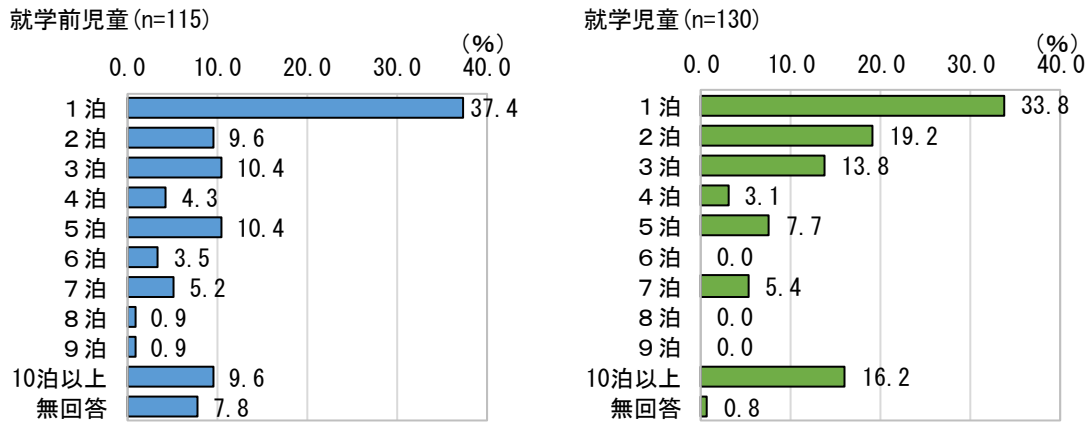
また、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあった人に、この1年間の対処方法について聞いたところ、就学前児童では「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が最も多く91.3%、就学児童では「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が最も多く91.5%となっています。



※短期入所生活援助事業（ショートステイ）とは、児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業  
 ※短期入所生活援助事業（ショートステイ）以外の保育事業とは、認可外保育施設、ベビーシッター等

(1) (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった

この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあったとき、(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった人に、対処した日数について聞いたところ、就学前児童では「1泊」が最も多く37.4%、次いで「3泊」「5泊」がそれぞれ10.4%、「2泊」「10泊以上」がそれぞれ9.6%、就学児童では「1泊」が最も多く33.8%、次いで「2泊」が19.2%、「10泊以上」が16.2%となっています。



(2) 短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した

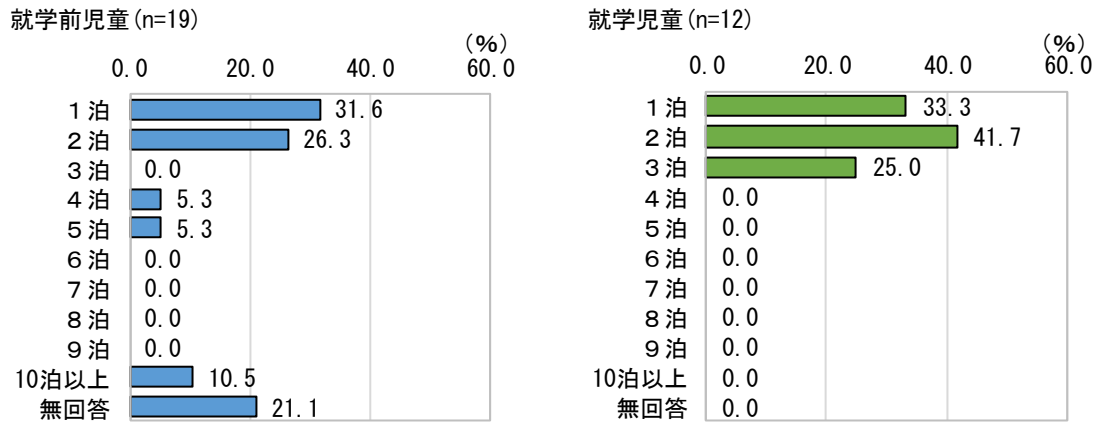
この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあったとき、短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した人に、対処した日数について聞いたところ、就学前児童では0人、就学児童(1人)となっています。

(3) 短期入所生活援助事業(ショートステイ)以外の保育事業を利用した

この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあったとき、短期入所生活援助事業(ショートステイ)以外の保育事業を利用した人に、対処した日数について聞いたところ、就学前児童では0人、就学児童(1人)となっています。

(4) 仕方なく子どもを同行させた

この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあったとき、仕方なく子どもを同行させた人に、対処した日数について聞いたところ、「1泊」が最も多く31.6%、次いで「2泊」が26.3%、「10泊以上」が10.5%、就学児童では「2泊」が最も多く41.7%、次いで「1泊」が33.3%、「3泊」が25.0%となっています。



(5) 仕方なく子どもだけで留守番をさせた

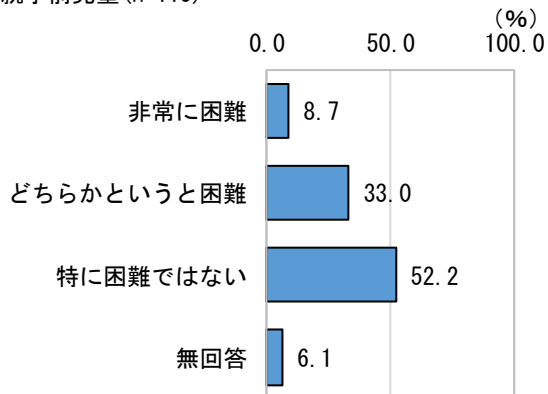
この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあったとき、仕方なく子どもだけで留守番をさせた人に、対処した日数について聞いたところ、就学前児童では0人、就学児童（9人）では「1泊」が7人、「2泊」が1人、「5泊」が1人となっています。

(同居者を含む) 親族・知人にみてもらう場合の困難度はどの程度でしたか。

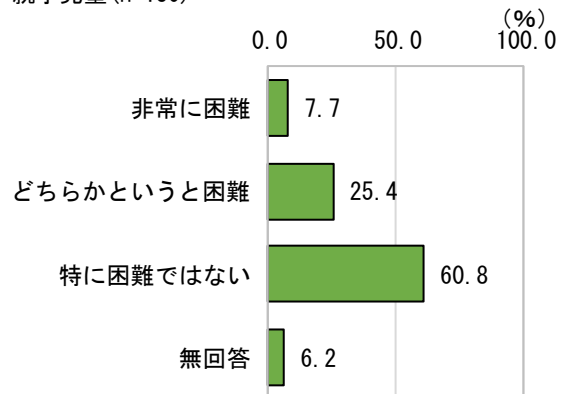
[就学前児童：問 24-1、就学児童：問 16-1]

この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあったとき、(同居者を含む)親族・知人にみてもらった人に、みてもらう場合の困難度について聞いたところ、就学前児童では「特に困難ではない」が最も多く52.2%、次いで「どちらかというと困難」が33.0%、「非常に困難」が8.7%、就学児童では「特に困難ではない」が最も多く60.8%、次いで「どちらかというと困難」が25.4%、「非常に困難」が7.7%となっています。

就学前児童(n=115)



就学児童(n=130)



## 10 放課後の過ごし方について

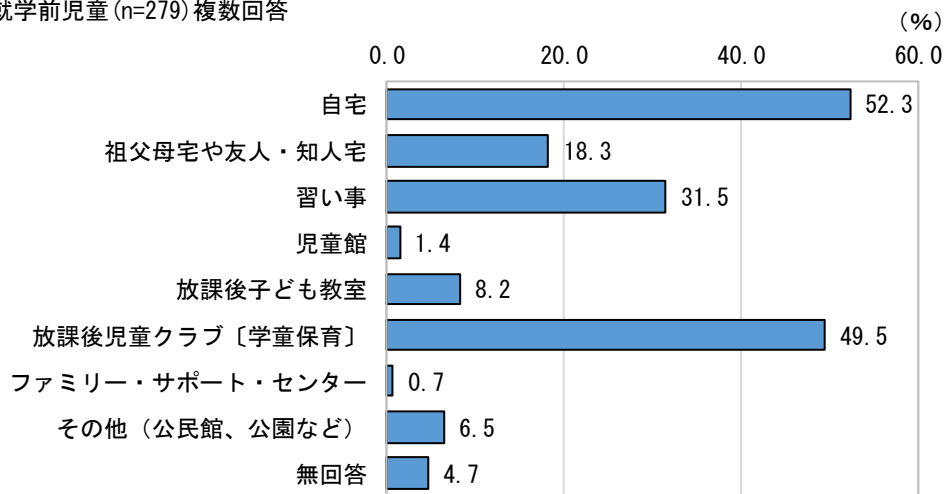
お子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

〔就学前児童：問 25〕

小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所は、「自宅」が最も多く 52.3%、次いで「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が 49.5%、「習い事」が 31.5% となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が 20.7 ポイント増加しています。

就学前児童 (n=279) 複数回答



(単位：%)

	自宅	祖父母宅 や友人・ 知人宅	習い事	児童館	放課後子 ども教室	放課後児 童クラブ 〔学童保 育〕	ファミ リー・サ ポート・ センター	その他 (公民 館、公園 など)	無回答
就学前児童									
平成25年度 (n=163)	65.0	16.6	43.6	1.2	4.9	28.8	0.0	7.4	-
平成30年度 (n=279)	52.3	18.3	31.5	1.4	8.2	49.5	0.7	6.5	4.7
0歳 (n=26)	46.2	23.1	23.1	0.0	7.7	57.7	0.0	7.7	7.7
1歳 (n=27)	59.3	25.9	37.0	3.7	11.1	44.4	0.0	0.0	7.4
2歳 (n=40)	50.0	17.5	27.5	2.5	10.0	45.0	0.0	5.0	5.0
3歳 (n=39)	53.8	23.1	30.8	2.6	5.1	61.5	2.6	7.7	2.6
4歳 (n=23)	47.8	17.4	21.7	0.0	8.7	52.2	0.0	4.3	17.4
5歳 (n=168)	45.2	16.7	29.8	1.2	6.5	51.2	1.2	5.4	6.0

※習い事とは、ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など

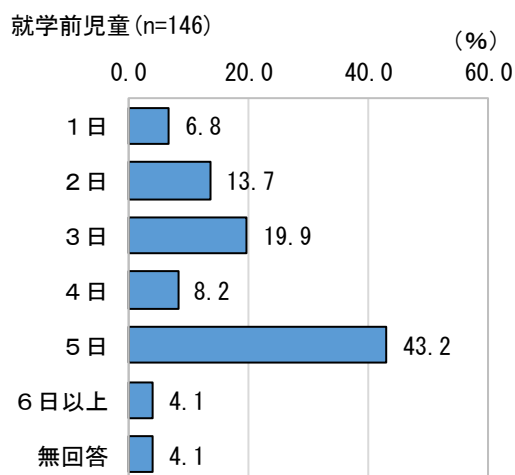
※放課後子ども教室では、地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校や公民館で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組を行っており、保護者の就労の有無に関わらず、すべての小学生が利用できます。

※放課後児童クラブとは、地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下で、子どもの生活の場を提供するものです。



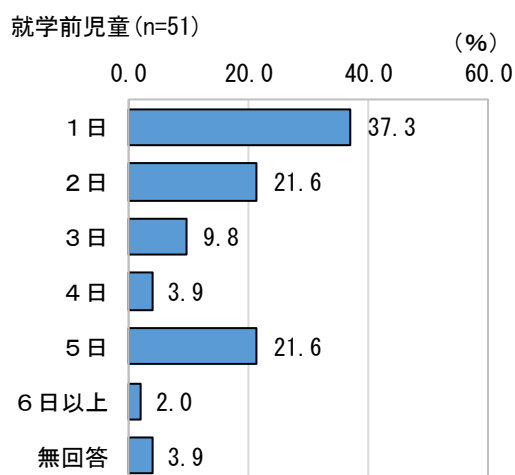
### (1) 自宅

小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間を自宅で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「5日」が最も多く43.2%、次いで「3日」が19.9%、「2日」が13.7%となっています。



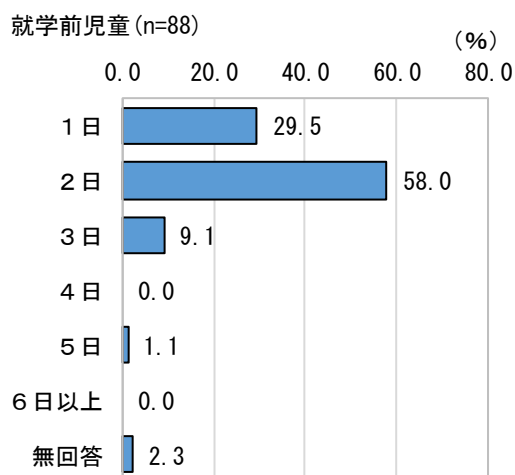
### (2) 祖父母宅や友人・知人宅

小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間を祖父母宅や友人・知人宅で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「1日」が最も多く37.3%、次いで「2日」「5日」がそれぞれ21.6%、「3日」が9.8%となっています。



### (3) 習い事

小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間を習い事で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「2日」が最も多く 58.0%、次いで「1日」が 29.5%、「3日」が 9.1%となっています。

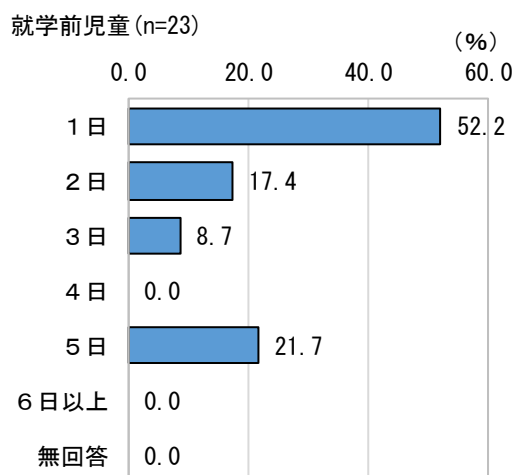


### (4) 児童館

小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間を児童館で過ごさせたいと思う人は4人で、希望する週当たりの日数は、「1日」が1人、「3日」が1人、「5日」が1人、「6日以上」が1人となっています。

### (5) 放課後子ども教室

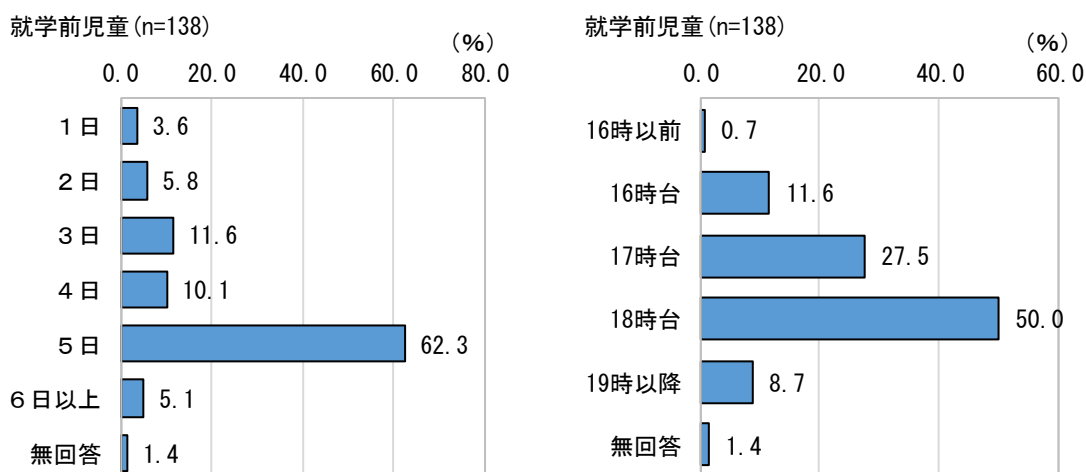
小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間を放課後子ども教室で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「1日」が最も多く 52.2%、次いで「5日」が 21.7%、「2日」が 17.4%となっています。



### (6) 放課後児童クラブ〔学童保育〕

小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間を放課後児童クラブ〔学童保育〕で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「5日」が最も多く62.3%、次いで「3日」が11.6%、「4日」が10.1%となっています。

また、利用を希望する下校時からの時間帯については、「18時台」が最も多く50.0%、次いで「17時台」が27.5%、「16時台」が11.6%となっています。

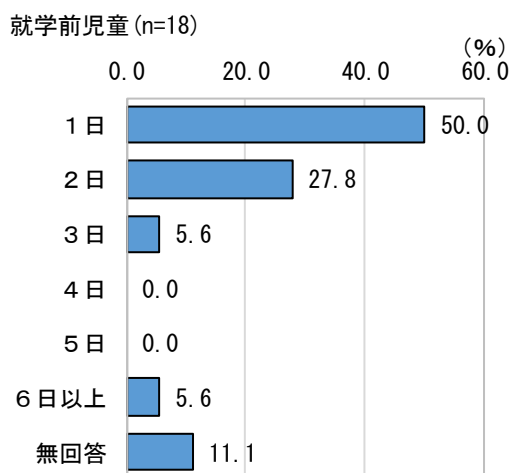


### (7) ファミリー・サポート・センター

小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をファミリー・サポート・センターで過ごさせたいと思う人は2人で、希望する週当たりの日数は、「1日」が1人、「3日」が1人となっています。

### (8) その他（公民館、公園など）

小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間を公民館、公園などで過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「1日」が最も多く50.0%、次いで「2日」が27.8%、「3日」「6日以上」がそれぞれ5.6%となっています。



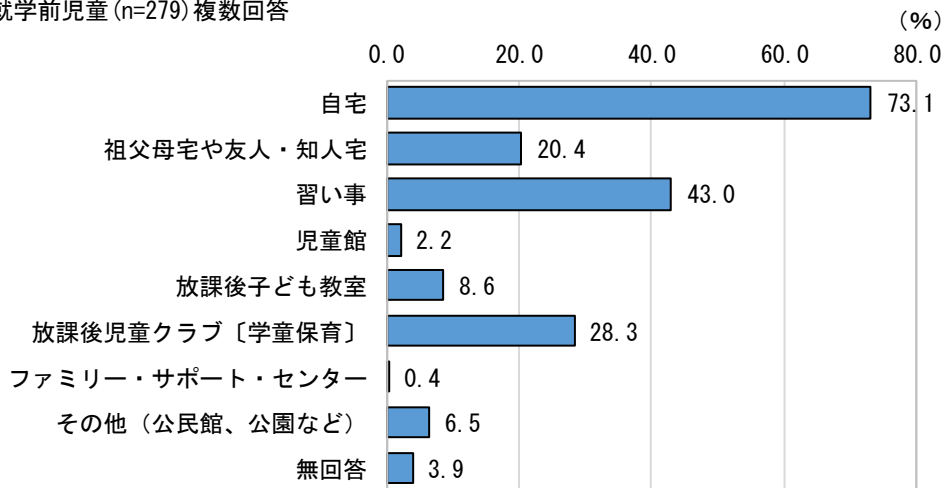
お子さんについて、小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

〔就学前児童：問 26〕

小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所は、「自宅」が最も多く 73.1%、次いで「習い事」が 43.0%、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が 28.3% となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が 13.0 ポイント増加しています。

就学前児童 (n=279) 複数回答



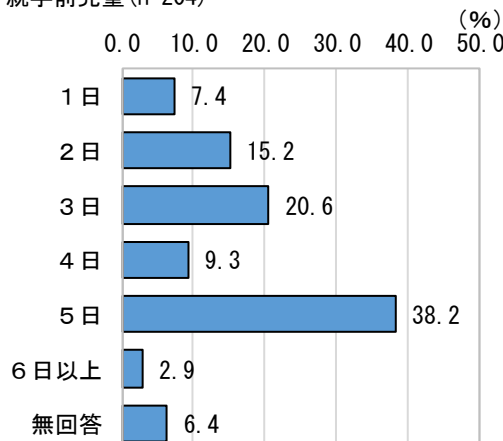
(単位：%)

就学前児童	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事	児童館	放課後子ども教室	放課後児童クラブ〔学童保育〕	ファミリー・サポート・センター	その他 (公民館、公園など)	無回答
平成25年度 (n=163)	74.8	15.3	54.0	1.2	3.1	15.3	0.0	8.6	-
平成30年度 (n=279)	73.1	20.4	43.0	2.2	8.6	28.3	0.4	6.5	3.9
0歳 (n=26)	69.2	30.8	30.8	0.0	7.7	30.8	0.0	7.7	3.8
1歳 (n=27)	77.8	29.6	51.9	3.7	14.8	29.6	0.0	0.0	7.4
2歳 (n=40)	60.0	22.5	40.0	7.5	5.0	30.0	0.0	10.0	7.5
3歳 (n=39)	84.6	25.6	48.7	2.6	15.4	38.5	0.0	7.7	0.0
4歳 (n=23)	69.6	17.4	34.8	0.0	4.3	39.1	0.0	4.3	13.0
5歳 (n=168)	67.9	20.8	42.3	2.4	7.7	30.4	0.6	7.7	5.4

(1) 自宅

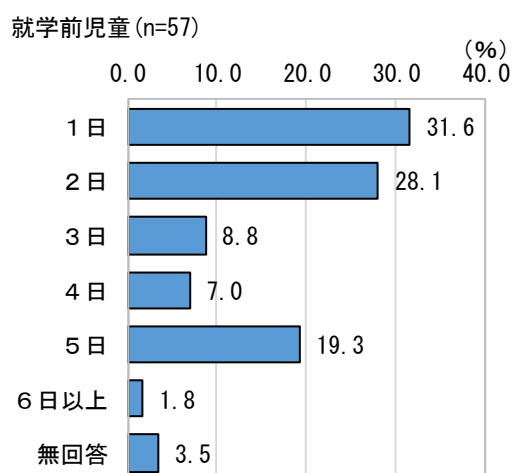
小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を自宅で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「５日」が最も多く 38.2%、次いで「３日」が 20.6%、「２日」が 15.2% となっています。

就学前児童 (n=204)



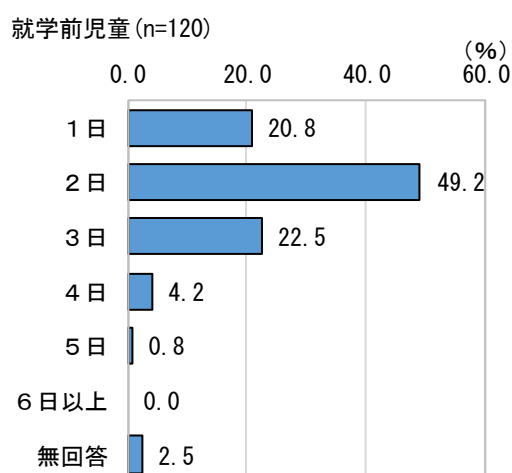
## (2) 祖父母宅や友人・知人宅

小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を祖父母宅や友人・知人宅で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「1日」が最も多く31.6%、次いで「2日」が28.1%、「5日」が19.3%となっています。



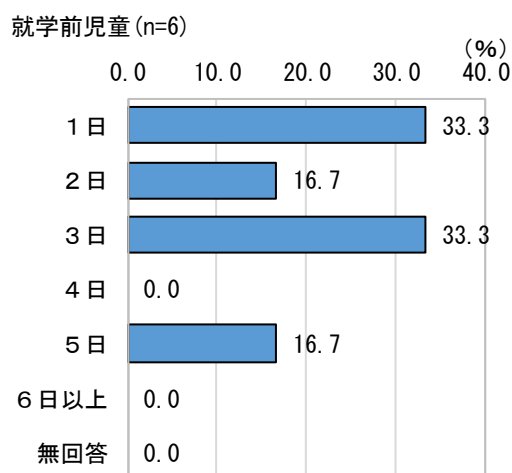
## (3) 習い事

小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を習い事で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「2日」が最も多く49.2%、次いで「3日」が22.5%、「1日」が20.8%となっています。



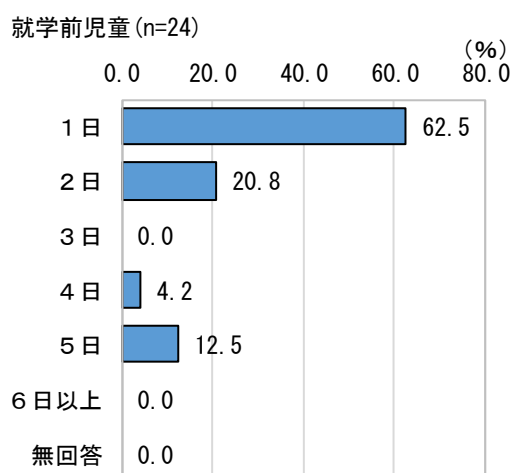
#### (4) 児童館

小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を児童館で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「1日」「3日」がそれぞれ最も多く33.3%、次いで「2日」「5日」がそれぞれ16.7%となっています。



#### (5) 放課後子ども教室

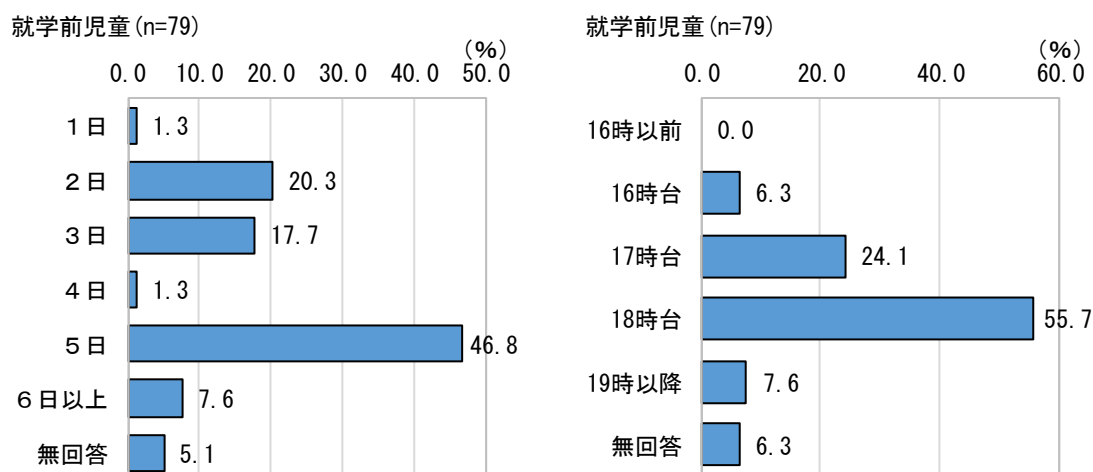
小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を放課後子ども教室で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「1日」が最も多く62.5%、次いで「2日」が20.8%、「5日」が12.5%となっています。



### (6) 放課後児童クラブ〔学童保育〕

小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を放課後児童クラブ〔学童保育〕で過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「5日」が最も多く46.8%、次いで「2日」が20.3%、「3日」が17.7%となっています。

また、利用を希望する下校時からの時間帯については、「18時台」が最も多く55.7%、次いで「17時台」が24.1%、「19時以降」が7.6%となっています。

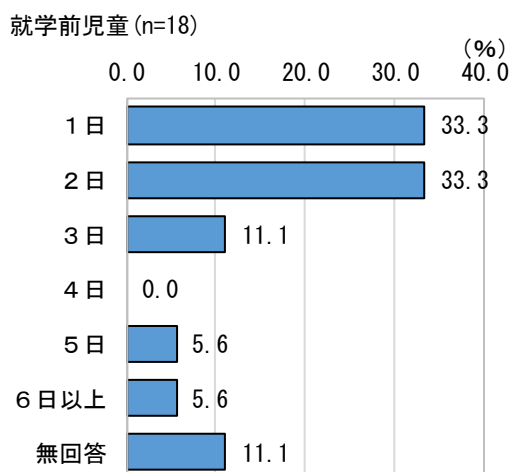


### (7) ファミリー・サポート・センター

小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をファミリー・サポート・センターで過ごさせたいと思う人は1人で、希望する週当たりの日数は、「3日」が1人となっています。

### (8) その他（公民館、公園など）

小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を公民館、公園などで過ごさせたいと思う人に、希望する週当たりの日数について聞いたところ、「1日」「2日」がそれぞれ最も多く33.3%、次いで「3日」が11.1%、「5日」「6日以上」がそれぞれ5.6%となっています。



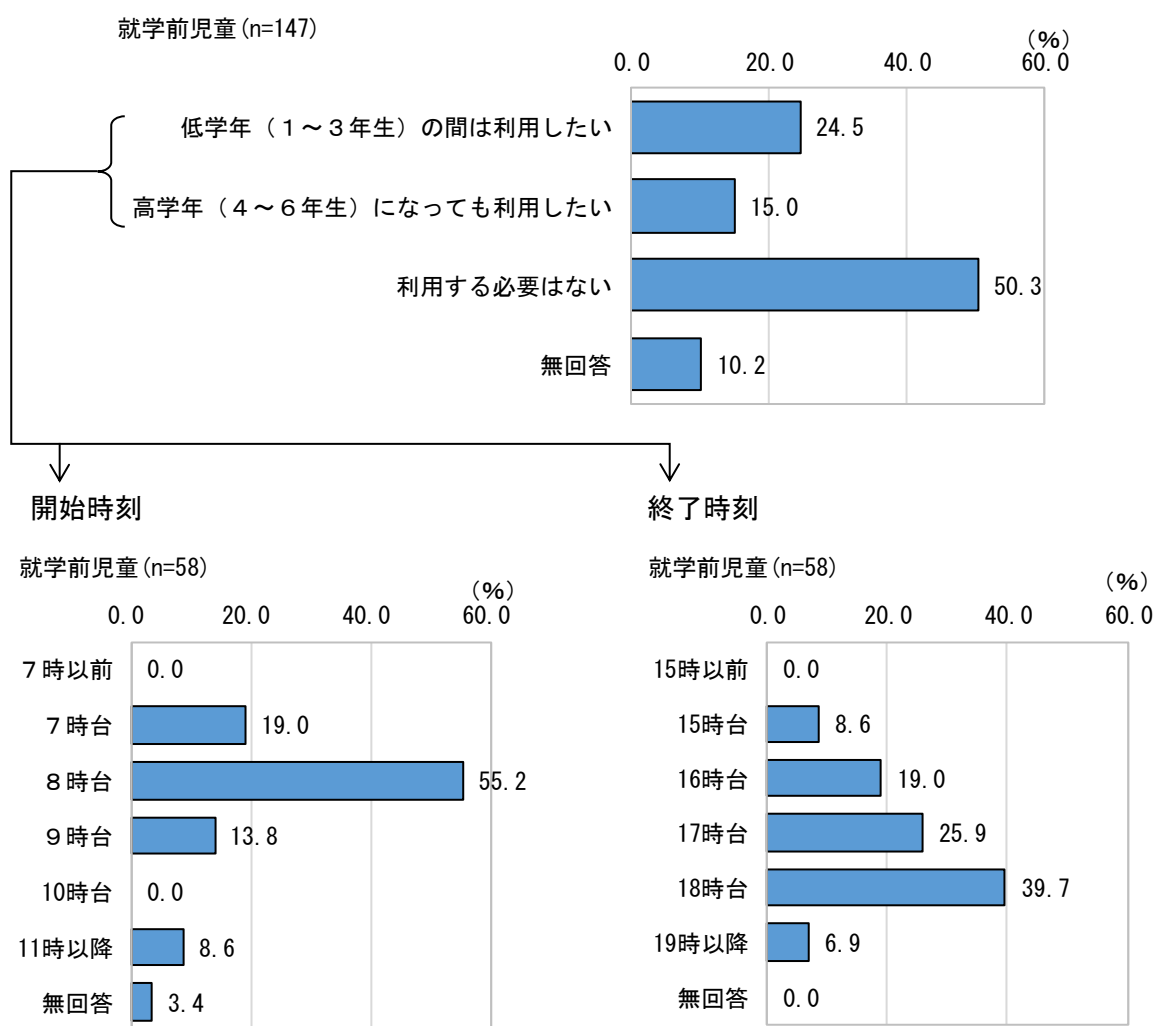
お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。

[就学前児童：問 27]

(1) 土曜日

土曜日の放課後児童クラブの利用希望の有無は、「利用する必要はない」が最も多く 50.3%、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 24.5%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 15.0%となっています。

また、土曜日の放課後児童クラブの利用希望がある人に、利用したい時間帯について聞いたところ、開始時刻では「8時台」が最も多く 55.2%、終了時刻では「18時台」が最も多く 39.7%となっています。

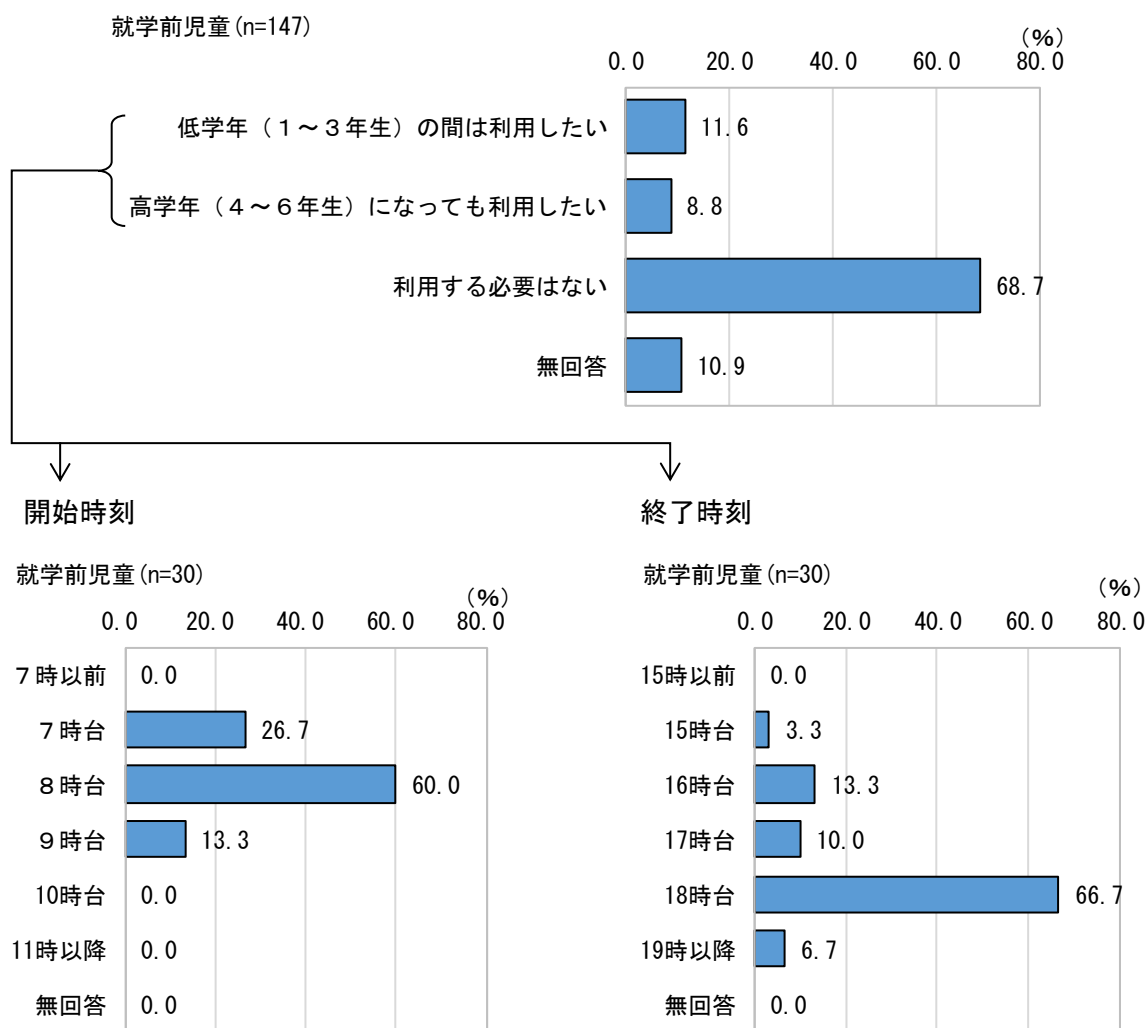




## (2) 日曜・祝日

日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望の有無は、「利用する必要はない」が最も多く 68.7%、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 11.6%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 8.8%となっています。

また、日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望がある人に、利用したい時間帯について聞いたところ、開始時刻では「8時台」が最も多く 60.0%、終了時刻では「18時台」が最も多く 66.7%となっています。

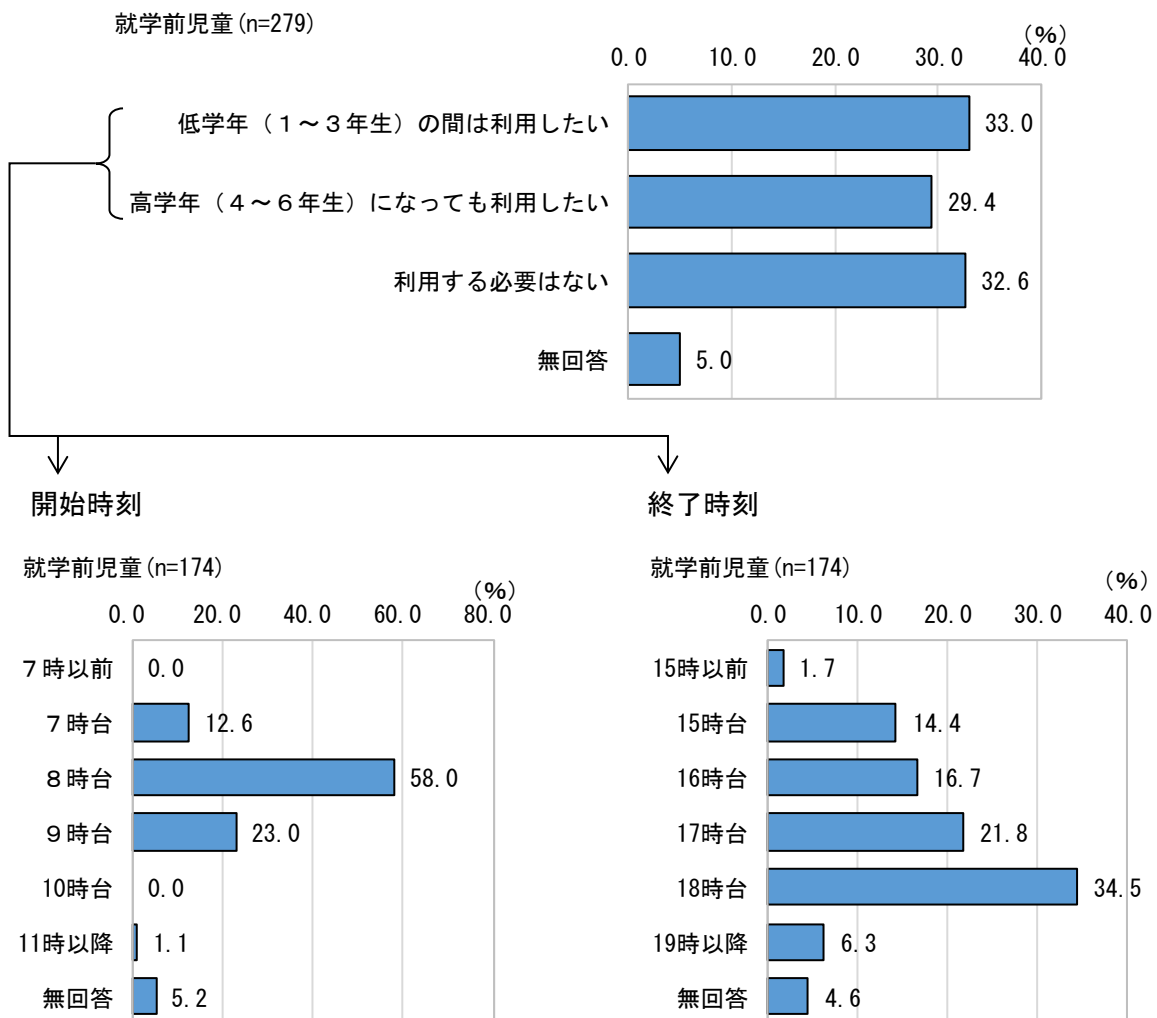


お子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。

〔就学前児童：問 28〕

夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望の有無は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が最も多く 33.0%、次いで「利用する必要はない」が 32.6%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 29.4%となっています。

また、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望がある人に、利用したい時間帯について聞いたところ、開始時刻では「8時台」が最も多く 58.0%、終了時刻では「18時台」が最も多く 34.5%となっています。



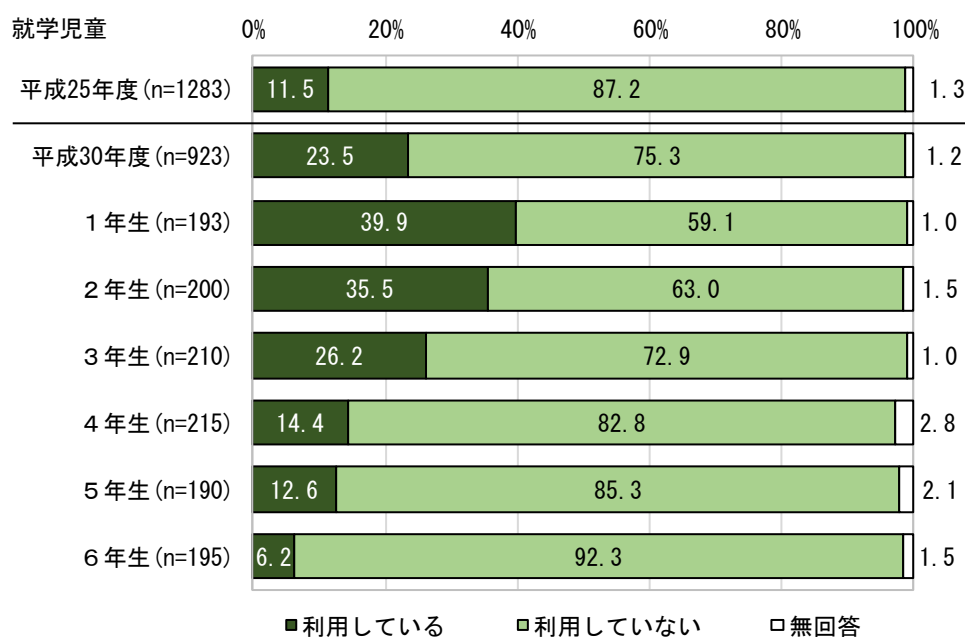
お子さんについて、現在、放課後児童クラブを利用していますか。

〔就学児童：問12〕

放課後児童クラブの利用の有無は、「利用している」が23.5%、「利用していない」が75.3%となっています。

また、平成25年度調査結果と比較すると、「利用している」では12.0ポイント増加しています。

さらに、学年別にみると、1年生が最も多く39.9%で、学年が上がるにつれて「利用している」割合が減っています。



お子さんの放課後児童クラブの利用日数はどれくらいですか。また、利用している理由について、お子さんの身の回りの世話を主にしている方の状況についてお答えください。

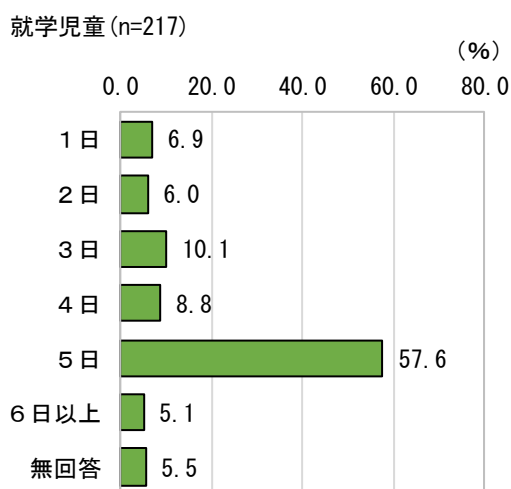
[就学児童：問 12-1]

(1) 1週当たりの利用日数、土曜日・日曜日の利用

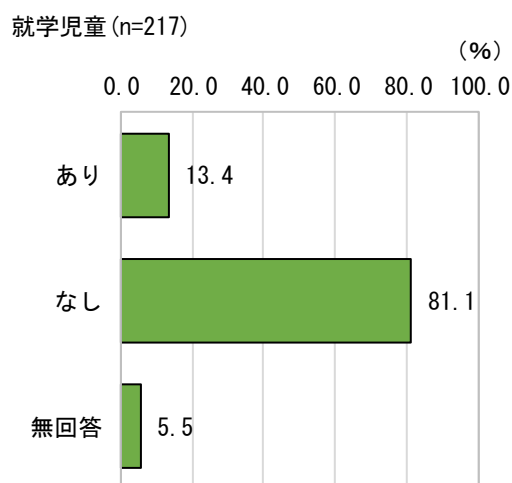
放課後児童クラブを利用している人に、1週当たりの利用日数について聞いたところ、1週当たりの日数は「5日」が最も多く57.6%、次いで「3日」が10.1%、「4日」が8.8%となっています。

また、1週当たりの利用のうち土曜日・日曜日の利用の有無は、「あり」が13.4%、「なし」が81.1%となっています。

1週当たり日数

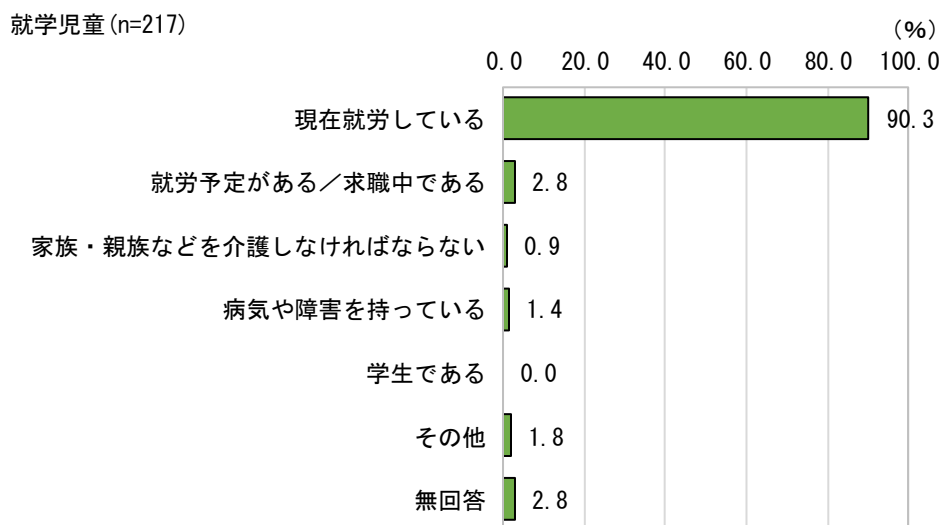


うち土曜日・日曜日の利用の有無



(2) お子さんの身の回りの世話を主にしている方の状況

放課後児童クラブを利用している人に、子どもの身の回りの世話を主にしている方の状況について聞いたところ、「現在就労している」が最も多く90.3%、次いで「就労予定がある／求職中である」が2.8%、「病気や障害を持っている」が1.4%となっています。



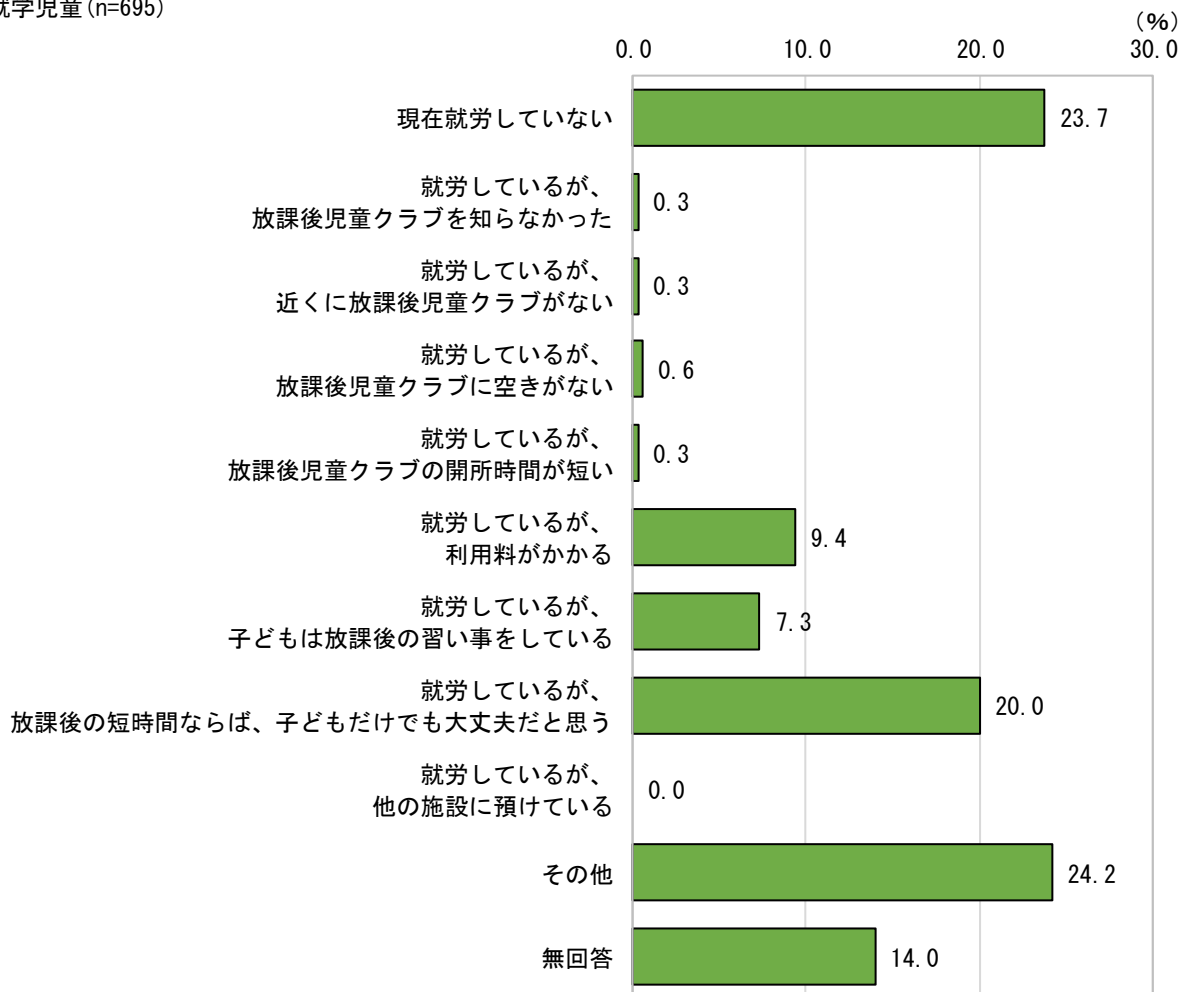
放課後児童クラブを利用していない理由について、お子さんの身の回りの世話を主にしている方の状況についてお答えください。

〔就学児童：問 12-2〕

放課後児童クラブを利用していない人に、利用していない理由について聞いたところ、「現在就労していない」が最も多く 23.7%、次いで「就労しているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思う」が 20.0%、「就労しているが、利用料がかかる」が 9.4%となっています。

なお、「その他」の意見としては、「子どもが帰ってくる前に帰ってくるから」「自営業で家にいることが多いから」「家に祖父母が居るので」「子どもたちが大丈夫と言うので」などとなっています。

就学児童 (n=695)



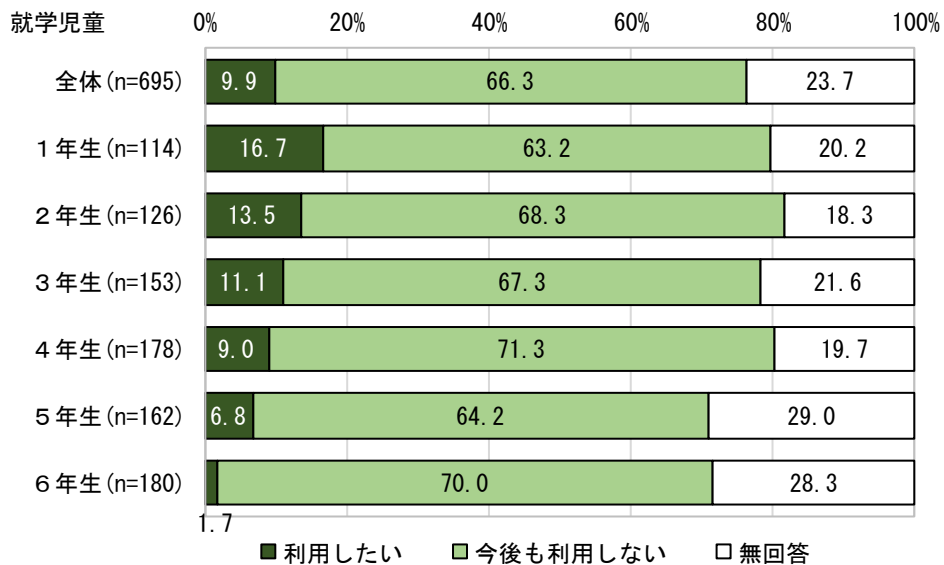
お子さんについて、現在放課後児童クラブを利用していないが、今後利用したいと思いますか。また、利用したい場合は、どれくらい利用したいですか。

[就学児童：問 12-3]

### (1) 利用希望

現在、放課後児童クラブを利用していない人に、今後の利用希望について聞いたところ、「利用したい」が9.9%、「今後も利用しない」が66.3%となっています。

また、学年別でみると、1年生が最も多く16.7%で、学年が上がるにつれて「利用したい」割合が減っています。

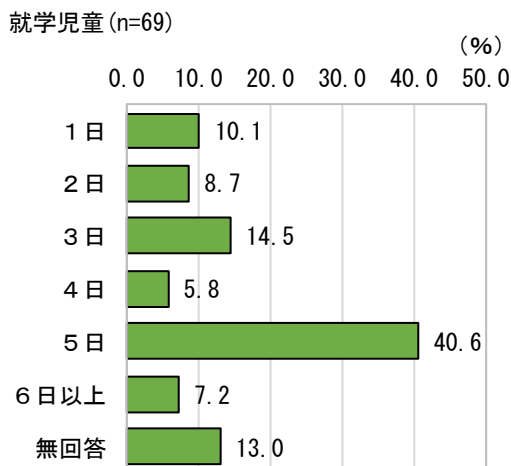


### (2) 1週当たりの利用日数、土曜日・日曜日の利用

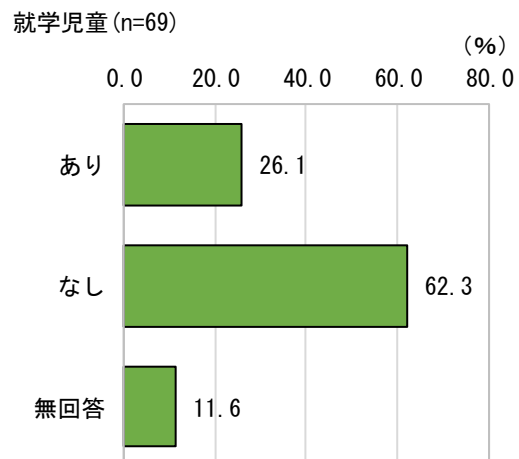
今後、放課後児童クラブを利用したい人に、1週当たりの利用日数について聞いたところ、「5日」が最も多く40.6%、次いで「3日」が14.5%、「1日」が10.1%となっています。

また、1週当たりの利用のうち土曜日・日曜日の利用の有無は、「あり」が26.1%、「なし」が62.3%となっています。

#### 1週当たり日数



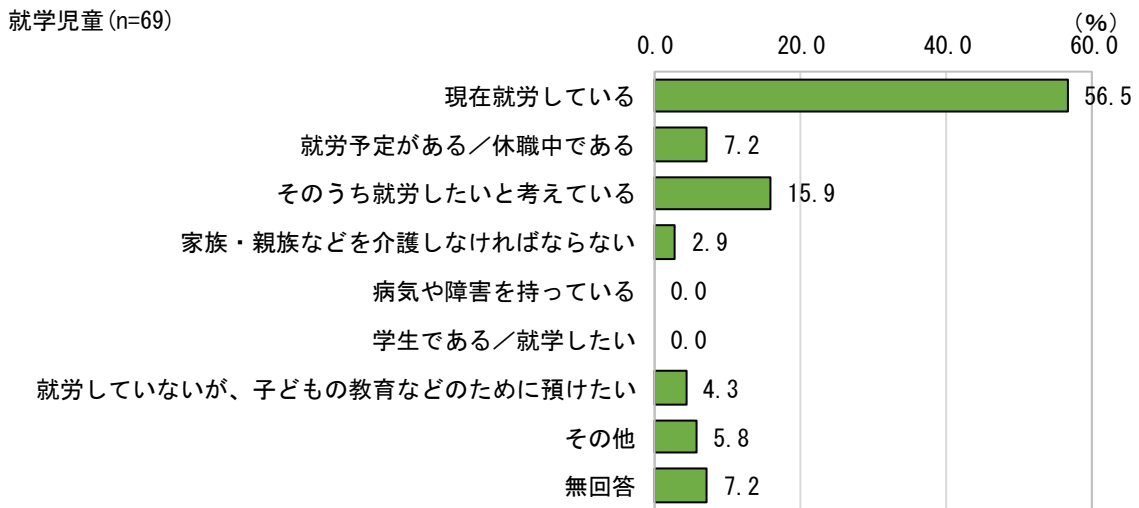
#### うち土曜日・日曜日の利用の有無



今後、放課後児童クラブを利用したい理由について、お子さんの身の回りの世話を主にしている方の状況についてお答えください。

[就学児童：問 12-4]

今後、放課後児童クラブを利用したい人に、利用したい理由について聞いたところ、「現在就労している」が最も多く 56.5%、次いで「そのうち就労したいと考えている」が 15.9%、「就労予定がある／休職中である」が 7.2%となっています。

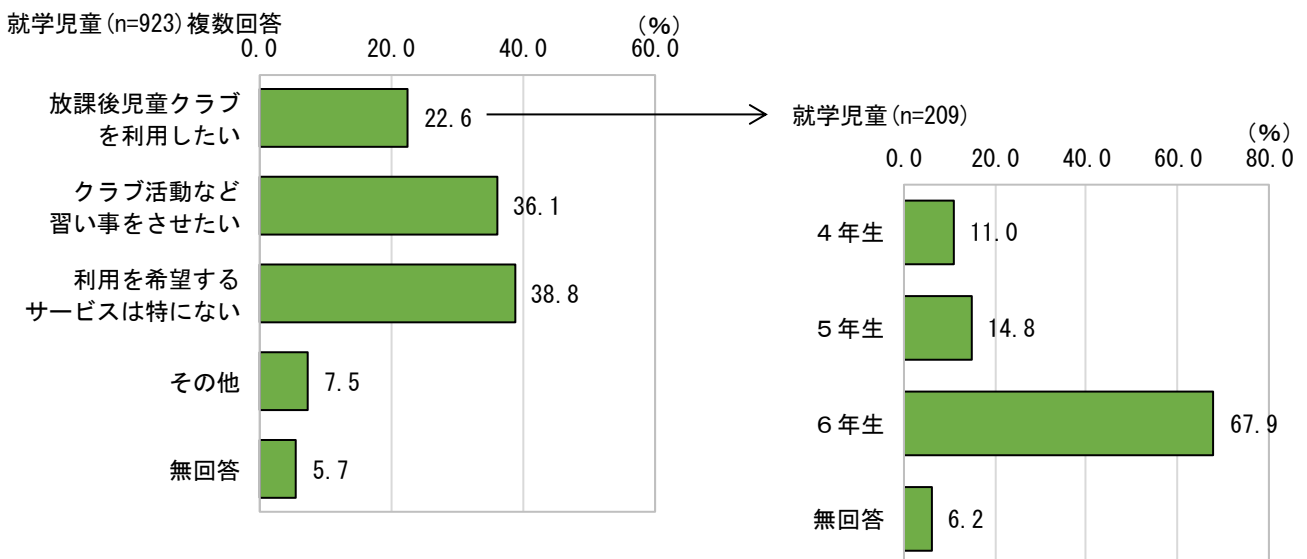


小学4年生以降の放課後の過ごし方について、どのようなことを希望しますか。

[就学児童：問 13]

小学4年生以降の放課後の過ごし方の希望は、「利用を希望するサービスは特にない」が最も多く 38.8%、次いで「クラブ活動など習い事をさせたい」が 36.1%、「放課後児童クラブを利用したい」が 22.6%となっています。

また、放課後児童クラブを利用したい人に、何年生まで利用したいかについて聞いたところ、「6年生」が最も多く 67.9%、次いで「5年生」が 14.8%、「4年生」が 11.0%となっています。



## 11 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

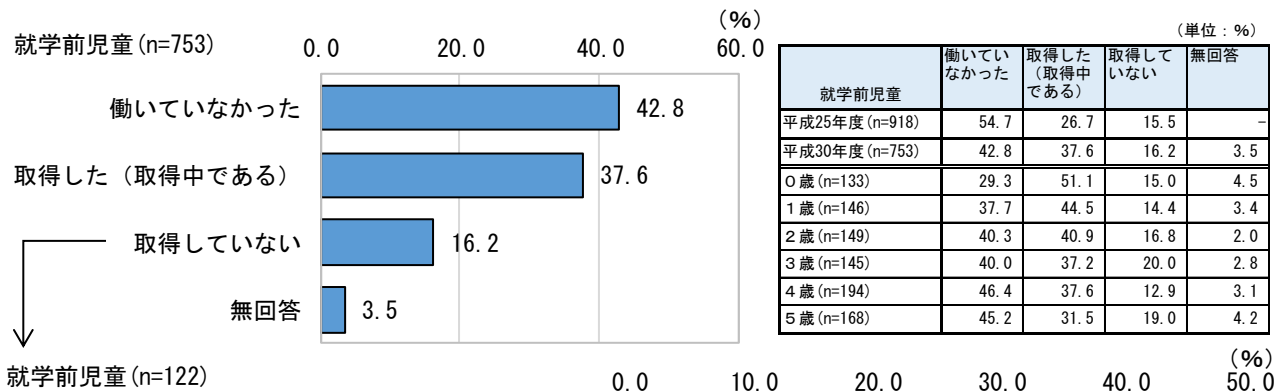
お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

[就学前児童：問 29]

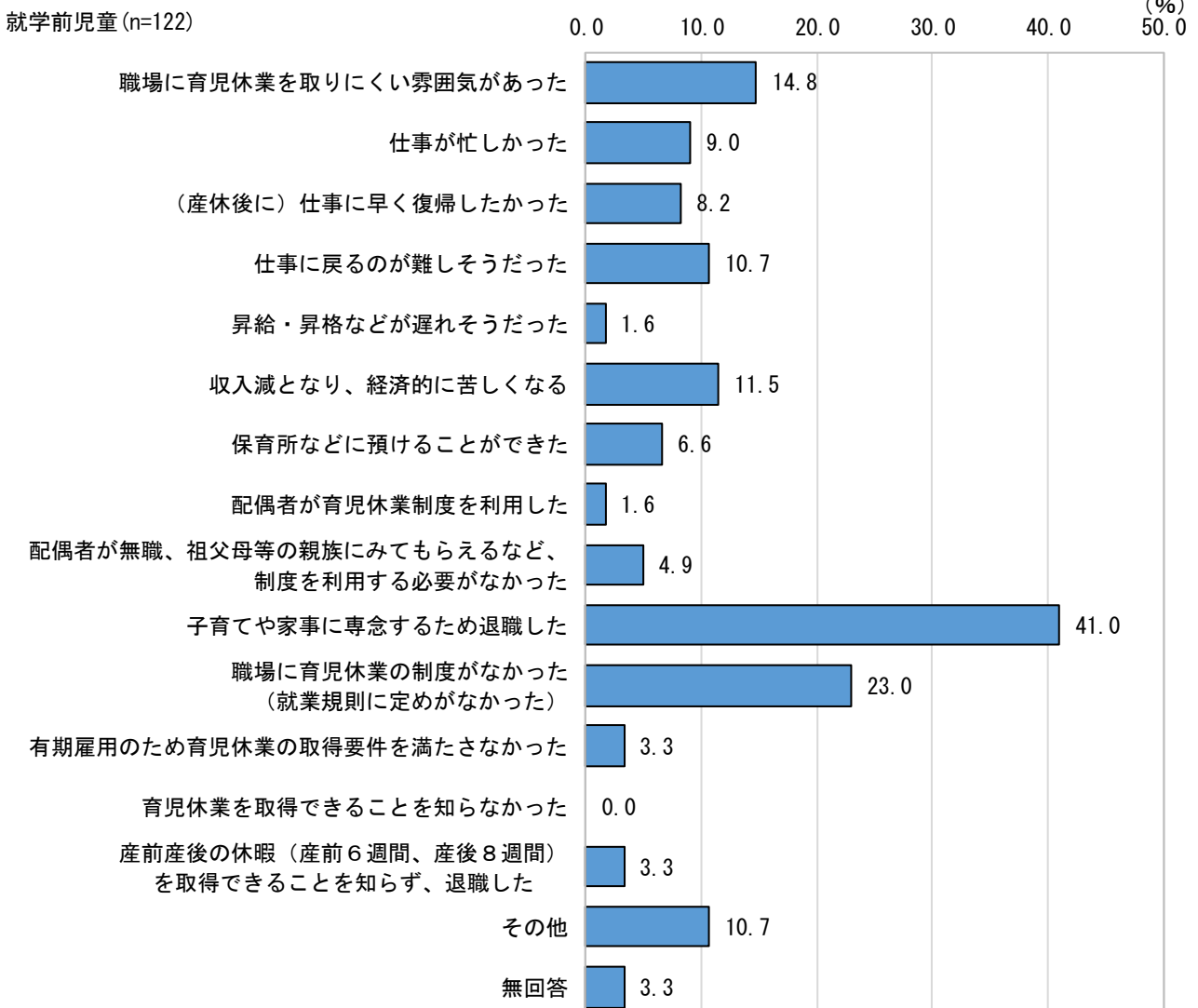
### (1) 母親

子どもが生まれた時、母親の育児休業の取得状況は、「働いていなかった」が最も多く 42.8%、次いで「取得した（取得中である）」が 37.6%、「取得していない」が 16.2%となっています。

また、育児休業を取得していない母親に、取得していない理由について聞いたところ、「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多く 41.0%となっています。



就学前児童	働いていなかった	取得した（取得中である）	取得していない	無回答
平成25年度 (n=918)	54.7	26.7	15.5	-
平成30年度 (n=753)	42.8	37.6	16.2	3.5
0歳 (n=133)	29.3	51.1	15.0	4.5
1歳 (n=146)	37.7	44.5	14.4	3.4
2歳 (n=149)	40.3	40.9	16.8	2.0
3歳 (n=145)	40.0	37.2	20.0	2.8
4歳 (n=194)	46.4	37.6	12.9	3.1
5歳 (n=168)	45.2	31.5	19.0	4.2

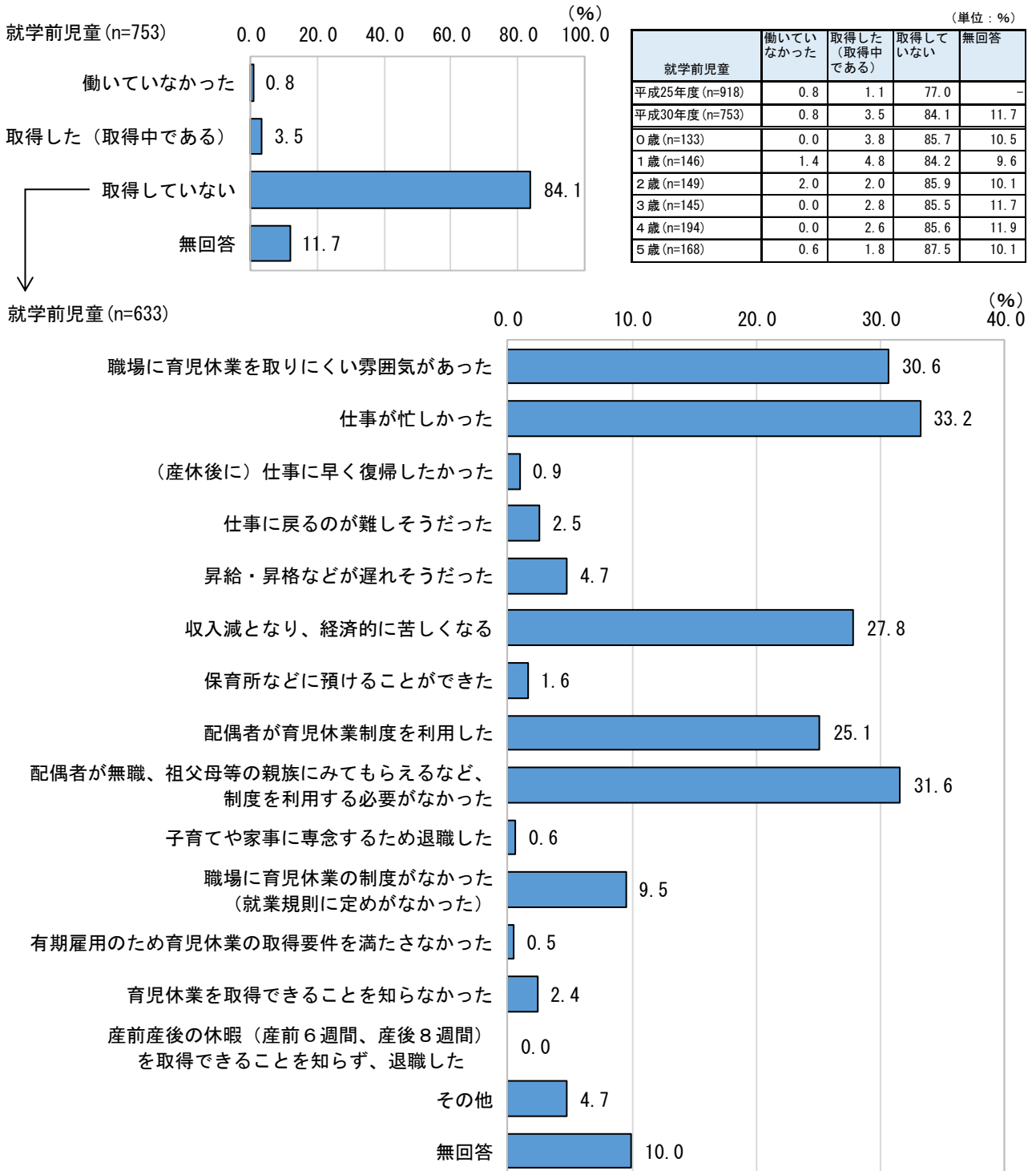




## (2) 父親

子どもが生まれた時、父親の育児休業の取得状況は、「取得していない」が最も多く 84.1%、次いで「取得した（取得中である）」が 3.5%、「働いていなかった」が 0.8%となっています。

また、育児休業を取得していない母親に、取得していない理由について聞いたところ、「仕事が忙しかった」が最も多く 33.2%、次いで「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が 31.6%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 30.6%となっています。

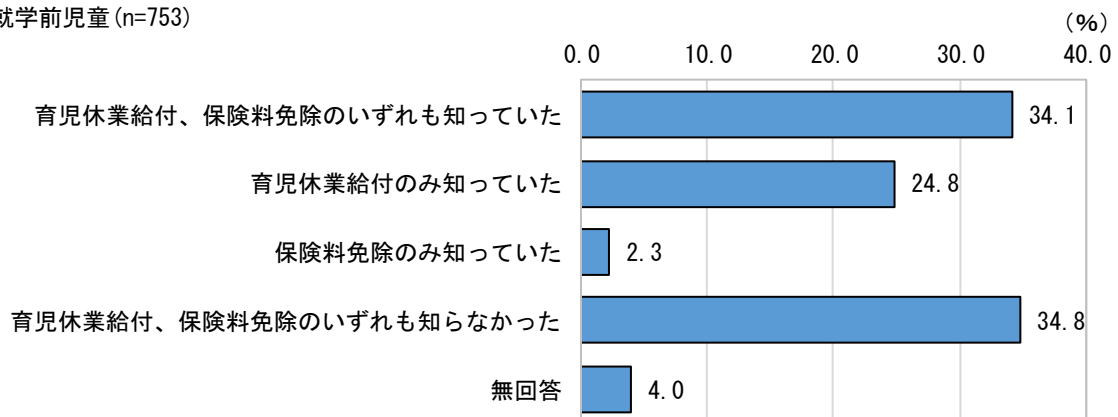


子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことを知っていましたか。

〔就学前児童：問29-1〕

子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みの認知度は、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が最も多く34.8%、次いで「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が34.1%、「育児休業給付のみ知っていた」が24.8%、「保険料免除のみ知っていた」が2.3%、「無回答」が4.0%となっています。

就学前児童 (n=753)

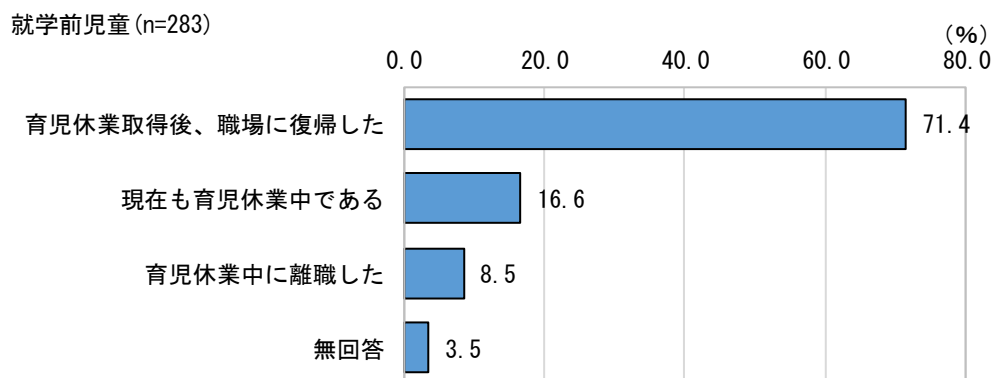


育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

〔就学前児童：問 29-2〕

### (1) 母親

子どもが生まれた時、育児休業を取得した母親に、育児休業取得後の職場復帰状況は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も多く 71.4%、次いで「現在も育児休業中である」が 16.6%、「育児休業中に離職した」が 8.5%となっています。



### (2) 父親

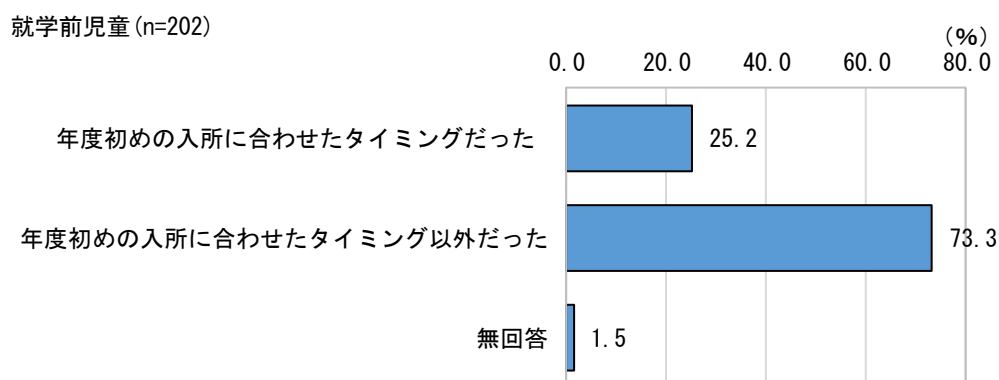
子どもが生まれた時、育児休業を取得した父親は 9 人で、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 9 人となっています。

育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

〔就学前児童：問 29-3〕

### （１）母親

育児休業取得後、職場に復帰した母親に、職場に復帰したタイミングは、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が 25.2%、「年度初めの入所に合わせたタイミング以外だった」が 73.3%となっています。



### （２）父親

育児休業取得後、職場に復帰した父親は 9 人で、職場に復帰タイミングは、「年度初めの入所に合わせたタイミング以外」が 9 人となっています。

育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

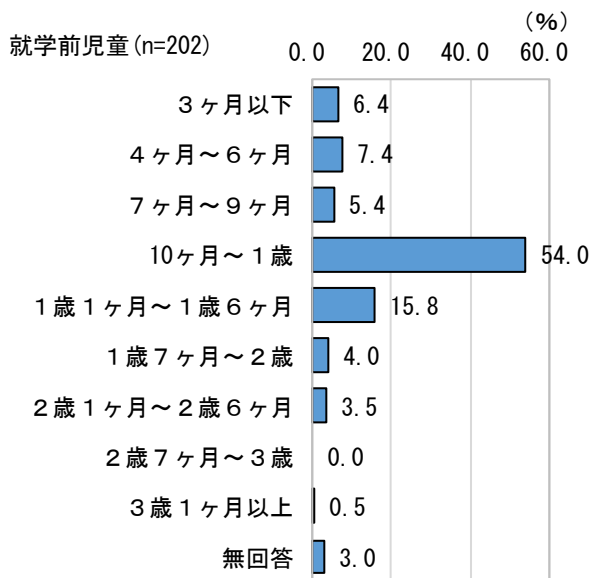
〔就学前児童：問 29-4〕

### (1) 母親

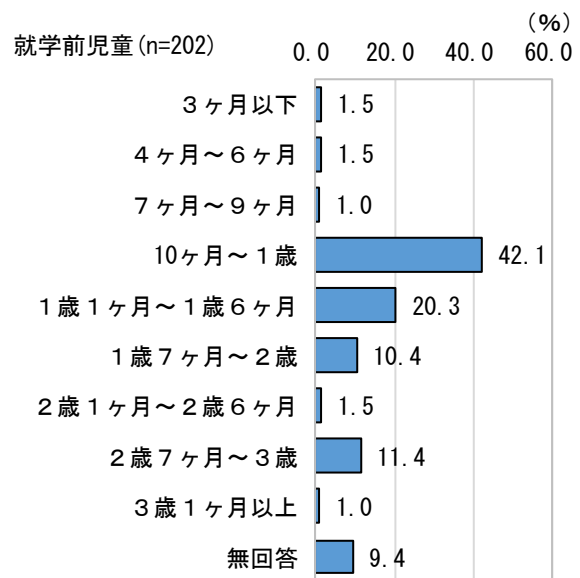
子どもが生まれた時、育児休業を取得した母親に、実際の取得期間について聞いたところ、「10ヶ月～1歳」が最も多く54.0%、次いで「1歳1ヶ月～1歳6ヶ月」が15.8%、「4ヶ月～6ヶ月」が7.4%となっています。

また、希望する取得期間は、「10ヶ月～1歳」が最も多く42.1%、次いで「1歳1ヶ月～1歳6ヶ月」が20.3%、「2歳7ヶ月～3歳」が11.4%となっています。

実際の取得期間



希望の取得期間



### (2) 父親

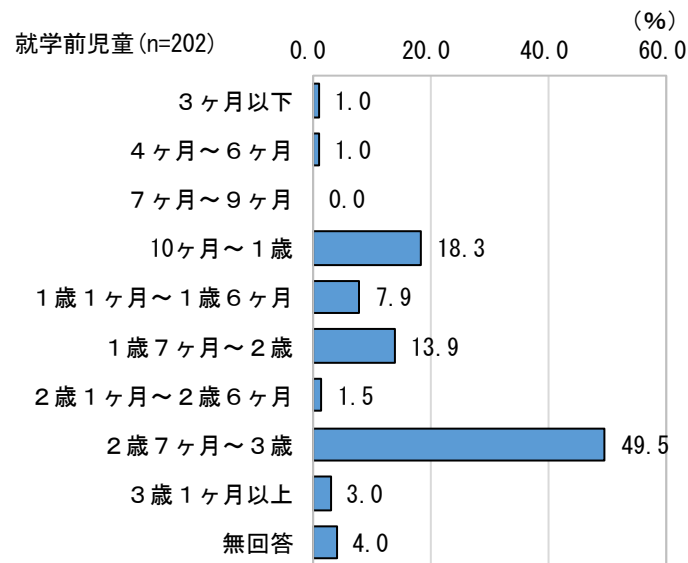
子どもが生まれた時、育児休業を取得した父親は9人で、実際の取得期間は「3ヶ月以下」が5人、「7ヶ月～9ヶ月」が1人、「10ヶ月～1歳」が1人、希望する取得期間は「3ヶ月以下」が3人、「1歳1ヶ月～1歳6ヶ月」が1人となっています。

お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

[就学前児童：問 29-5]

### (1) 母親

子どもが生まれた時、育児休業を取得した母親に、お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、希望する取得期間について聞いたところ、「2歳7ヶ月～3歳」が最も多く49.5%、次いで「10ヶ月～1歳」が18.3%、「1歳7ヶ月～2歳」が13.9%となっています。



### (2) 父親

子どもが生まれた時、育児休業を取得した父親は9人で、お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、希望する取得期間は、「3ヶ月以下」が2人、「6ヶ月～9ヶ月」が1人、「10ヶ月～1歳」が2人、「1歳1ヶ月～1歳6ヶ月」が1人、「2歳7ヶ月～3歳」が1人となっています。

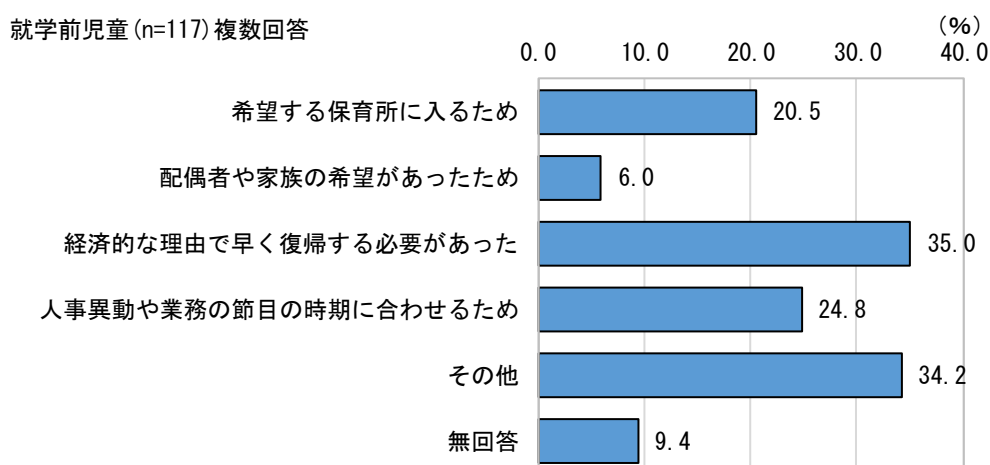
希望の時期に職場復帰しなかった理由についてお答えください。

[就学前児童：問 29-6]

### (1) 「希望」より早く復帰した方

#### ①母親

希望より早く職場に復帰した母親に、希望の時期に職場復帰しなかった理由について聞いたところ、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が最も多く 35.0%、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 24.8%、「希望する保育所に入るため」が 20.5%となっています。



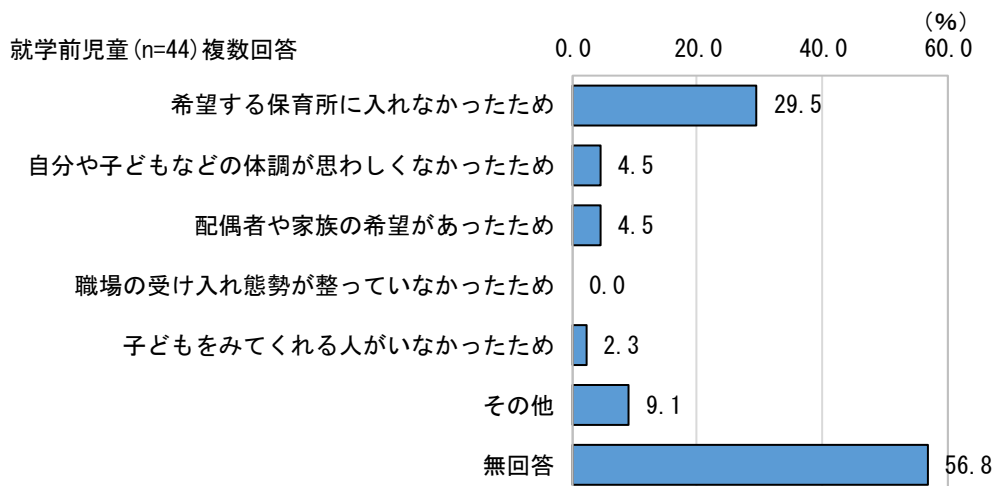
#### ②父親

希望より早く職場に復帰した父親は3人で、希望の時期に職場復帰しなかった理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が2人、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が1人となっています。

## (2) 「希望」より遅く復帰した方

### ①母親

希望より遅く職場に復帰した母親に、希望の時期に職場復帰しなかった理由について聞いたところ、「希望する保育所に入れなかったため」が最も多く 29.5%となっています。



### ②父親

希望より遅く職場に復帰した父親は3人でした。

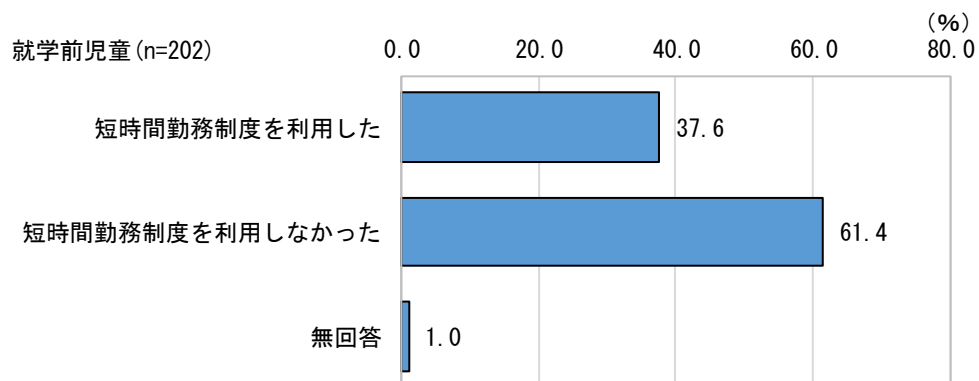


育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。

〔就学前児童：問 29-7〕

### (1) 母親

子どもが生まれた時、育児休業を取得した母親に、育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用の有無は、「短時間勤務制度を利用した」が37.6%、「短時間勤務制度を利用しなかった」が61.4%となっています。



### (2) 父親

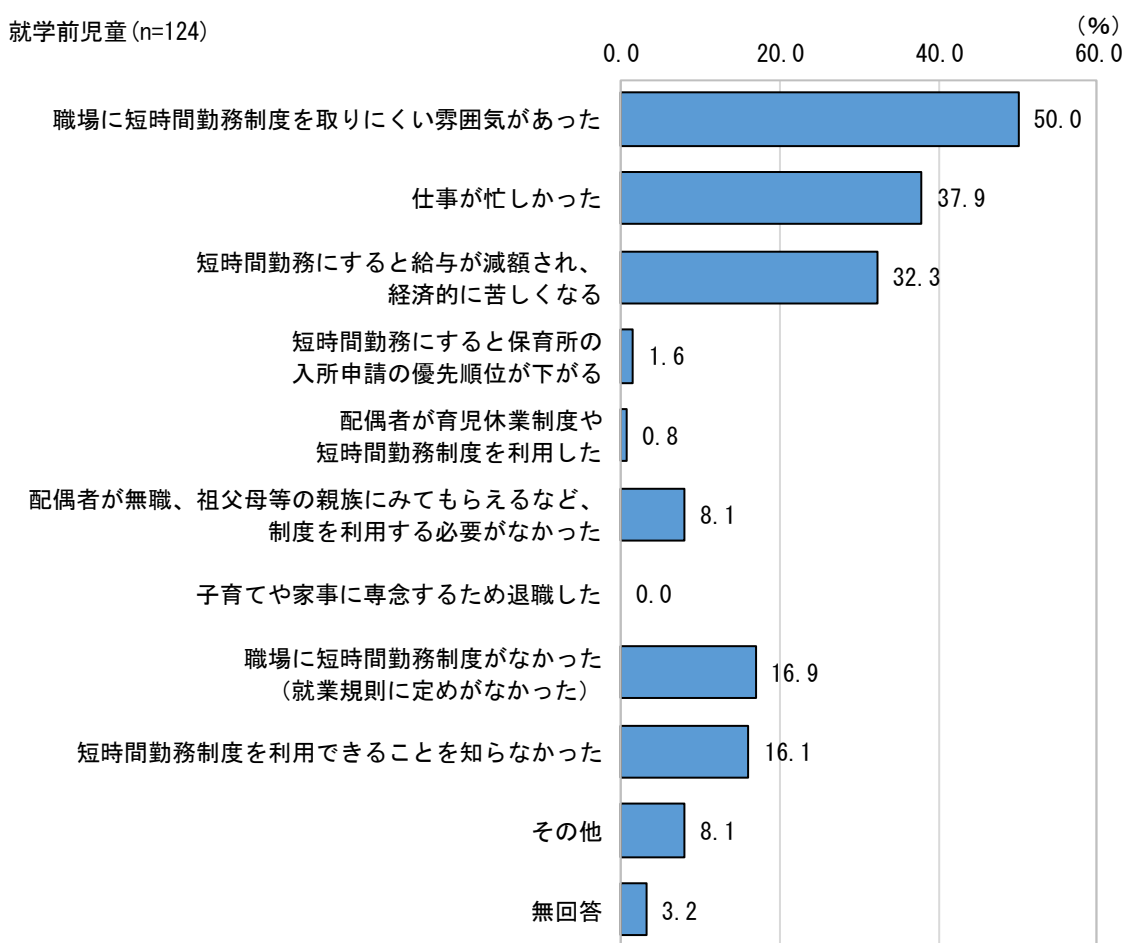
子どもが生まれた時、育児休業を取得した父親は9人で、育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用の有無については、「短時間勤務制度を利用しなかった」が8人となっています。

短時間勤務制度を利用しなかった理由はなんですか。

[就学前児童：問 29-8]

### (1) 母親

育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用しなかった母親に、短時間勤務制度を利用しなかった理由について聞いたところ、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が最も多く50.0%、「仕事が忙しかった」が37.9%、「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」が32.3%となっています。



### (2) 父親

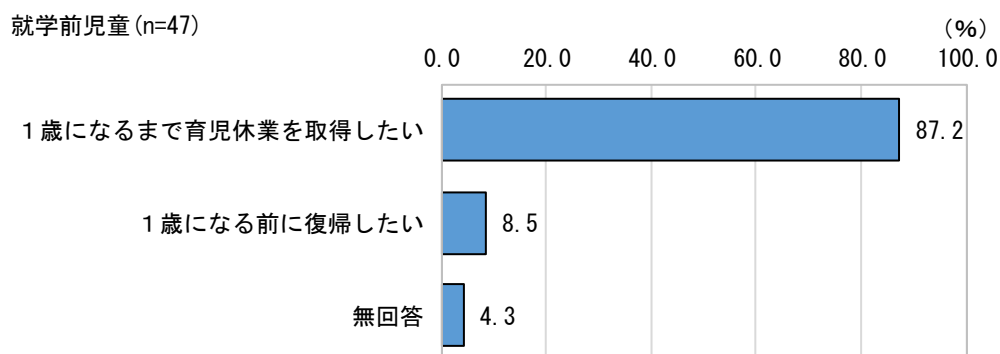
育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用しなかった父親は8人で、短時間勤務制度を利用しなかった理由は、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が2人、「仕事が忙しかった」が4人、「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」が2人、「配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した」が2人、「職場に短時間勤務制度がなかった (就業規則に定めがなかった)」が1人、「短時間勤務制度を利用できることを知らなかった」が1人、「その他」が1人となっています。

お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

[就学前児童：問 29-9]

### (1) 母親

現在も育児休業中である母親に、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかについて、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が87.2%、「1歳になる前に復帰したい」が8.5%となっています。



### (2) 父親

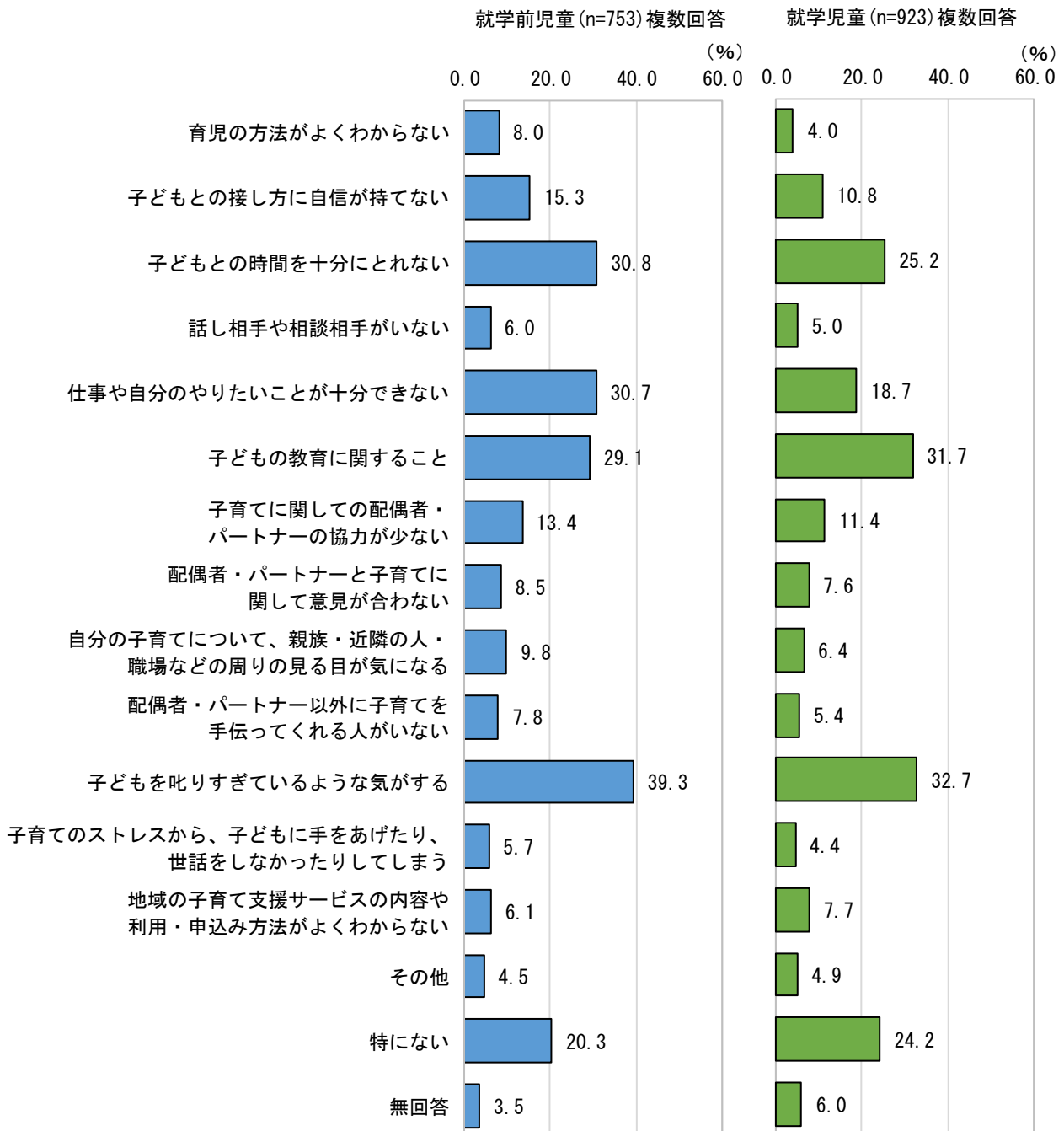
現在も育児休業中である父親はいませんでした。

## 12 子育てや子どもに関する悩みや不安感などについて

子育てに関する悩みや、気になることはどのようなことですか。

[就学前児童：問30、就学児童：問17]

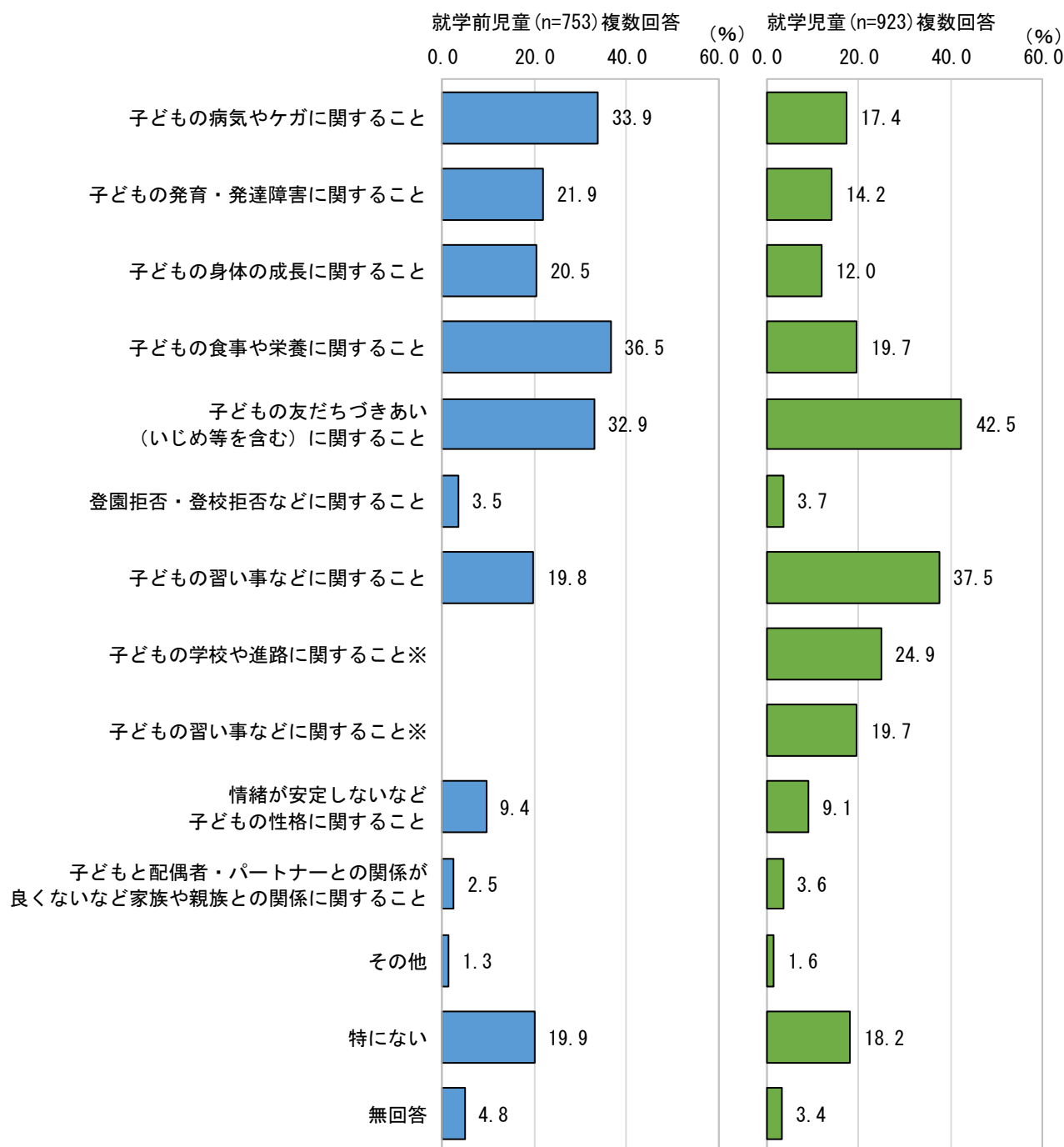
子育てに関する悩みや、気になることは、就学前児童では「子どもを叱りすぎているような気がする」が最も多く39.3%、次いで「子どもとの時間を十分にとれない」が30.8%、「仕事や自分のやりたいことが十分できない」が30.7%、就学児童では「子どもを叱りすぎているような気がする」が最も多く32.7%、次いで「子どもの教育に関すること」が31.7%、「子どもとの時間を十分にとれない」が25.2%となっています。



お子さんに関する悩みや、気になることはどのようなことですか。

[就学前児童：問31、就学児童：問18]

子どもに関する悩みや、気になることは、就学前児童では「子どもの食事や栄養に関すること」が最も多く36.5%、次いで「子どもの病気やケガに関すること」が33.9%、「子どもの友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」が32.9%、就学児童では「子どもの友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」が最も多く42.5%、次いで「子どもの習い事などに関すること」が37.5%、「子どもの学校や進路に関すること」が24.9%となっています。



※就学前児童には選択肢がありません

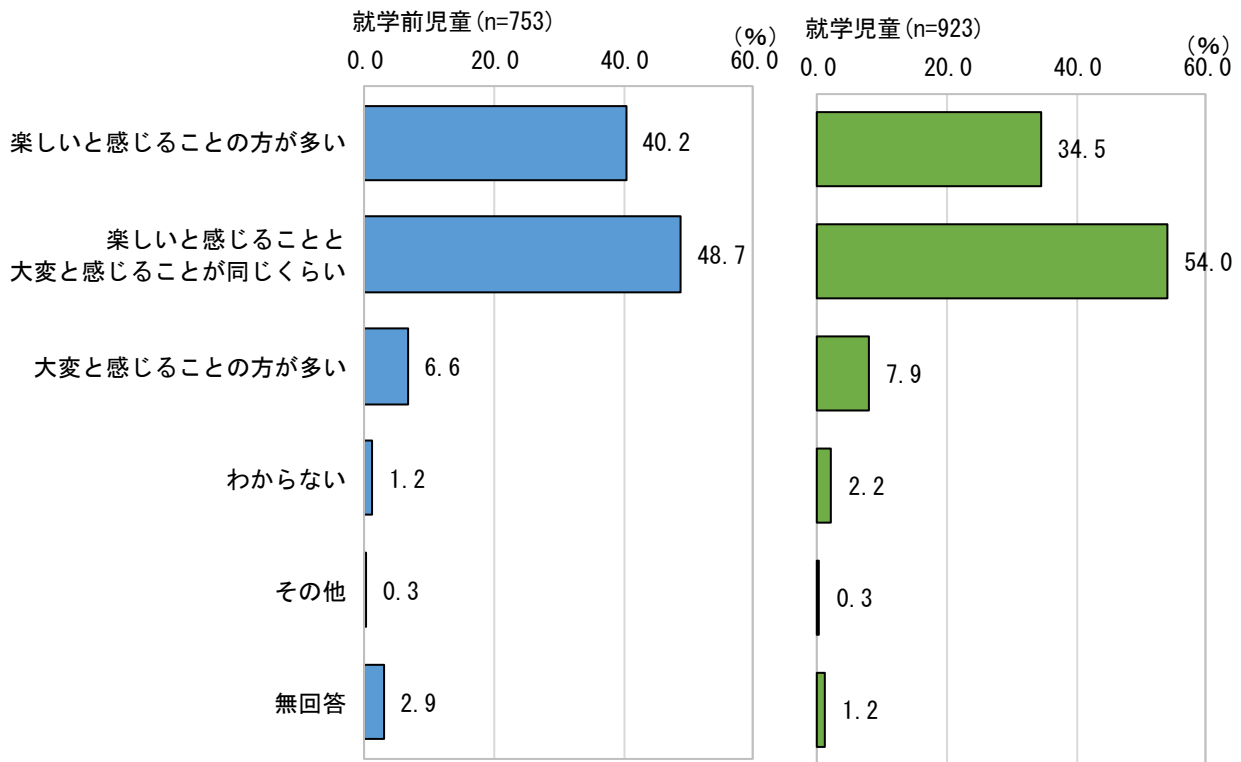
### 13 子育ての楽しさなどについて

あなたは、自分にとって子育てを楽しんでいると感じるときが多いと思いますか。それとも大変と感じるときが多いと思いますか。

〔就学前児童：問 32、就学児童：問 19〕

自分にとって子育ての感じ方は、就学前児童では「楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい」が最も多く 48.7%、次いで「楽しいと感じることの方が多し」が 40.2%、「大変と感じることの方が多し」が 6.6%、就学児童では「楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい」が最も多く 54.0%、次いで「楽しいと感じることの方が多し」が 34.5%、「大変と感じることの方が多し」が 7.9% となっています。

また、平成 25 年度調査結果と比較すると、「楽しいと感じることの方が多し」では、就学前児童・就学児童ともに増加しています。



(単位：%)

対象	楽しいと感じることの方が多し	楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい	大変と感じることの方が多し	わからない	その他	無回答
就学前児童						
平成25年度 (n=918)	36.5	52.6	8.6	1.3	0.0	-
平成30年度 (n=753)	40.2	48.7	6.6	1.2	0.3	2.9
0歳 (n=133)	48.9	43.6	3.8	0.0	0.0	3.8
1歳 (n=146)	47.3	43.2	5.5	2.1	0.0	2.1
2歳 (n=149)	39.6	51.7	5.4	0.7	0.0	2.7
3歳 (n=145)	41.4	42.8	10.3	1.4	1.4	2.8
4歳 (n=194)	31.4	56.7	7.7	1.5	0.0	2.6
5歳 (n=168)	31.5	57.1	5.4	1.2	0.6	4.2
6歳 (n=115)	36.5	52.2	7.0	0.0	0.0	4.3

(単位：%)

対象	楽しいと感じることの方が多し	楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい	大変と感じることの方が多し	わからない	その他	無回答
就学児童						
平成25年度 (n=1283)	28.4	57.3	9.4	3.4	0.4	-
平成30年度 (n=923)	34.5	54.0	7.9	2.2	0.3	1.2
1年生 (n=193)	35.2	57.5	4.7	1.6	0.0	1.0
2年生 (n=200)	38.5	49.5	9.5	1.5	0.0	1.0
3年生 (n=210)	33.3	53.8	9.5	1.4	0.5	1.4
4年生 (n=215)	31.2	55.3	10.2	1.9	0.0	1.4
5年生 (n=190)	35.3	52.1	8.4	2.1	1.1	1.1
6年生 (n=195)	33.8	57.9	4.1	4.1	0.0	0.0

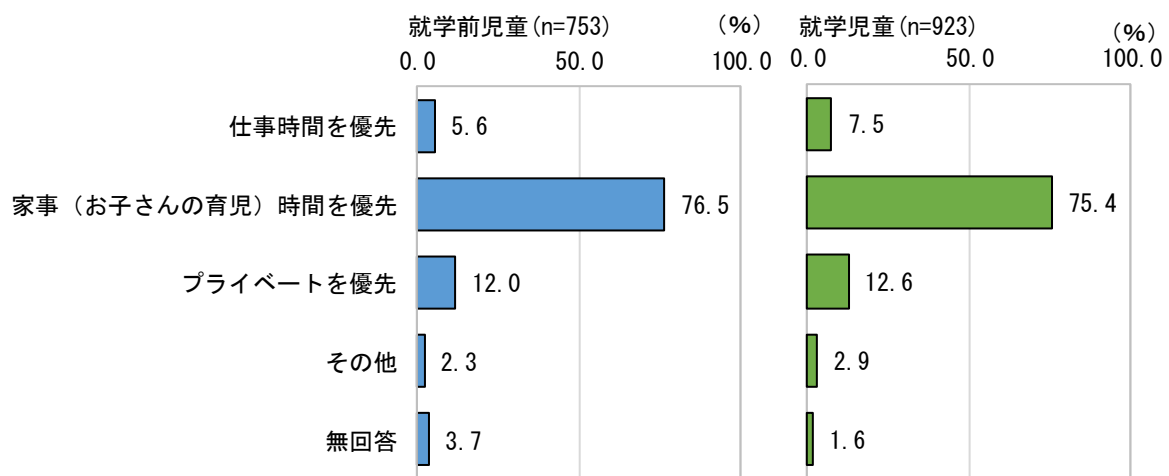
## 14 時間の優先度について

あなたの生活の中で、「仕事時間」と「家事（お子さんの育児）・プライベートの生活時間」の優先度についてお答えください。

[就学前児童：問 33、就学児童：問 20]

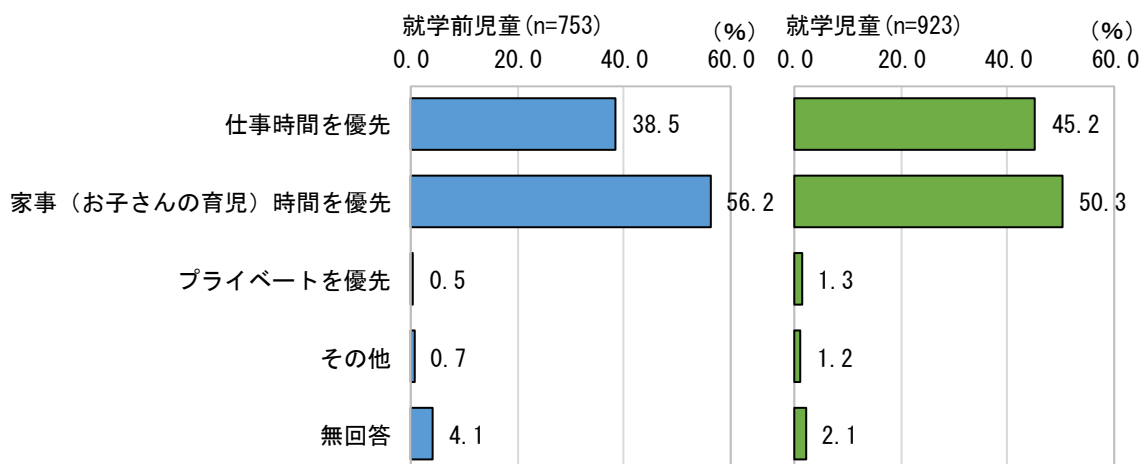
### (1) 希望

「仕事時間」と「家事（お子さんの育児）・プライベートの生活時間」の希望の優先度は、就学前児童では「家事（お子さんの育児）時間を優先」が最も多く 76.5%、次いで「プライベートを優先」が 12.0%、「仕事時間を優先」が 5.6%、就学児童では「家事（お子さんの育児）時間を優先」が最も多く 75.4%、次いで「プライベートを優先」が 12.6%、「仕事時間を優先」が 7.5%となっています。



### (2) 現実

「仕事時間」と「家事（お子さんの育児）・プライベートの生活時間」の現実の優先度は、就学前児童では「家事（お子さんの育児）時間を優先」が最も多く 56.2%、次いで「仕事時間を優先」が 38.5%、「プライベートを優先」が 0.5%、就学児童では「家事（お子さんの育児）時間を優先」が最も多く 50.3%、次いで「仕事時間を優先」が 45.2%、「プライベートを優先」が 1.3%となっています。

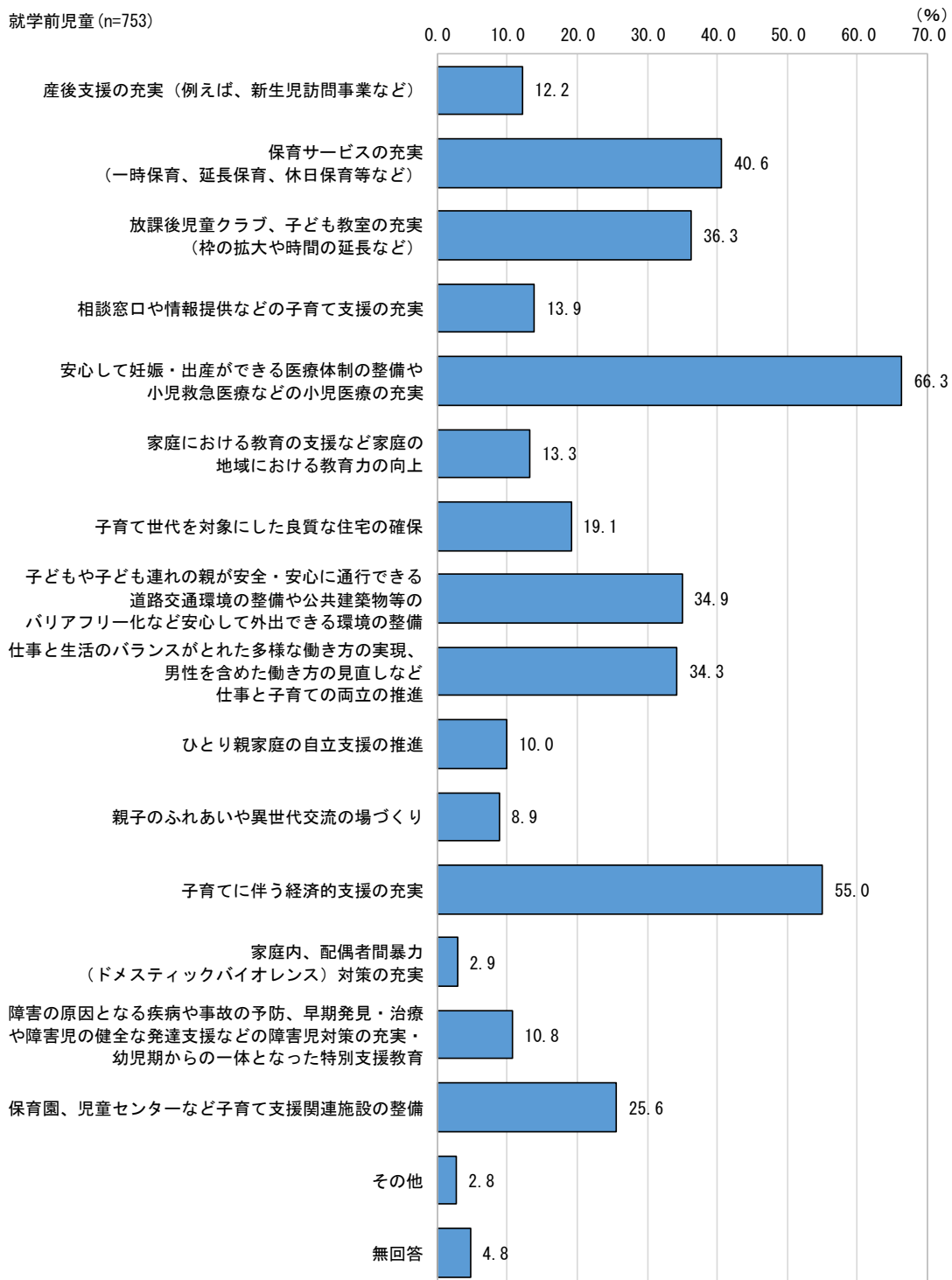


## 15 子どもに関する施策について

子育て支援の環境づくりに対する施策について、市が重点的に取り組む必要が高いと思われるものは何だと思えますか。

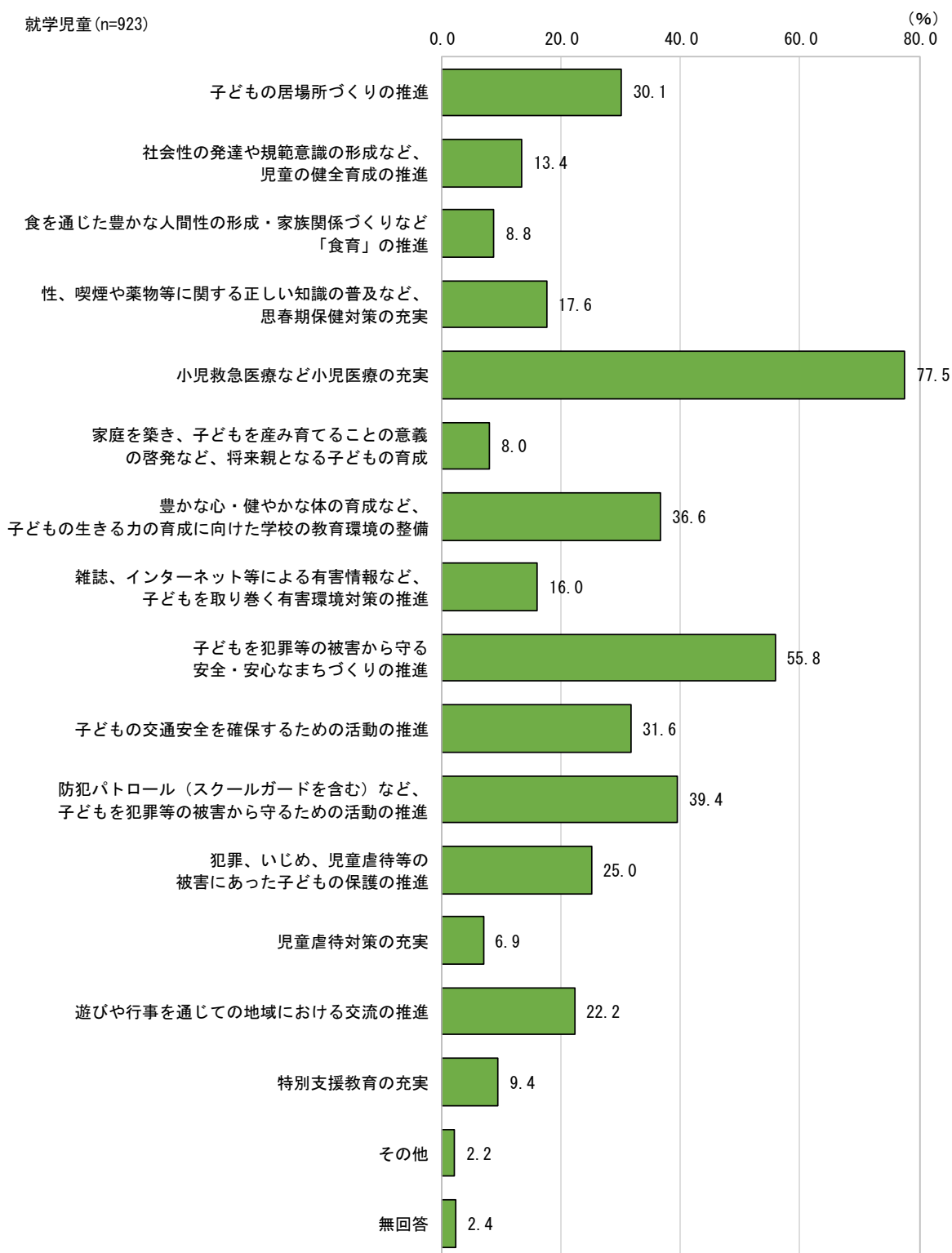
[就学前児童：問 34]

子育て支援の環境づくりに対する施策について、市が重点的に取り組む必要が高いものは、就学前児童では「安心して妊娠・出産ができる医療体制の整備や小児救急医療などの小児医療の充実」が最も多く66.3%、次いで「子育てに伴う経済的支援の充実」が55.0%、「保育サービスの充実（一時保育、延長保育、休日保育等）」が40.6%となっています。





子育て支援の環境づくりに対する施策について、市が重点的に取り組む必要が高いものは、就学前児童では「小児救急医療など小児医療の充実」が最も多く 77.5%、次いで「子どもを犯罪等の被害から守る安全・安心なまちづくりの推進」が 55.8%、「防犯パトロール（スクールガードを含む）など、子どもを犯罪等の被害から守るための活動の推進」が 39.4%となっています。



最後に、北茨城市では子育て支援を保護者の方々・市民の皆様方と一緒に子育て環境について考えていきたいと思っております。つきましては、教育・保育環境の充実など、市民が参加できる内容も含め、ご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

[就学前児童：問 35、就学児童：問 22]

自由記入形式により 486 人（就学前児童が 236 人、就学児童が 250 人）から 692 件（就学前児童が 339 件、就学児童が 353 件）の意見を得ました。内容は以下のとおりです。

	就学前児童	就学児童	合計
医療機関、医療費補助、検診(訪問・相談)等の充実	59	47	106
入園条件、保育料等の見直し	22	5	27
開始終了の時間延長、一時・短期・病児・夜間・休日・長期休暇中・警報時の受け入れ	3	0	3
保育所の増設、設備(人員の量質向上・内容改善・設備の修繕・行事を休日に)等の充実	7	1	8
一時預かり事業、病児・病後児保育事業、延長保育事業の充実等	30	9	39
放課後児童クラブの増設、設備・人員の量質向上、内容等の充実	7	27	34
一時利用、休日・長期休暇中の実施、時間延長、警報時の実施	8	11	19
利用条件、利用料等の見直し(対象年齢の引き上げ、未就労時、日割り・時間単位料金)	10	16	26
教育の内容充実と見直し、設備充実、警報時の対応改善(時間まで学校で待機等)	5	23	28
登下校時の安全確保、放課後に校庭・体育館・プールの等の開放	1	28	29
いじめ対策	1	5	6
P T A 役員等保護者の負担軽減、行事・面談などの休日実施	3	4	7
ファミリー・サポート・センター事業、地域子育て支援拠点事業の充実	21	7	28
子育て支援に関する情報(支援給付や保育料免除等)の周知、相談先の充実	16	4	20
公園、児童館・児童センターの増設と設備と内容の改善、公民館等の開放	42	53	95
子育て支援の強化、支援条件の見直し、児童手当等各種サービス利用料の見直し	19	16	35
障害児への支援、設備等の充実	5	3	8
公共交通機関の充実、歩道の整備・通学路の安全確保	15	24	39
育児休業制度の改善、短時間勤務制度の延長利用等	3	1	4
企業への子育て支援の啓発活動、企業による子育て世帯への取り組み充実	10	3	13
育児しながら働きやすい環境、復職支援	4	4	8
地域によって差がある子育て支援の見直し	48	62	110
その他	59	47	106
合計	339	353	692

## IV 参考資料（調査票）

### 1 就学前児童用調査票（0歳～6歳）

## 2 就学児童用調査票（小学校 1 年生～ 6 年生）